

調査報告書

家づくりにおける家族コンセンサス調査

同居・近居

家事と子育ての親子コラボレーション調査

旭化成ホームズ株式会社

くらしノバージョン研究所





この数十年の間、若年家族の暮らしは、夫婦と子を中心として成り立つ核家族の暮らしが一般化しました。しかし、一方で、核家族化とともに「夫婦と子」以外の親や兄弟姉妹・親族との関係性が曖昧になり、さまざまな社会的問題が現在は認識されています。

子育てに関しては、母子の密室化の問題と共に、近年では共働きが増加したことによる社会システム整備の遅れが指摘されています。また、介護についても同様に、急激に高齢化が進み、家族だけでも、外部サービスだけでも対応ができなくなりつつある現状です。最近では、ニュータウンや高齢化が進んだ地域などで空き家が増えることが予想されるため、資産の流動性や街の防犯性などの問題が懸念されています。

このように、新しいライフスタイルとして一般化した核家族の姿は、一方で各所に問題をはらんでいるように見えます。しかし今回の研究結果より、家族の暮らし実態を丁寧に見ていくと、夫婦と子を中心として一夫婦一住戸の関係だけで成り立っているように見える暮らしにも、実は周囲の徒歩圏から電車で1時間かかるような距離までも、親子ネットワークは臨機応変に存在していることがわかりました。

この親子ネットワークの存在と、近年の地価下落や、ニュータウン世代の高齢化なども影響し、いま、親世帯と子世帯がより近い距離に住む（近居をする）現象が増えています。

旭化成ホームズでは、1975年以来、社会背景から生まれる住ニーズに基づき、一体同居と近居の中間の住居形態として、二世帯住宅の提供を続け、40年の間、その暮らしを追いながら研究を続けてきました。

本報告書は、同居から近居、遠居へと研究範囲を拡大し、家族の間の協力の実態を明らかにすることを目的として、特に、家づくりのステージにおける家族のコンセンサス形成について、また暮らしがスタートしたのちの家事や子育ての親子コラボレーション（親子協力）の実態について、調査研究を進めた結果をまとめたものになります。

家づくりを考え始めたときから、親や兄弟姉妹を含めた家族との関係をスムーズにしながら進め、また暮らし始めてのちも良好な家族関係を築いていくために、より良い家づくりのスタートとして、本研究がお役にたてれば幸いに存じます。

2016年8月

旭化成ホームズ株式会社
二世帯住宅研究所

序章

1) 旭化成の二世帯住宅に対するこれまでの取り組みと社会背景	12
2) 調査概要	15

1章 家づくりにおける家族コンセンサス調査

1-1) 同居・近居を切り出したのは子世帯・親世帯、どちらから？ <同居・近居 比較編>	20
1-2) 同居を切り出したのは子世帯・親世帯、どちらの世帯から？ <同居 詳細編>	22
1-3) 近居・遠居の場合に自宅の建設地を提案したのは誰？ <近居・遠居 詳細編>	26
2-1) 「別居の親」との家づくりコンセンサス <同居・近居 比較編>	30
2-2) 親と同居する場合の「別居の親・兄弟姉妹」とのコンセンサス <同居 詳細編>	32
2-3) 「親と別居」をする場合の親とのコンセンサス <近居・遠居 詳細編>	34
3-1) 家づくりの資金面における親子コラボレーション <同居編>	36
3-2) 家づくりの資金面における親子コラボレーション <近居・遠居編>	38
4) 相続に関する考え <同居・近居 比較編>	42
5) 介護に関する考え <同居・近居 比較編>	44
6-1) 同居・近居の決め手となったもの・こと <同居編>	46
6-2) 同居・近居の決め手となったもの・こと <近居・遠居編>	50
7) 同居・近居などの親との距離と住まいに関する情報収集	58

2章 同居・近居 家事と子育ての親子コラボレーション調査

1) 同居・近居の選択理由	62
2) 親から子世帯へ、子育て協力の親子コラボレーション	66
3) 親から子世帯へ、家事協力の親子コラボレーション	70
4) 子世帯から親へ、家事協力の親子コラボレーション	74
5) 親と子世帯の交流パターン	78

3章 近居の住ニーズと二世帯住宅のコラボレーション

1) 住まいの距離を超えて広がる親子コラボレーション	80
2) 近居の住ニーズから生まれる二世帯住宅の提案	82
参考) 親子同居の7原則／「ヘーベルハウスの二世帯百科」より	83

概要

1章 家づくりにおける家族コンセンサス調査

1) 同居・近居を切り出したのは子世帯・親世帯、どちらから？

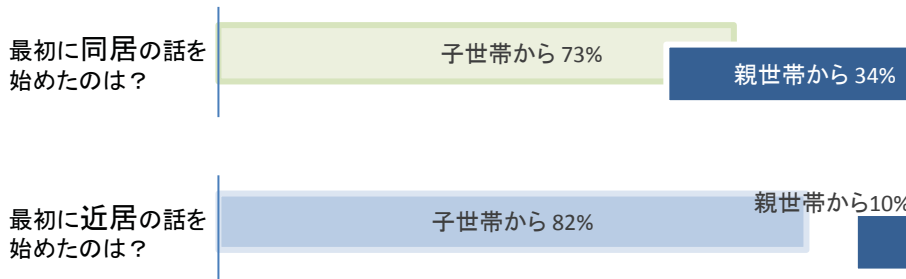
p.20へ



同居の話は7割が子世帯から、近居の話は8割が子世帯から切り出している



◇ 同居・近居の提案を最初にした世帯（子世帯から／親世帯から）

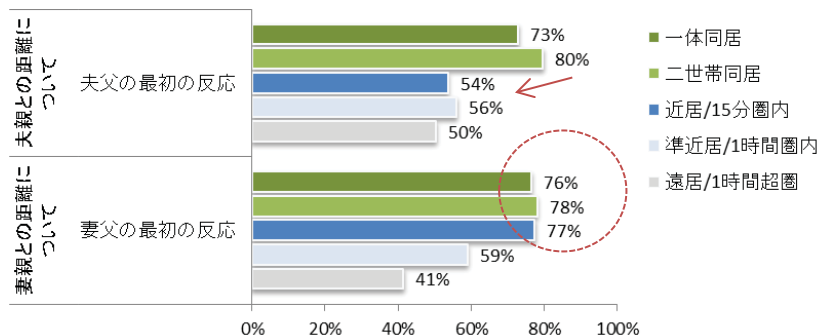


※ 子世帯、親世帯にはそれぞれ、両世帯からの回答を含む

p.21へ

妻の父は、子世帯との同居・近居に対して7割強が「最初から賛成」

◇ 子世帯との同居・近居・遠居に親世帯の父が「最初から賛成」である割合



p.21へ

子世帯が親世帯との同居や近居にあたって、心配だと感じることはあまり変わらない

◇ 子世帯が親世帯との同居・近居にあたって心配だと感じたこと



	一体同居		二世帯同居		近居／15分圏内	
	夫親への不安	妻親への不安	夫親への不安	妻親への不安	夫親への不安	妻親への不安
1位	何かと気を遣う (29%)	何かと気を遣う (30%)	何かと気を遣う (36%)	何かと気を遣う (26%)	何かと気を遣う (15%)	干渉が嫌だ (11%)
2位	干渉が嫌だ (23%)	干渉が嫌だ (17%)	干渉が嫌だ (31%)	家族間のコンセンサス(24%)	干渉が嫌だ (14%)	親に頼って生活しそう(9%)
3位	親世帯と生活時間が違う (15%)	親世帯と生活時間が違う (15%)	親世帯と生活時間が違う (18%)	干渉が嫌だ (22%)	介護を期待されると困る(13%)	介護を期待されると困る(8%)

概要

1章 家づくりにおける家族コンセンサス調査

2) 「別居の親」との家づくりコンセンサス

p.30へ

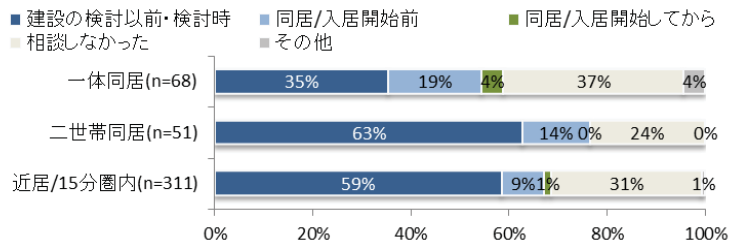


別居の親への相談は、「建設の検討以前・検討時」の早目にするか、「相談しない」かの両極

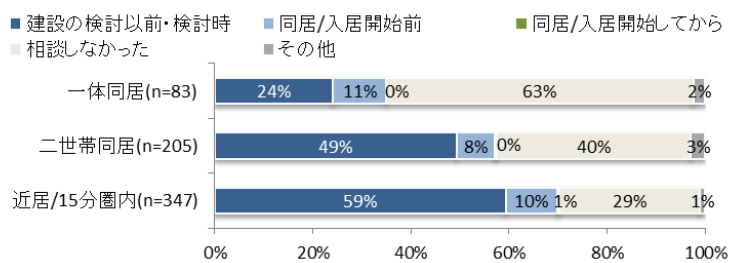
◇ 別居親への同居／近居に関する相談時期（子世帯回答）



別居の
父親への相談



別居の
妻親への相談



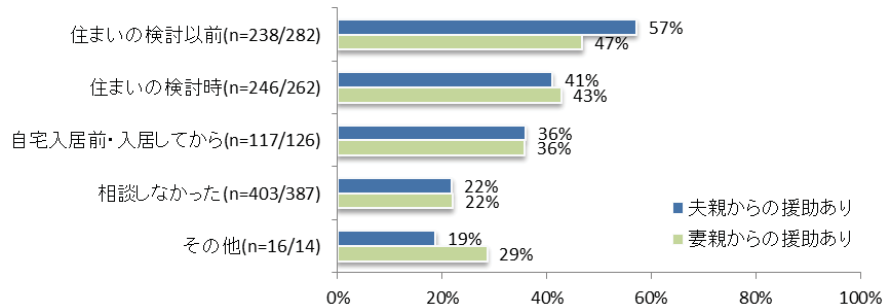
※ 同居/入居開始前とは 「建設の契約前」「工事が始まる前」「それ以外で同居/入居開始前」の合計

p.35へ

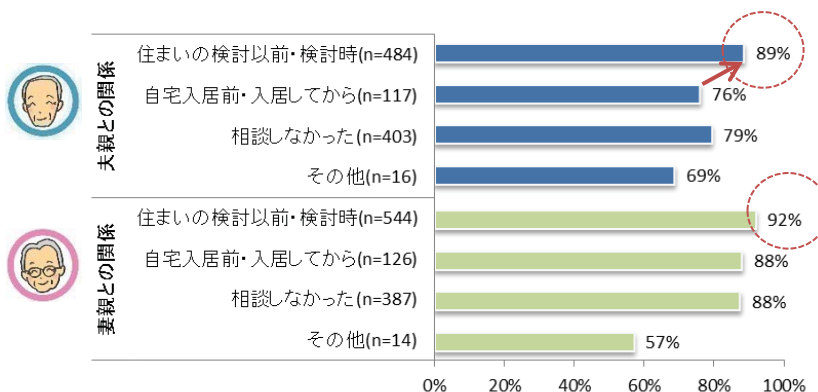


別居の親への住まいの建設・入手に関する相談時期は援助にも、その後の満足度にも関係あり

◇ 住まいの建設・入手に関する別居親への相談時期と援助の関係



◇ 住まいの建設・入手に関する別居親への相談時期と現在の親との関係に対する満足度



概要

1章 家づくりにおける家族コンセンサス調査

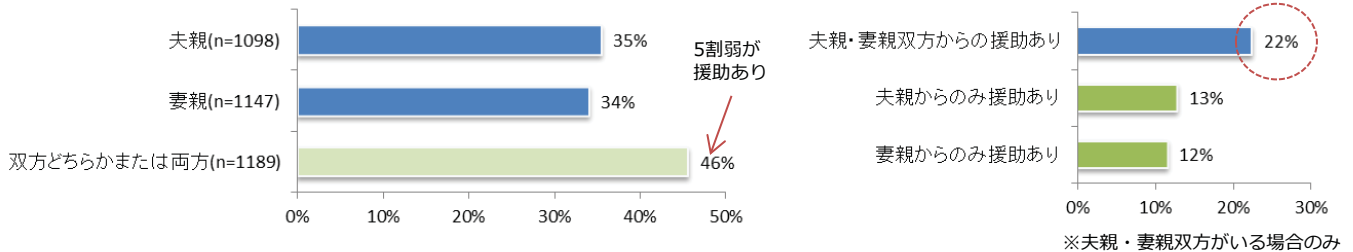
3) 家づくりの資金面における親子コラボレーション〈近居・遠居編〉

p.38,39へ



5割弱が自宅取得のために、別居の親から援助を受けているが、2割は夫親からも妻親からも援助あり

◇ 別居の夫親・妻親から自宅取得のための援助がある割合

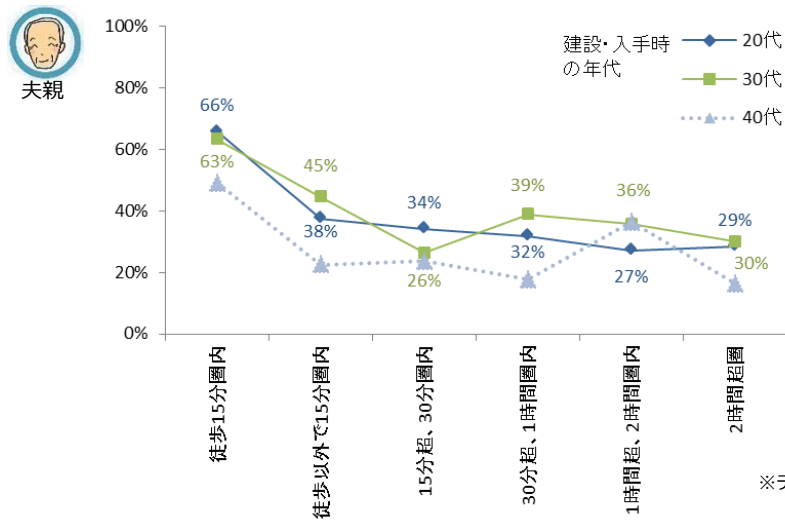


p.40へ



親の住まいと徒歩15分圏内の場合には、親からの援助を受ける割合が特に高い

◇ 年代別・夫親との距離別 夫親から住宅取得資金・土地援助がある割合

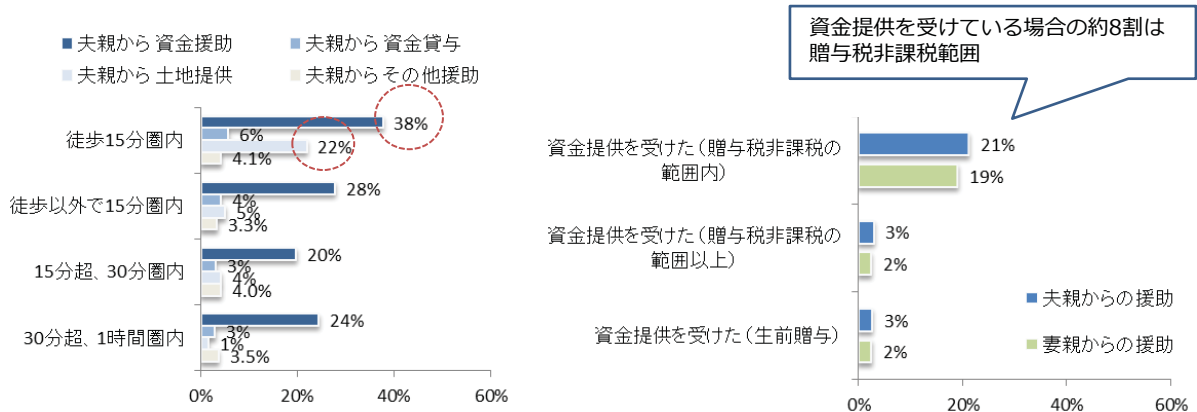


p.41へ



援助の種類は「資金提供」が最も多く、そのうち約8割は贈与税非課税範囲内

◇ 別居の夫親・妻親からの資金・土地援助と住まいの距離の関係



概要

1章 家づくりにおける家族コンセンサス調査

4)~5)省略

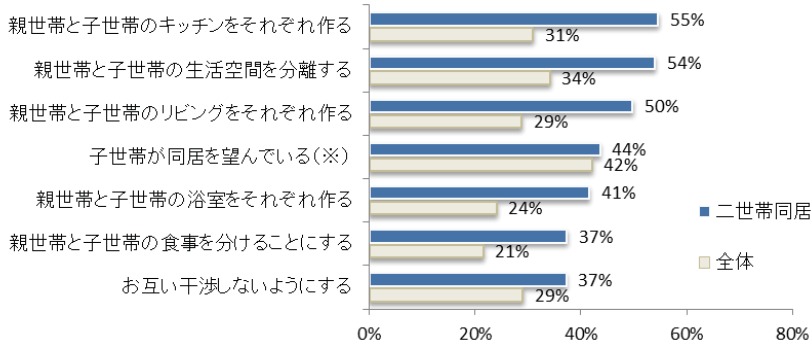
6) 同居・近居の決め手となったもの・こと

p.46へ



同居に踏み切った決め手は、「子世帯の希望」と「親世帯と子世帯の生活空間を分け、リビングやキッチン、浴室が2つあること」

◇ 同居の決め手となったもの・こと

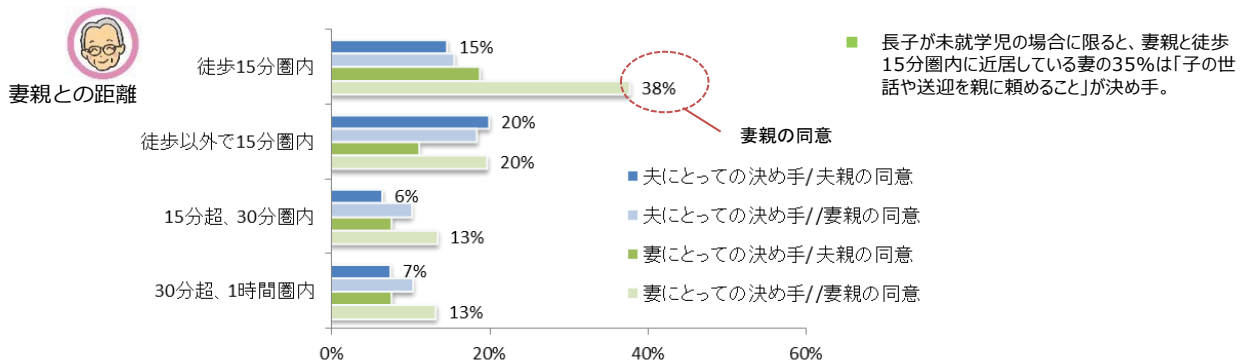


p.50へ



徒歩15分圏内に近居している妻の決め手は、「妻親の同意」が4割と多い

◇ 親との近居の決め手が「親の同意」である割合

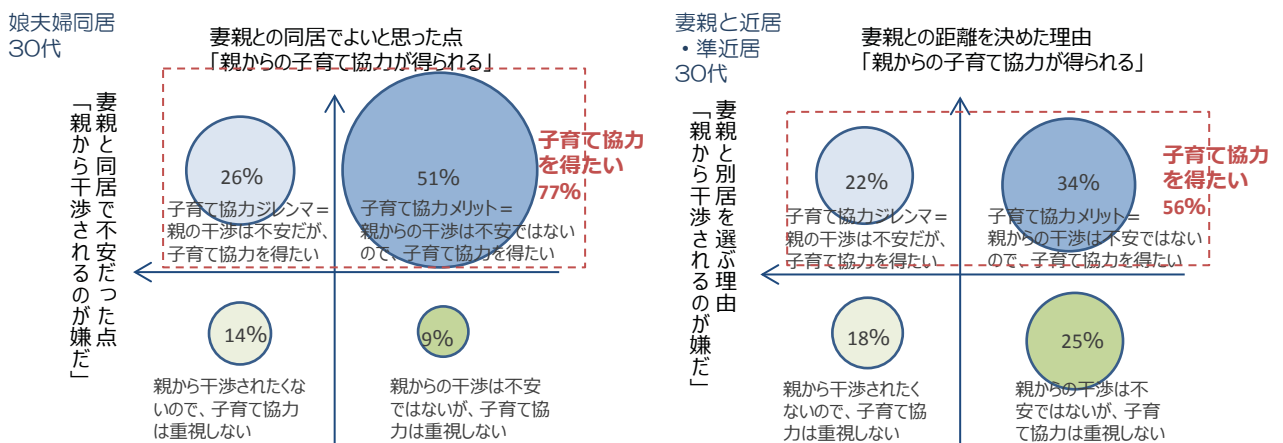


p.52へ



同居と近居は、子育て協力ニーズと干渉不安のバランスで選択される

◇ 子育て協力ニーズと親からの干渉不安マトリクス/30代



概要

2章 同居・近居 家事と子育ての親子コラボレーション調査

1), 5)省略

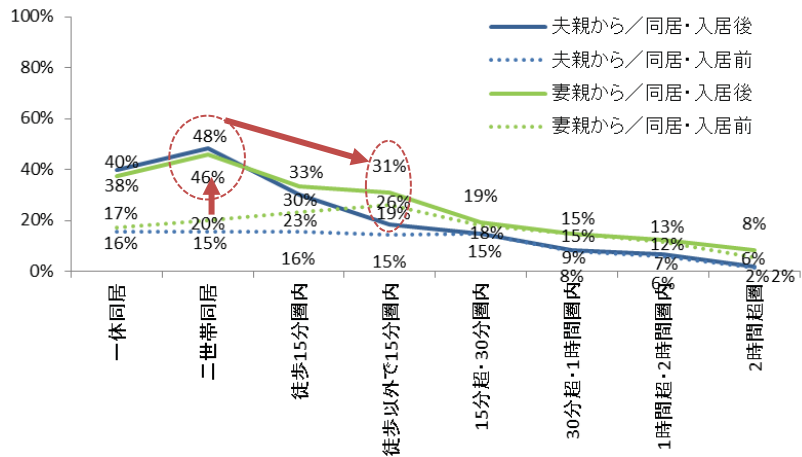
2) 親から子世帯へ、子育て協力の親子コラボレーション

p.66へ



夫親の協力は同居から徒歩15分圏内、妻親の協力は移動手段問わず15分圏内が子育て協力圏

◇ 親との距離別 親から子育て協力を受けている割合



3) 親から子世帯へ、家事協力の親子コラボレーション

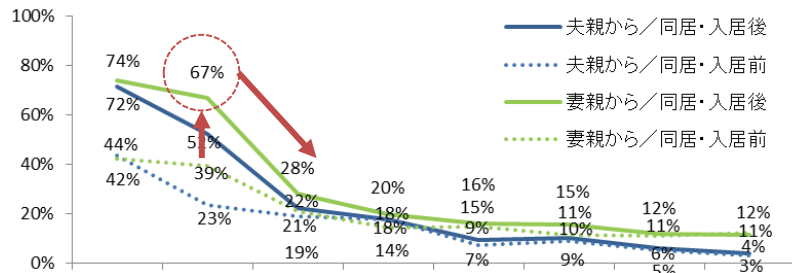
4) 子世帯から親へ、家事協力の親子コラボレーション

p.70,74へ

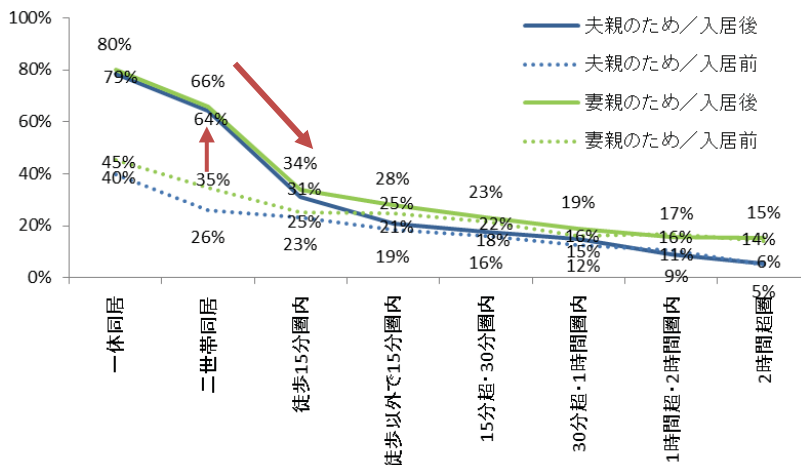


子世帯と親との間の家事協力は、同居で多く近居とは大きな違いがある

◇ 親との距離別 親から子世帯への家事協力がある割合（孫の世話を除く）



◇ 親との距離別 子世帯から親への家事協力がある割合



概要

2章 同居・近居 家事と子育ての親子コラボレーション調査

3) 4) つづき

p.76へ

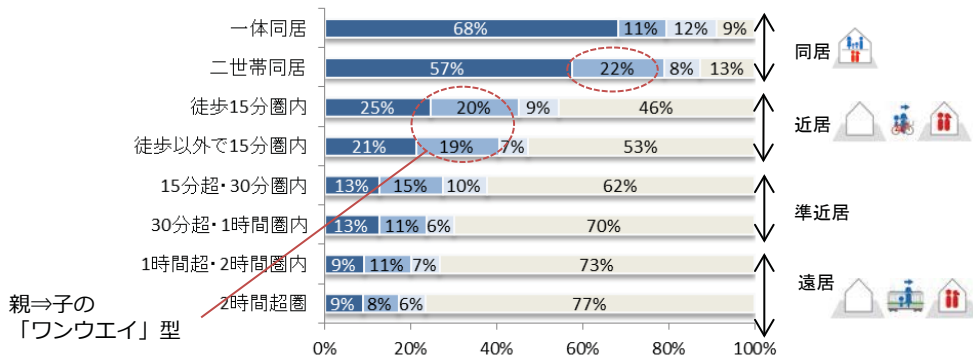


一体同居は、「子世帯のための家事・子育て」と「親のための家事」はギブアンドテイク
二世帯同居・近居では、2割の子世帯が親世帯から「ワンウェイ」型で家事・子育て協力を受ける

◇ 妻親との距離別

子世帯から親への家事協力・親から子世帯への家事・子育て協力がある割合(娘夫婦)

- 妻親の家事もするし、家事・子育て協力も受ける
- 妻親の家事はせず、家事・子育て協力を受ける
- 妻親の家事はするが、家事・子育て協力は受けない
- 妻親の家事もしないし、家事・子育て協力も受けない

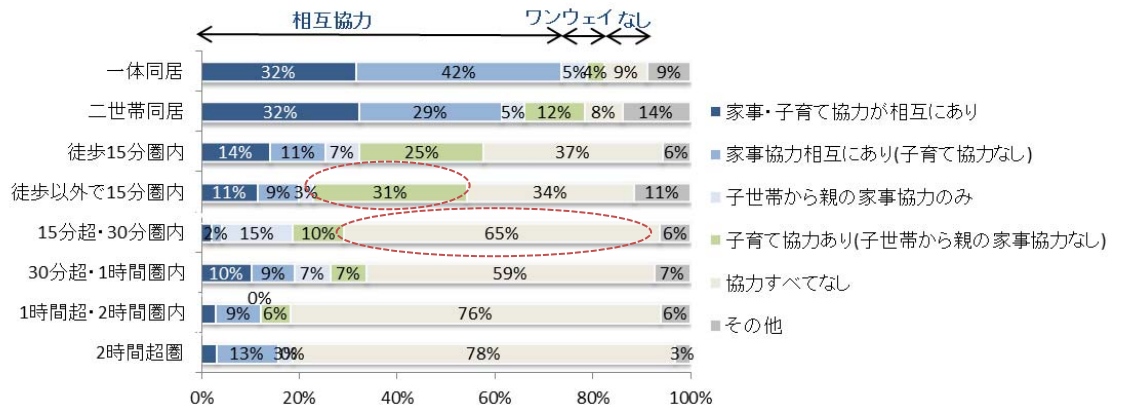


p.77へ

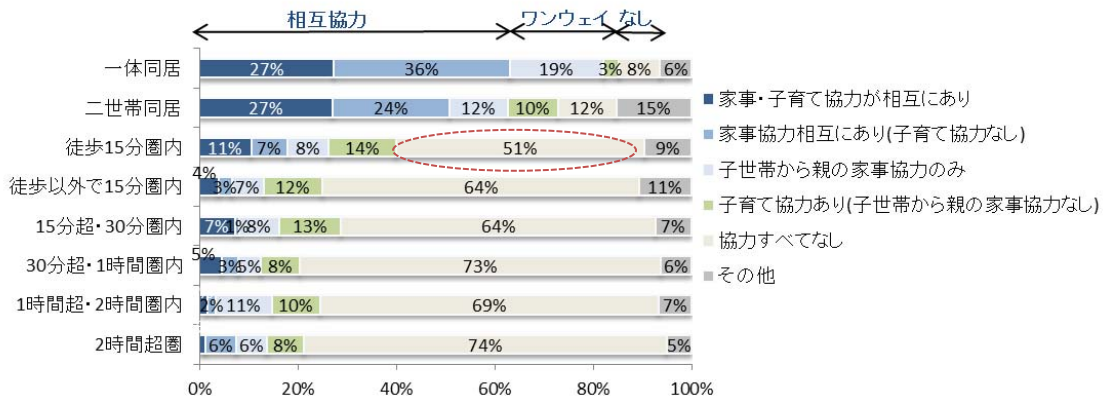


妻がフルタイム就業の場合には同居・近居(～15分圏)で家事協力や子育て協力が起こりやすい
妻が専業主婦の場合には、同居/近居が家事協力・子育て協力の分け目

◇ 妻親の住まいとの距離と家事子育てコラボパタン (妻がフルタイム就業)



◇ 妻親の住まいとの距離と家事子育てコラボパタン (妻が専業主婦)



3章 近居の住ニーズと二世帯住宅のコラボレーション

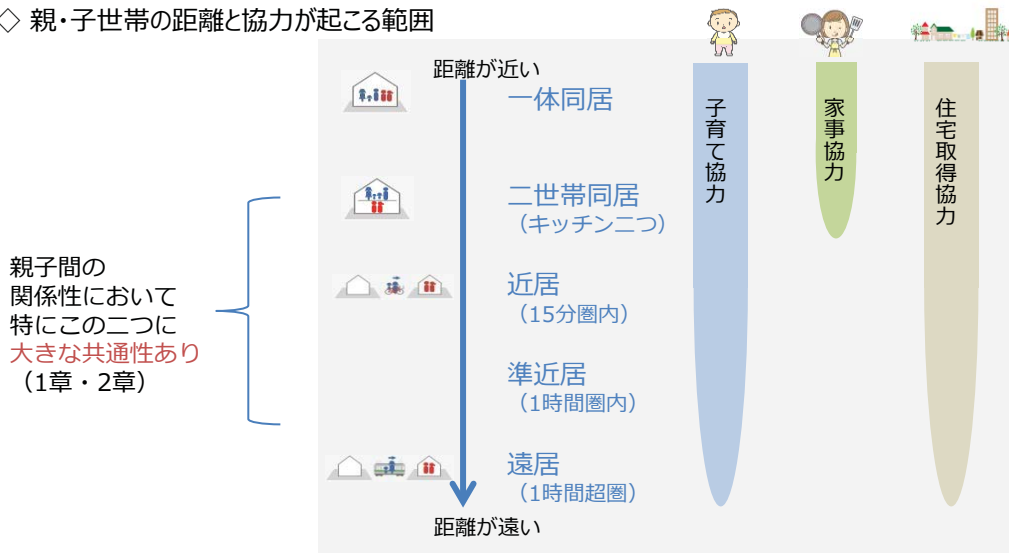
1) 住まいの距離を超えて広がる親子コラボレーション

p.80へ



二世帯住宅に近い住ニーズをもつ「近居」の暮らし

◇ 親・子世帯の距離と協力が起こる範囲



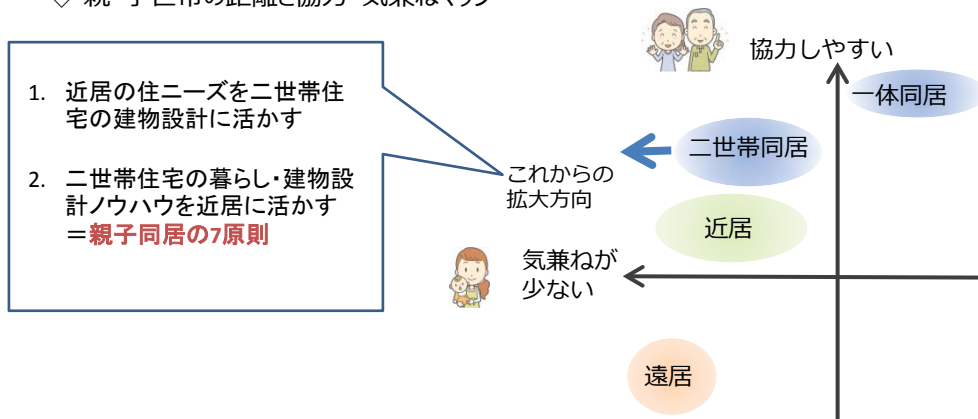
- 本調査結果より見えてきたことは、親子の協力、親子コラボレーションが、住まいの距離を超えて広がっており、親と子世帯のそれぞれのライフステージや生活志向によって濃淡を交えながらお互いの暮らしを支えていることでした。
- そして、中でも「二世帯住宅」の暮らしと「近居」の暮らしには、親子の関係性とその結果として生まれる、暮らしの喜びや問題に大きな共通性がみられるということもわかりました。

p.81へ



「近居」の暮らしにおける住ニーズを活かして、二世帯住宅のコンセプト領域を拡大、「二世帯住宅」における暮らし・建物設計のノウハウにより、「近居」の暮らしも豊かに

◇ 親・子世帯の距離と協力・気兼ねマップ



2) 近居の住ニーズから生まれる二世帯住宅の提案

p.82へ



子育てを中心とした交流をしながら、世帯ごとの暮らしも独立性も保ちたい、より近居ニーズも取り込んだ分離度の高い独立型二世帯住宅

⇒ 提案プランはP82をご覧ください。



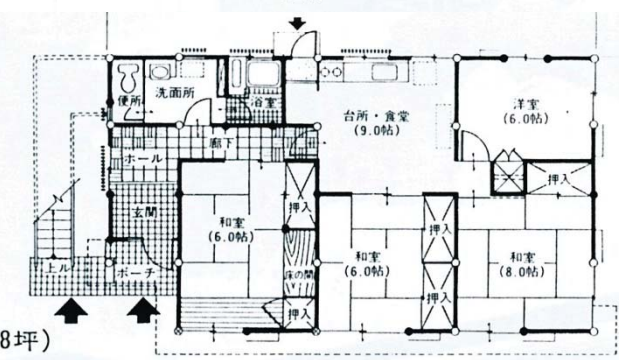
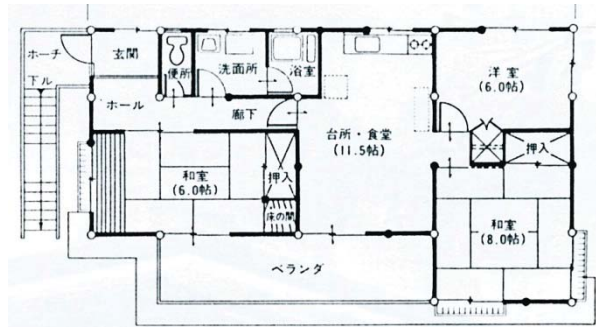
序章

1) 旭化成の二世帯住宅に対するこれまでの取り組みと社会背景

■ 1975年に旭化成が同居のための新しいコンセプトとして「二世帯住宅」を商品化



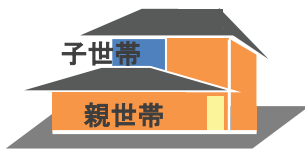
1987年のヘーベルハウス発売当時のカタログと掲載プラン



総面積
168.58m² (50.98坪)
1階建築面積: 90.77m² (27.45坪)
2階床面積 : 77.81m² (23.53坪)

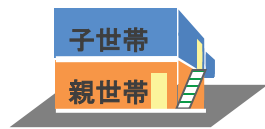
◇ 二世帯住宅を旭化成が商品提案した背景

一体同居



三世代が一体世帯で暮らし、住まう

二世帯住宅



世帯別に住まい、暮らす

べったり同居か別居の2択しかなかった時代に、旭化成が二世帯住宅という住まい方を商品提案 (1975)

別居



都市内に実家

子世帯
都市郊外のニュータウン

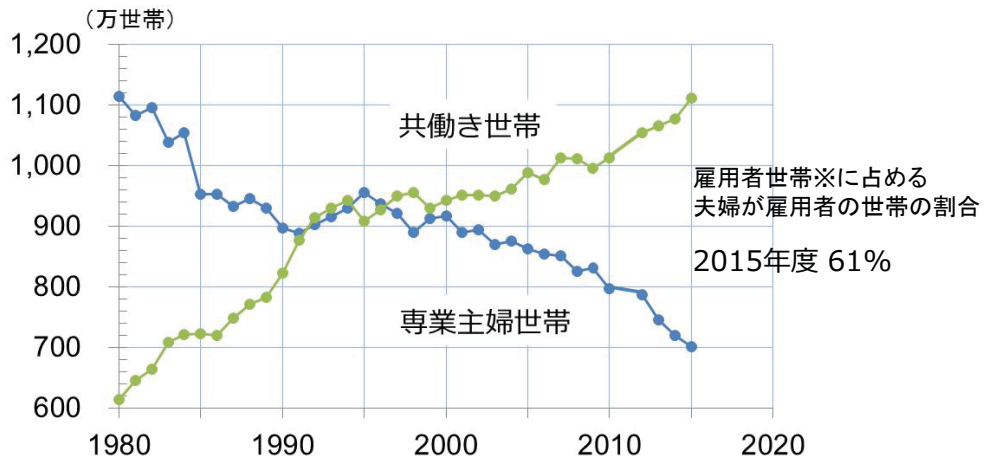
隣居は敷地細分化で供給
近居の土地供給は少ない

核家族
ニーズ

1) 旭化成の二世帯住宅に対するこれまでの取り組みと社会背景

■ 女性の雇用者率の上昇に伴う共働き世帯の増加

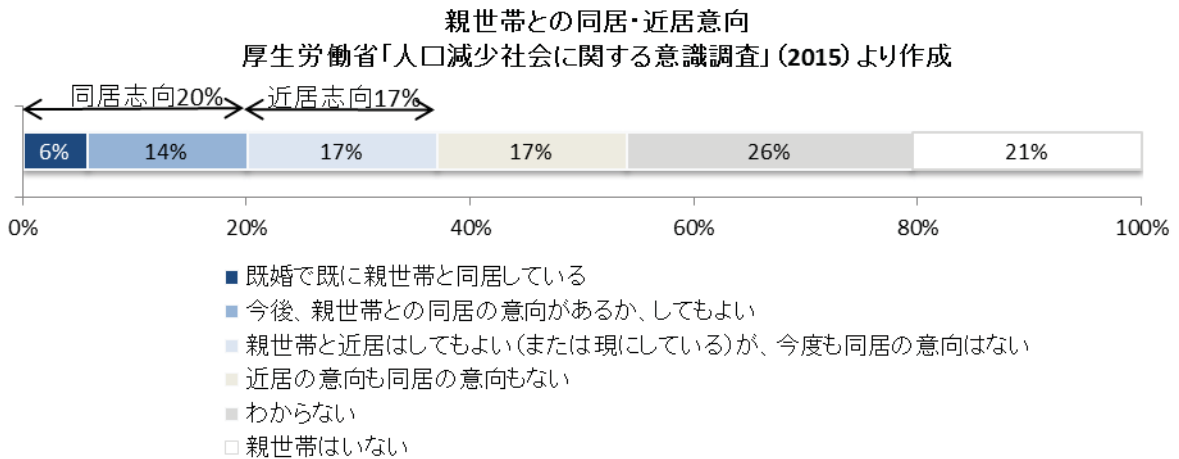
- 1997年に専業主婦世帯数を共働き世帯数が超えて以来、およそこの20年弱の間で共働き世帯数は増加を続け、2015年には1,111万世帯となりました。



参考) 厚生労働白書
 ※) 雇用者世帯とは、夫が非農林業の雇用者、妻が非農林業の雇用者または非就業者である世帯

■ 親世帯との同居・近居志向は既婚女性の約4割

- 2015年に行われた厚生労働省「人口減少社会に関する意識調査」によると、親世帯との同居志向は20%、近居志向は17%あり、合わせると約4割になります。
- 「わからない」が26%と多く、将来的に親世帯の近くに住むことを意識するようになる人たちも少なくないと考えられます。



1) 旭化成の二世帯住宅に対するこれまでの取り組みと社会背景

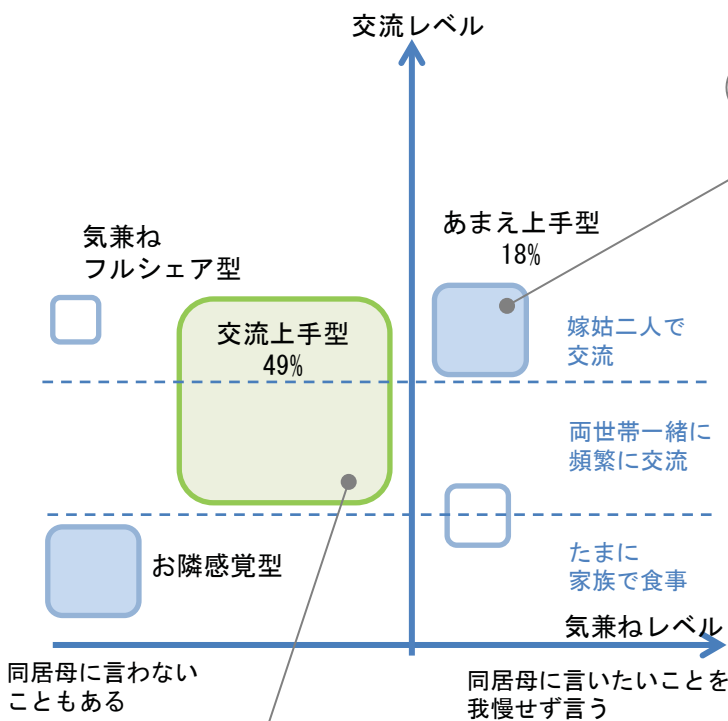
■ 数十年の変化のなかで同居の暮らしは、近居と分化して、親子世帯の交流が多く、気兼ねも少ない傾向にシフト

- 1970年代のニュータウン開発と土地価格の高騰により一般化した、核家族の郊外居住時代を経て、90年代後半に土地価格が下落し、2000年代に入るとニュータウンに住宅を取得した世代の子が成長したことにより、子世代が親世代の近くに住む「近居」という住まい方を選択することが可能となりました。
- その結果として、「同居」を選択する家族は、「近居」を選択できないというよりも優先的に選択しなかった家族と言え、より交流が多く、気兼ねも少ない傾向（下図の右上方向）にあります。

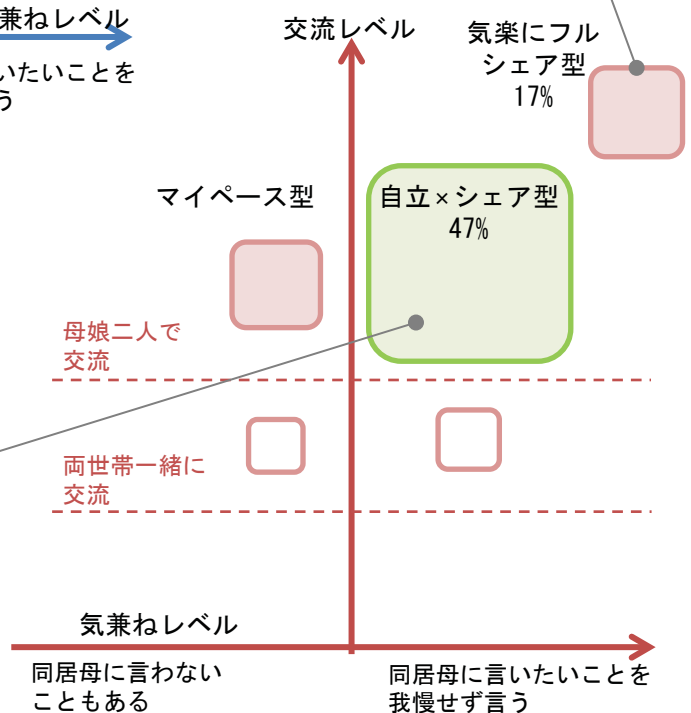
◇ 近年の息子夫婦同居・娘夫婦同居のかたち分類

旭化成ホームズくらしノベーション研究所
調査報告書「息子夫婦同居・娘夫婦同居で異なる同居前不安と交流意識」（2015）より

息子夫婦同居嫁姑関係 交流意識チャート



娘夫婦同居母娘関係 交流意識チャート



世帯ごとの暮らしを確保しながら、世帯交流も頻繁、上手にバランス

気軽に家事や子育てを頼み、母娘の交流も多いが、自分たちの領域（特に妻の領域としてのキッチン）・生活リズムはキープしたい

2) 調査概要

■ 目的

- 共働き世帯数は増加を続け、約4割の既婚女性には親世代との同居・近居ニーズがあるという社会背景のもと、子育てステージの同居・近居層の住ニーズを、親子の協力関係（『親子コラボレーション』）を中心に把握する。

■ 調査対象

◇ WEBアンケート調査 2016年3月、5月実施

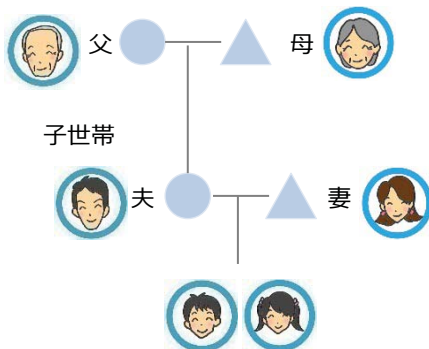
	親世帯		子世帯		
①親子同居調査 2001-16年に自宅を建設					
ヘーベルハウス居住者 (既婚男女)	父 n=84	母 n=30	夫 n=220	妻 n=149	合計n=483
一般戸建住宅居住者 (既婚男女)	父 n=144	母 n=92	夫 n=195	妻 n=198	合計n=629
②親と別居している子世帯調査 2001-16年に自宅を建設、1時間圏内に少なくとも一方の親が居住					
一般戸建住宅居住者 (30,40,50代・既婚男女)			夫 n=603	妻 n=586	合計n=1,189

※ 居住地域は、関東、東海・中部、関西、中国、九州北部を調査の対象とした

■ 本報告書での呼称について

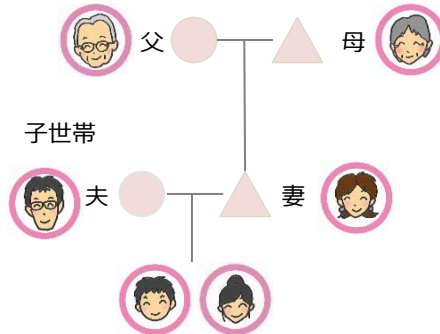
息子夫婦と父親の関係

父親世帯



娘夫婦と妻親の関係

妻親世帯



親の住まいとの距離

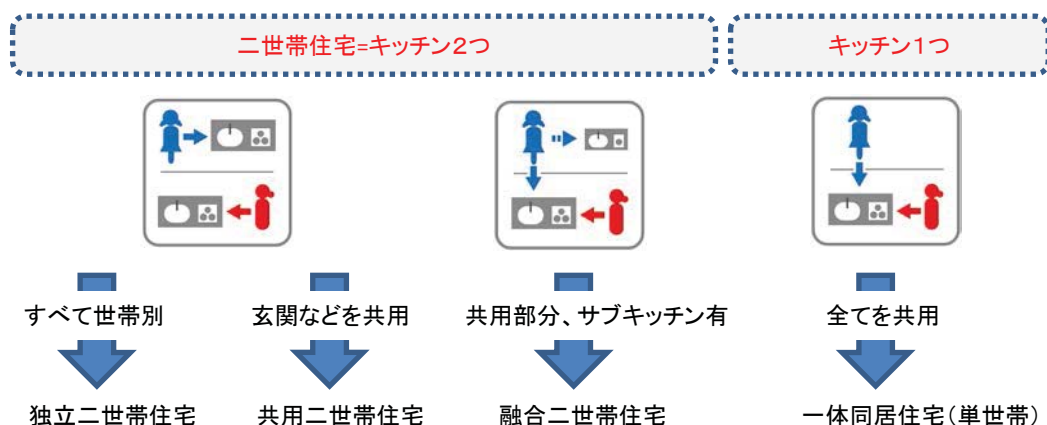
- 同居 一体同居（キッチンが1つ）
二世帯同居=二世帯住宅における同居（キッチンが2つ以上）
- 近居 親の住まいとの距離が15分圏内〔徒歩、徒歩以外〕
- 準近居 親の住まいとの距離が15分超1時間圏内
- 遠居 親の住まいとの距離が1時間超圏

2) 調査概要

◇ 回答者の属性 ①親子同居調査

		ヘーベルハウス居住者		一般戸建居住者	
有効回答数		483		629	
子世帯／夫 平均年齢（才）		43.8		46.7	
建設年（西暦） 平均		2010		2007	
地域	東京・神奈川・千葉・埼玉	247	51%	240	38%
	茨城・群馬・栃木	31	6%	31	5%
	静岡・山梨	38	8%	44	7%
	愛知	78	16%	95	15%
	岐阜・三重	13	3%	32	5%
	京都・大阪・兵庫	45	9%	97	15%
	奈良・滋賀・和歌山	6	1%	27	4%
	岡山・広島・山口	17	4%	35	6%
	福岡・佐賀	8	2%	28	4%
息子／娘夫婦同居	息子夫婦	328	68%	354	56%
	娘夫婦	155	32%	274	44%
	両方	0	0%	1	0%
親世帯の状況	両親	344	72%	435	76%
	母のみ	119	25%	127	22%
	父のみ	18	4%	10	2%
子世帯の長子学齢 （同居開始当時）	未就学児	205	58%	206	47%
	小学生	72	20%	89	20%
	中学生以上	70	20%	114	26%
	その他	8	2%	26	6%
子世帯妻の就業状況	フルタイム	156	35%	139	27%
	パート・アルバイト	67	15%	129	25%
	専業主婦	204	46%	223	43%
	自由業・自営業・家業	12	3%	18	4%
	その他	7	2%	4	1%
建物分離度	独立二世帯	169	35%	66	10%
	共用・融合二世帯	226	47%	159	25%
	一体同居	88	18%	404	64%

◇ 二世帯住宅における建物分離度の定義



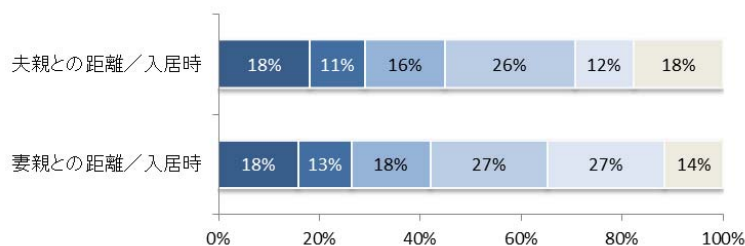
2) 調査概要

◇ 回答者の属性 ②親と別居している子世帯調査

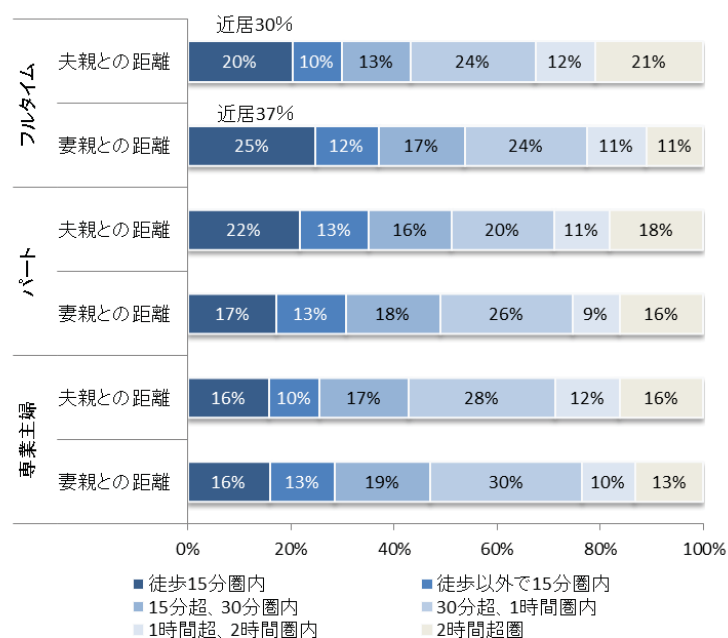
有効回答数		1189	
夫 平均年齢(才)		44.7	
妻 平均年齢(才)		43.0	
夫母 平均年齢(才)		71.1	
妻母 平均年齢(才)		70.0	
子世帯 平均家族人数(人)		3.5	
建設年(西暦) 平均		2008	
地域	東京・神奈川・千葉・埼玉	430	36%
	茨城・群馬・栃木	92	8%
	静岡・山梨	60	5%
	愛知	102	9%
	岐阜・三重	42	4%
	京都・大阪・兵庫	258	22%
	奈良・滋賀・和歌山	46	4%
	岡山・広島・山口	107	9%
	福岡・佐賀	52	4%
別居親の健康状態／ 見守り・介助が必要な割合 (自宅に入居当時)	夫父	845	6%
	夫母	996	7%
	妻父	894	5%
	妻母	1034	5%
子世帯の長子学齢 (自宅に入居当時)	未就学児	454	38%
	小学生	211	18%
	中学生以上	185	16%
	子どもなし	339	29%
子世帯妻の就業状況	フルタイム	291	24%
	パート・アルバイト	248	21%
	専業主婦	611	51%
	自由業・自営業・家業	26	2%
	その他	13	1%
最も近い親との距離 (自宅に入居当時)	徒歩15分圏内	405	34%
	徒歩以外で15分圏内	218	18%
	15分超、30分圏内	256	22%
	30分超、1時間圏内	310	26%
ヘーベルハウス居住者	あてはまる	20	2%
	あてはまらない	1169	98%



2) 調査概要

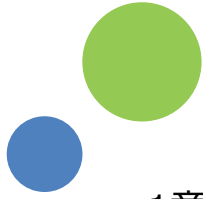
◇ 回答者の属性 ②親と別居している子世帯調査 親との距離



◇ 回答者の属性 ②親と別居している子世帯調査 妻の就業状態別 親との距離



本章では、同居の親子、別居の親子についてのデータを掲載しておりますが、識別のためページ毎に、同居データアイコン  と別居データアイコン  を付記しておりますのでご参考ください。



1章 家づくりにおける家族コンセンサス調査

本章では、親・子世帯が、二世帯同居、近居、遠居の選択をする際に、どのような時期に家族関係者のコンセンサスを形成しているのか、それらの選択の決め手はなんだったのかを明らかにし、その後のより良い暮らしにつなげる鍵を探りたいと思います。

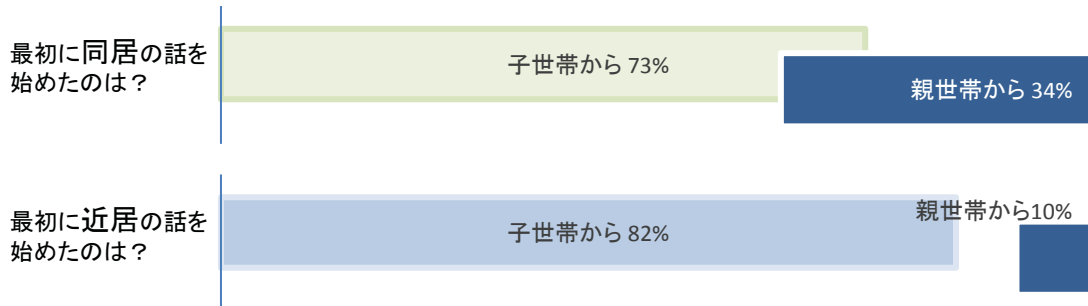
1-1) 同居・近居を切り出したのは子世帯・親世帯、どちらから？ <同居・近居比較編>



同居の話は7割が子世帯から、近居の話は8割が子世帯から切り出している

- 同居を切り出したのは、子世帯からが7割、親世帯からが3割です。
- 近居についても子世帯から8割が切り出しており、一方、親世帯から切り出すケースは1割と少ないことがわかります。

◇ 同居・近居の提案を最初にした世帯（子世帯から／親世帯から）

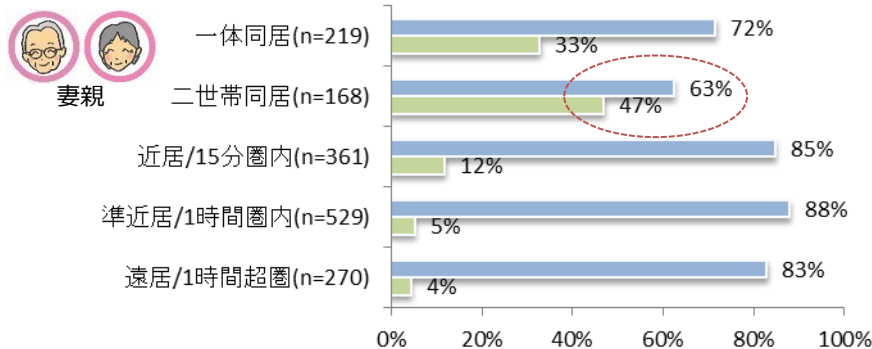
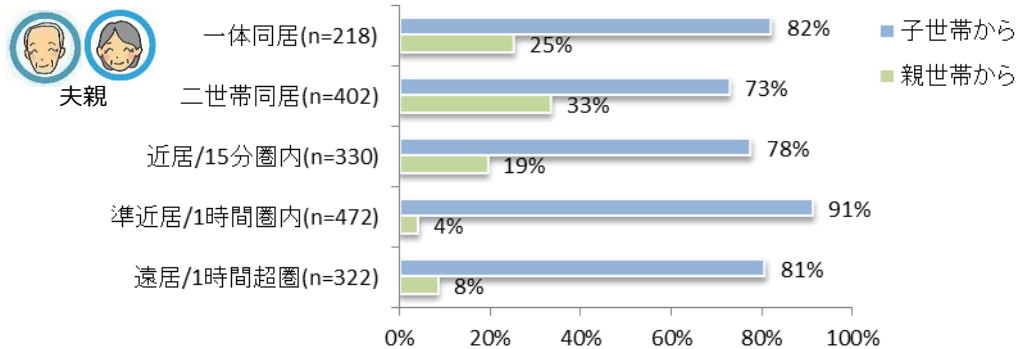


※ 子世帯、親世帯にはそれぞれ、両世帯からの回答を含む

※ 子世帯の子、祖父母、兄弟姉妹他の親せきは、子世帯または親世帯に含まれていない

- 父親・妻親の別にみても、どちらも子世帯から話を切り出すケースが多くみられますが、二世帯同居では特に親世帯から話を切り出すことも増える様子がみられます。

◇ 父親・妻親別 同居・近居の提案を最初にした世帯（子世帯から／親世帯から）



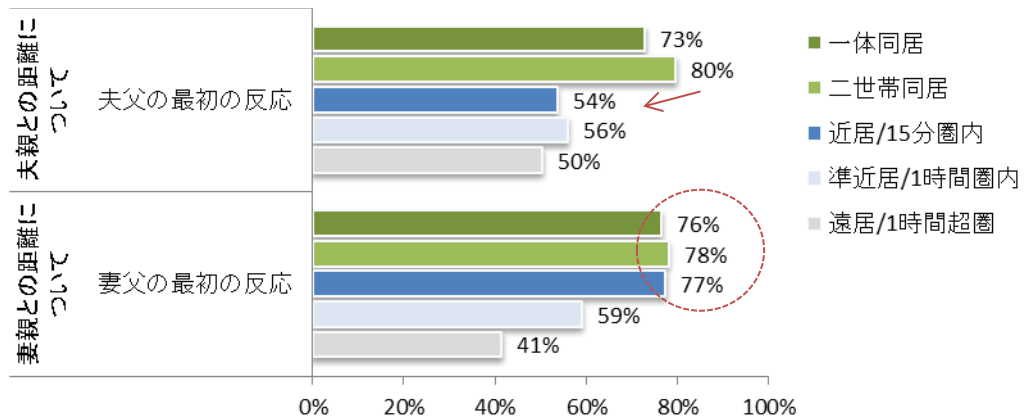
1-1) 同居・近居を切り出したのは子世帯・親世帯、どちらから？ <同居・近居比較編>



妻の父は、子世帯との同居・近居に対して7割強が「最初から賛成」

- 親世帯は、子世帯との住まいの距離に関して、概して距離が離れると、賛成の割合が減少します。
- 夫の父の最初の反応は、同居（一体同居・二世帯同居）では7割から8割が賛成ですが、別居になると賛成は半数程度にとどまります。
- 一方、妻の父の最初の反応は、同居（一体同居・二世帯同居）と近居で8割弱が賛成、準近居、遠居と離れるに従って、賛成の割合も減少する様子がみられます。

◇ 子世帯との同居・近居・遠居に親世帯の父が「最初から賛成」である割合



子世帯が親世帯との同居や近居にあたって、心配だと感じることはあまり変わらない

- 子世帯が、親世帯との同居・近居をするにあたって、心配だと感じていたこととして上位には「何かと気を遣う」「干渉が嫌だ」が挙げられ、同居と近居には同じような不安があることがわかります。
- その他、近居には「介護を期待される」、同居には「親世帯と生活時間が違う」が挙げられることが特徴的です。

◇ 子世帯が親世帯との同居・近居にあたって心配だと感じたこと



	一体同居		二世帯同居		近居/15分圏内	
	夫親への不安	妻親への不安	夫親への不安	妻親への不安	夫親への不安	妻親への不安
1位	何かと気を遣う (29%)	何かと気を遣う (30%)	何かと気を遣う (36%)	何かと気を遣う (26%)	何かと気を遣う (15%)	干渉が嫌だ (11%)
2位	干渉が嫌だ (23%)	干渉が嫌だ (17%)	干渉が嫌だ (31%)	家族間のコンセンサス(24%)	干渉が嫌だ (14%)	親に頼って生活しそう(9%)
3位	親世帯と生活時間が違う (15%)	親世帯と生活時間が違う (15%)	親世帯と生活時間が違う (18%)	干渉が嫌だ (22%)	介護を期待されると困る(13%)	介護を期待されると困る(8%)

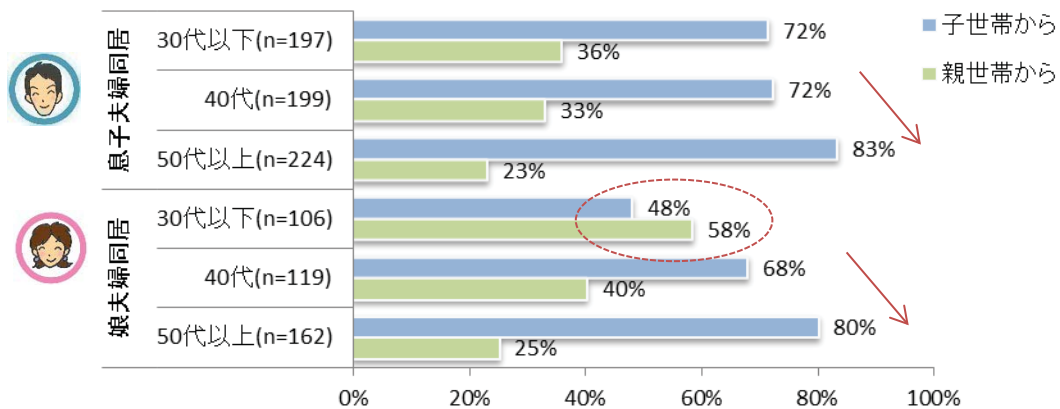
1-2) 同居を切り出したのは子世帯・親世帯、どちらの世帯から？ <同居 詳細編>



同居は7割が子世帯から提案、しかし30代以下の娘夫婦同居のみは親世帯から提案の方が多い

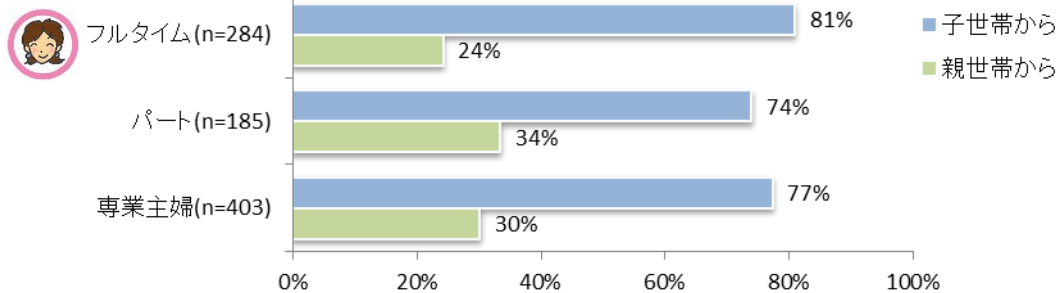
- 年代、息子・娘夫婦同居別にみると、同居を切り出したのは、ほぼ子世帯からが7割以上ですが、30代以下の娘夫婦同居では親世帯からの提案が増えて6割になる特徴がみられます。
- また、50代以上では、子世帯から切り出すことが多くなる傾向があります。これは、親世帯が高齢になり、心配をした子世帯が話を切り出すケースが増えるためと思われます。

◇ 同居の提案を最初にした世帯（子世帯から／親世帯から）



- 同居の提案を最初にした世帯が、親世帯か子世帯かについては、子世帯の妻の就業状態による違いはあまりみられませんでした。

◇ 子世帯妻の就業状態別にみた同居の提案を最初にした世帯



※「子世帯から」、「親世帯から」にはそれぞれ、両世帯からの回答を含む

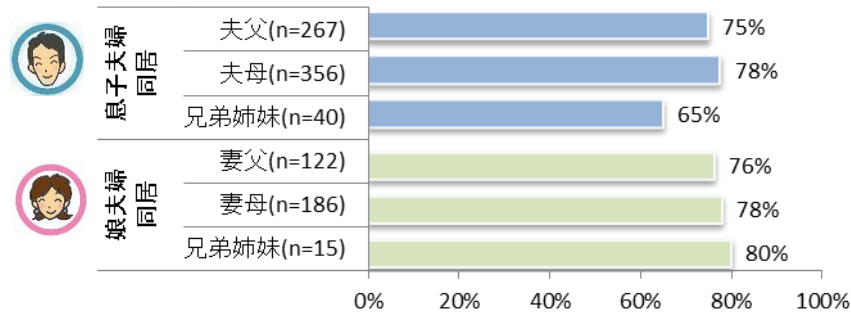
1-2) 同居を切り出したのは子世帯・親世帯、どちらの世帯から？ <同居 詳細編>



子世帯から同居を切り出された親世帯は、8割弱が「最初から賛成」

- 子世帯から同居を切り出した場合、親世帯は、息子夫婦・娘夫婦同居の違いなく、夫母・妻母も78%が「最初から賛成」と感じています。
- 息子夫婦同居に兄弟姉妹が同居する場合（2.5世帯同居）には、父母に比べてやや「最初から賛成」の割合が少なくなる傾向がみられます。

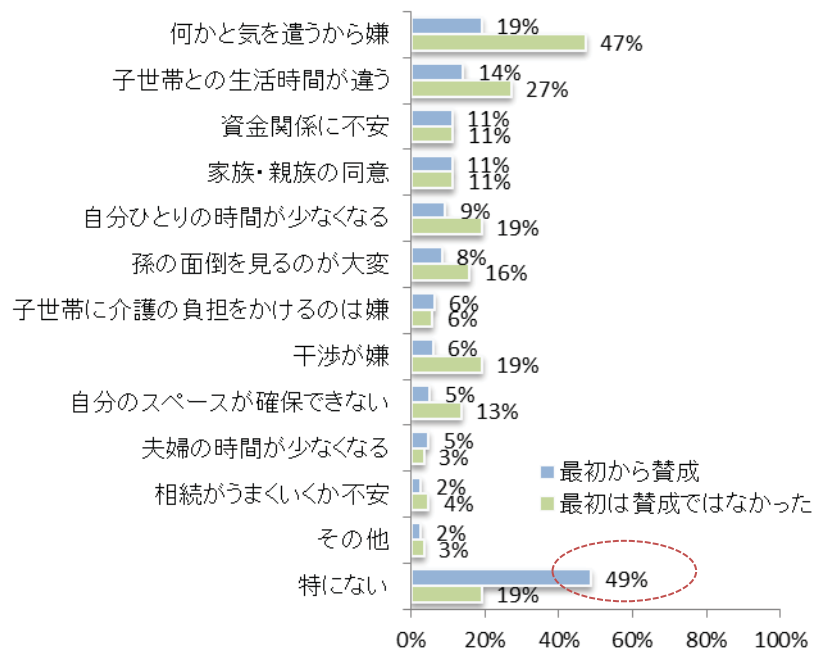
◇ 子世帯からの同居提案時に親世帯が「最初から賛成」の割合



※ 娘夫婦同居の兄弟姉妹はサンプル数が少ないため参考値

- 「最初から賛成」と感じた親世帯は、「特に不安や心配はない」という回答が最も多く49%を占めます。最も多い不安・心配は「何かと気を遣うから嫌」で19%です。
- 「最初は賛成でなかった」と感じた親世帯の不安の1位「何かと気を遣うから嫌」、2位「子世帯との生活時間が違う」については、二世帯住宅では、建物設計時に配慮をすることでこれらを解消・緩和することができます。
- 家族・親族（配偶者・兄弟姉妹・他方の親）のコンセンサス、同意を得ることができるかどうか、という心配は親世帯では11%と多くはみられません。一方、子世帯に関しては、「最初から賛成」だった場合の23%が家族・親族の同意に不安を感じたという回答でした。（図なし）

◇ 同居前に、一番最初に感じた不安・心配（親世帯）



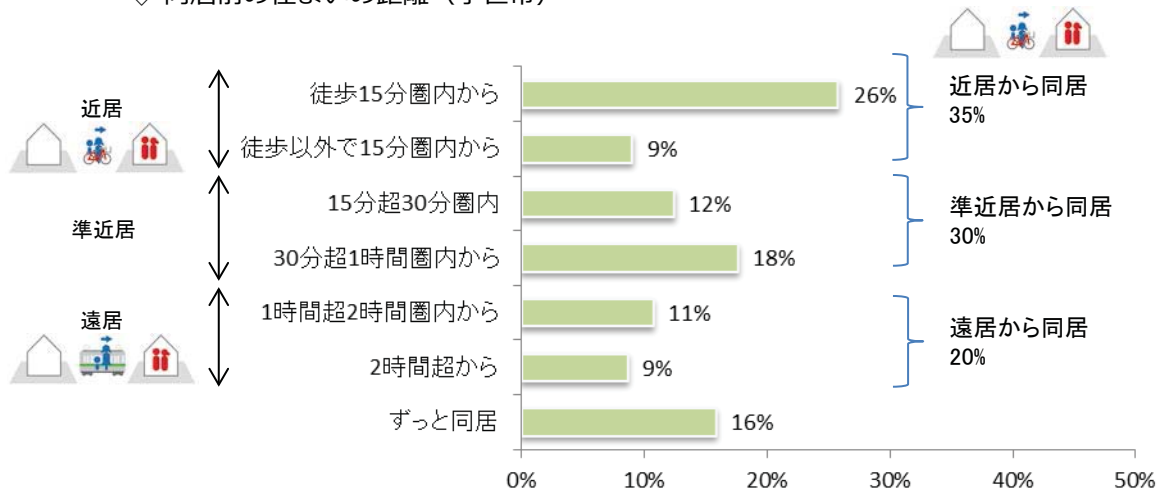
1-2) 同居を切り出したのは子世帯・親世帯、どちらの世帯から？ <同居 詳細編>



近居からの同居は3軒に1軒あり、結婚からずっと同居も6軒に1軒

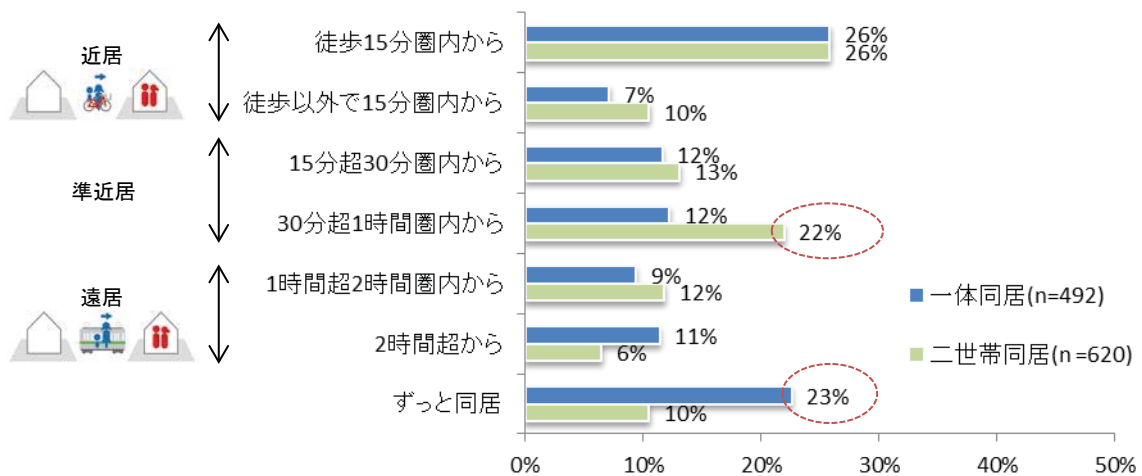
- 最も多いのは、徒歩15分圏内からの同居で26%です。15分圏内という近居からの同居は3軒に1軒となり、すでに近くに住み交流をしている中で同居を決める人が少なくないことがわかります。
- その他に、結婚時からずっと同居している人たちも16%いることがわかりました。

◇ 同居前の住まいの距離（子世帯）



- 同居の形態別（キッチンの数別）にみると、一体同居も二世帯同居も変わらず、徒歩15分圏内からの同居が最も多い結果となりました。次いで、一体同居（キッチン1つ）は、「結婚からずっと同居」が23%と多く、二世帯同居（キッチン2つ以上）は、「30分超1時間圏内」22%と準近居からの同居も多くあります。

◇ 同居の形態別 同居前の住まいの距離（子世帯）



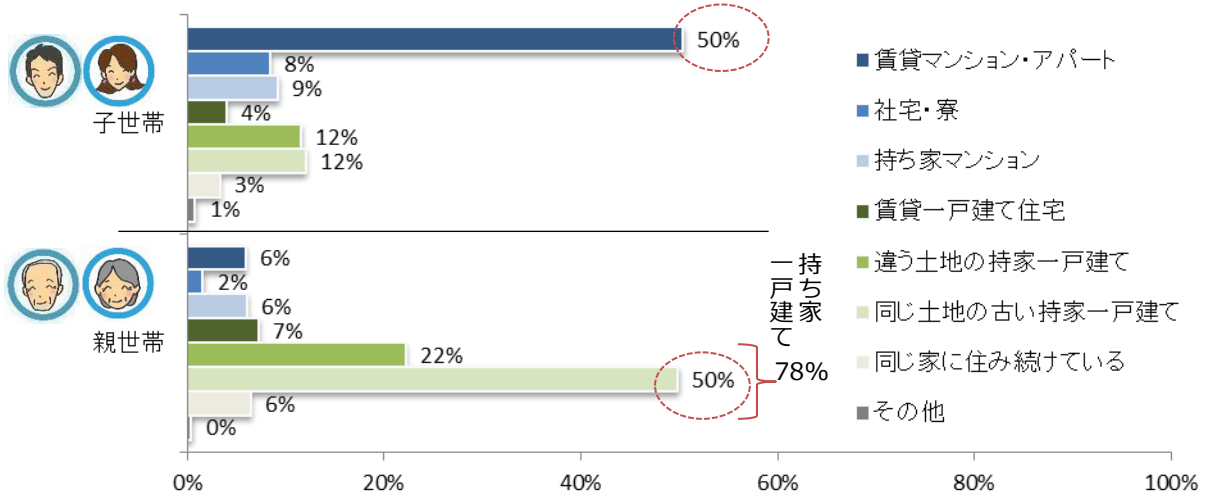
1-2) 同居を切り出したのは子世帯・親世帯、どちらの世帯から？ <同居 詳細編>



同居前はそれぞれ、子世帯は賃貸、親世帯は同じ土地の古い持家一戸建てに居住が半数

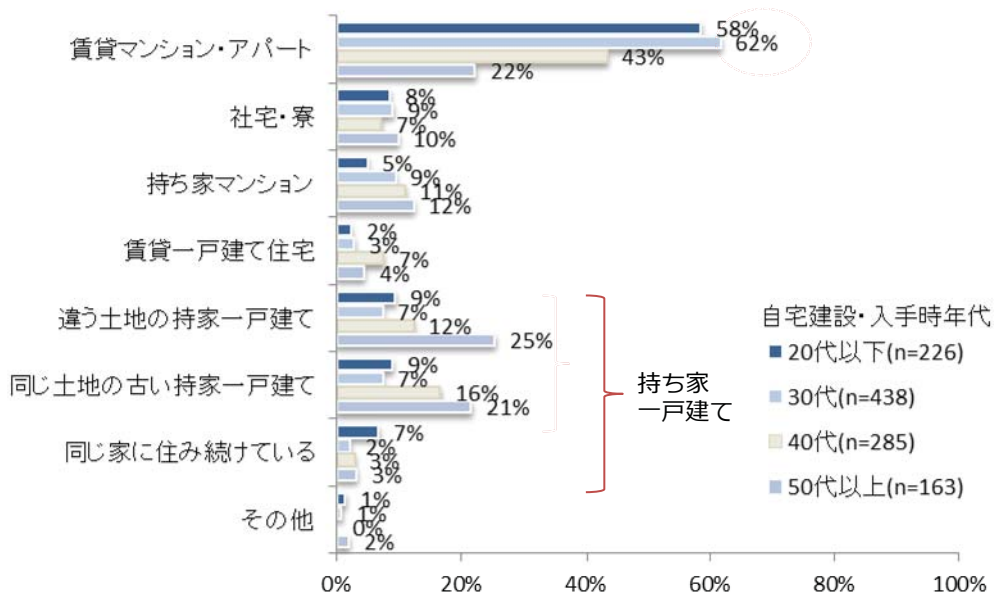
- 同居前の居住形態としては、子世帯の50%は「賃貸マンション・アパート」、親世帯の50%は「同じ土地の古い持家一戸建て」に住んでいました。
- 78%の親世帯が持ち家一戸建てから移って同居を始めています。

◇ 同居前の住居形態



- 年代別に見ると、自宅建設・入手時に30代以下の子世帯は、6割前後が「賃貸マンション・アパート」に住んでいましたが、40代は4割、50代では2割に止まっています。40代は3割、50代は5割が持ち家一戸建てからの同居であり、2回目の家づくりになる場合も含まれると思われます。

◇ 子世帯夫の年代別にみた同居前の住居形態（子世帯）



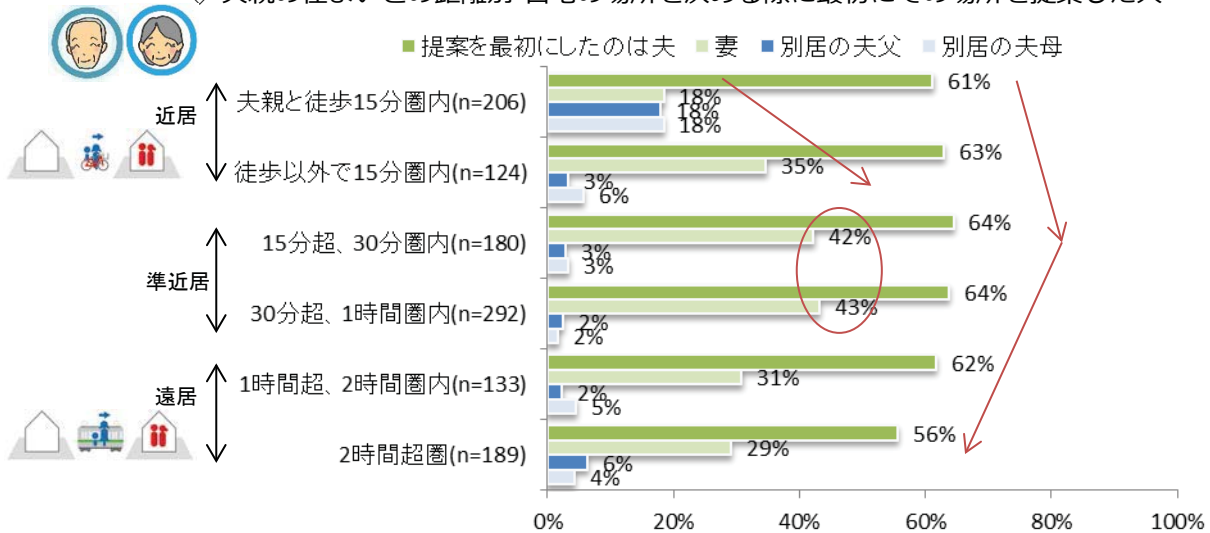
1-3) 近居・遠居の場合に自宅の建設地を提案したのは誰？ <近居・遠居 詳細編>



夫親との距離については、遠近に関わらず夫からの提案が多く、妻親との距離については、近居（15分以内）は妻から、準近居・遠居では夫からの提案が多い

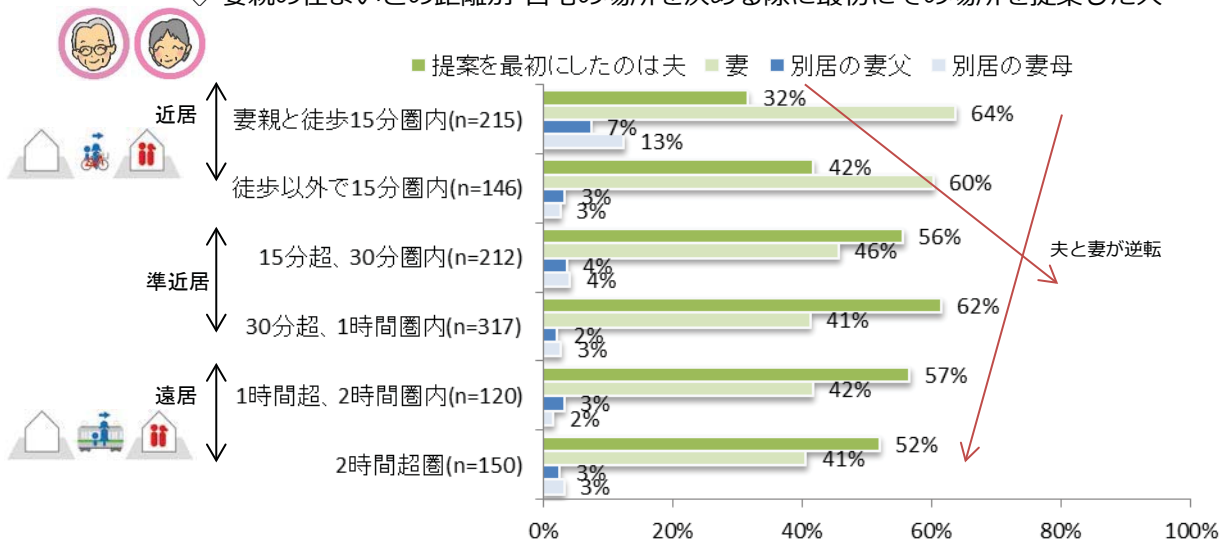
- 夫親の住まいと現在の距離に自宅の建設地・入居地を決めるにあたり、最初に話を切り出した（提案した）のは、夫が多くほぼ6割、妻は徒歩15分圏内では18%と少ないが、15分超30分圏内、30分超1時間圏内では4割を超えています。
- 別居の場合は親が話を切り出すケースは少なく、徒歩15分圏内でも18%に止まります。

◇ 夫親の住まいとの距離別 自宅の場所を決める際に最初にその場所を提案した人



- 妻親の住まいとの関係でみると、近居では妻から話を切り出すことが6割を超えるが、遠居になると少なくなる。夫は準近居以上に遠いと妻よりも話を切り出す割合が多くなり5割を超えます。

◇ 妻親の住まいとの距離別 自宅の場所を決める際に最初にその場所を提案した人



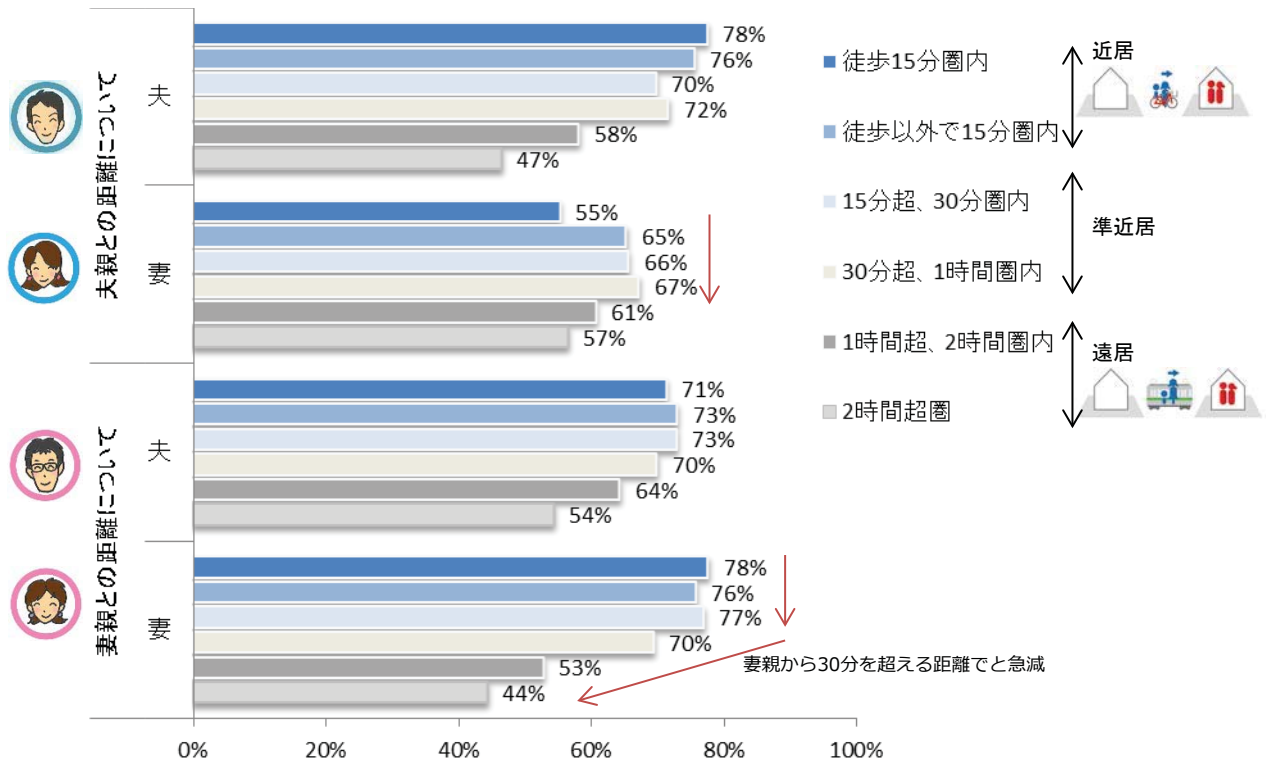
1-3) 近居・遠居の場合に自宅の建設地を提案したのは誰？ <近居・遠居 詳細編>



夫、妻に関わらず、親との近居、準近居は7割前後が「最初から賛成」

- 概して親との距離について、「最初から賛成」である割合が、近居から準近居圏（1時間以内）まで7割を超えて大きく下がりませんが、父親との距離に対する妻が「最初から賛成」である割合は、距離にあまり関係なく「最初から賛成」が7割未満です。

◇ 自宅と親の住まいの距離について最初に感じた印象「賛成」（かなり賛成+やや賛成）



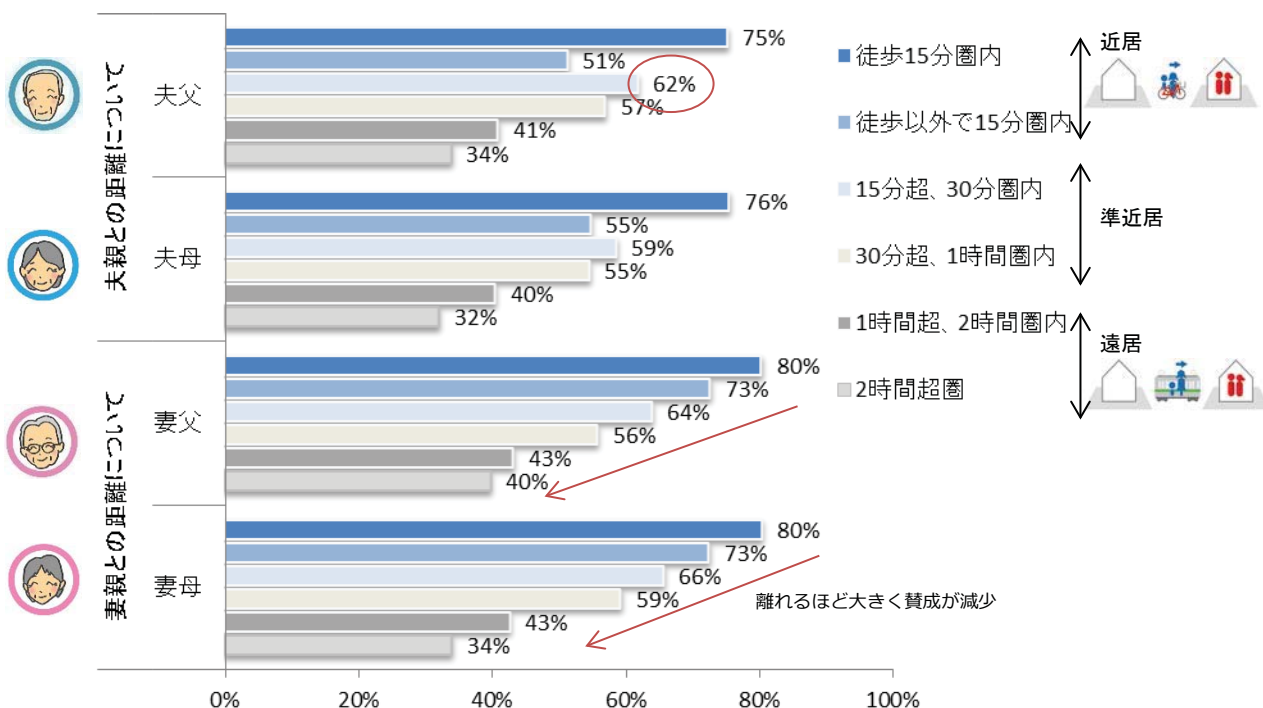
1-3) 近居・遠居の場合に自宅の建設地を提案したのは誰？ <近居・遠居 詳細編>



徒歩15分圏内の親世帯は約8割が「最初から賛成」だが、距離が離れるにつれて大幅に減少

- 妻親は特に別居の娘夫婦家族が遠くに住まいを構えるほど賛成の割合が減少する傾向が顕著です。
- 夫親は別居の息子夫婦との距離では「徒歩15分圏内」が最も「最初から賛成」をする割合が高いですが、徒歩以外15分圏内よりも15分超30分圏内が高く、適度な距離を好む層もいることが伺えます。

◇ 自宅と子の住まいの距離について最初に感じた印象「賛成」（かなり賛成+やや賛成）



別居の親や兄弟姉妹 どんなことを心配された？ 反対された？

- できれば近くに住んでほしかったようだ。自分が長男なので。（子世帯夫回答・30代/夫親と遠居、妻親と近居）
- 私の父は、私たち家族と一緒に住みたいという希望を持っていたので。（子世帯妻回答・40代/夫親と準近居、妻親と遠居）
- 孫の面倒をずっと見てきたのに、取られるような気分になった。また、娘が苦労するのを見るのが辛い。（子世帯妻回答・50代/夫親と近居、妻親と遠居）
- 離れるのが寂しいとのこと。（子世帯夫回答・30代/夫親と近居、妻親と遠居）
- 配偶者の親が訪問しづらくなってしまおうのではと思ったと思う。（子世帯妻回答・50代/夫親と遠居、妻親と近居）
- わが家が共働きなので、両親に子どもたち（両親にとっては孫）の面倒を見てもらう負担が大きくなるのでは？という心配を姉と妹から提示されたが、両親が納得していたので反対までは行かなかった。（子世帯妻回答・40代/夫親と遠居、妻親と近居）

1-3) 近居・遠居の場合に自宅の建設地を提案したのは誰？ <近居・遠居 詳細編>



実際には7割弱が、自宅建設・入手前後で親との距離が変わらない

- 最も多いパターンは「父親とも妻親とも距離は変わらない」66%、次いで「父親とは同じ距離だが、妻親に近くなった」10%、「妻親とは同じ距離だが、父親に近くなった」8%です。多くは、父親とも妻親とも距離が変わらず、従前の住まいの近隣で自宅を建設・入手しているものと思われます。
- この傾向は、例えば、自宅建設・入手前に親から子育て協力を受けていた場合も変わりません。自宅の建設地・入手地を親の住まいの近くへ寄せる割合が高まるわけではなく、距離は「父親とも妻親とも距離は変わらない」が6割以上を占めています。（図なし）これは、子育て協力を自宅建設・入手前に受けている子世帯は、既にそのことも考慮して従前の土地を選んでいるためと思われます。

◇ 自宅建設・入手前後での親との距離の変化マトリクス

	父親の近くへ	同じ	父親から遠くへ
妻親の近くへ	 5%	 10%	 2%
同じ	 8%	 66%	 3%
妻親から遠くへ	 2%	 3%	 1%

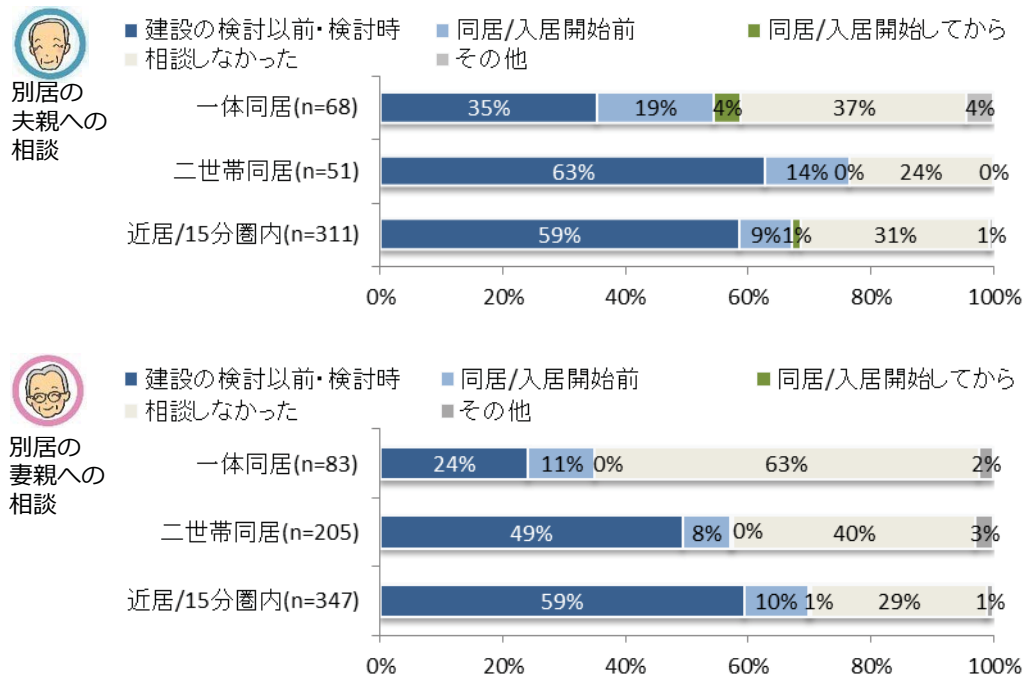
(※) 同一敷地内隣居での建て替え3%を含む

2-1) 「別居の親」との家づくりコンセンサス<同居・近居比較編>

別居の親への相談は、「建設の検討以前・検討時」の早目にするか、「相談しない」かの両極

- 別居の親に対して、（もう一方の親と）同居をする、あるいは近居をするということを相談する時期は「建設の検討以前・検討時」か、あるいは「相談しなかった」に分かれ、途中の「同居/入居開始前」（＝建設の契約時や工事中など）段階での相談は少ないことがわかりました。
- 特に、二世帯同居や近居では、早めに相談する割合が5割から6割に達しています。

◇ 別居親への同居/近居に関する相談時期（子世帯回答）



※ 同居/入居開始前とは「建設の契約前」「工事が始まる前」「それ以外で同居/入居開始前」の合計

同居に関する家族コンセンサスについては 周囲に「構想段階からどんどん相談を」

- **こそこそと動かずに、構想の段階からどんどん相談したら良い**と思います。私も、義理の妹さんが、既婚でしたが持家ではなかったので、妹さん自身、ご自分の両親と同居をしたいという希望はないのか、ざっくばらんに確認しました。（子世帯妻回答・30代/息子夫婦同居）
- 私の配偶者は義父母の戸籍上では長男だが、義父が再婚のため義兄弟がいます。土地の所有は義母ですが、あとあと面倒な事になると思った。家を新築するにあたり、義兄弟に相談し承諾を得ました。（子世帯妻回答・30代/息子夫婦同居）
- お互いの家族のことを話し合っ私の母との同居を夫は賛成してくれた。**夫が一人っ子だったため、夫の両親の将来も考えたお家にする**ことなど、自分たちの思いを直接伝え、夫の両親が不安にならないように心配りした。結果夫の両親からも同意を得られた。（子世帯妻回答・30代/娘夫婦同居）
- やはり大切なのは、周りの家族の快い同意がなければ進めていけないほうがいいと思います。次に2世帯を建てるなら、家事をどのようにやっていくのか、生活スタイルはどのように違うかをよく話し合ってから決めていったほうがいいと思います。感覚が似ている義理の親子ならいいのですが、勝手に少し違うだけでもずれが出てくるものです。一緒に住んでからはとにかくお互いに思いやりさえあれば上手くいくと思います。**良かれと思ってお義母さんがたんでくれた洗濯物に心から気持ち良くありがとうと言えれば問題ありません**。くつろいでいるとき、親が入ってきてても不快にならなければ楽しい2世帯生活を送れると思います。（子世帯妻回答・30代/息子夫婦同居）
- 義母との同居を申し出たところ、義兄弟が快く賛成してくれた。同居を前提に家の建て替えを考えてる事を相談したところ、自分の両親と配偶者の親も賛成してくれ、資金面での援助を申し出てくれた。（子世帯妻回答・40代/息子夫婦同居）
- **同居しない姉世帯に対する相続についても考えていることと、同居しない親世帯側の同意が得られてることを、事前にしっかりと伝えること**。同居することで双方にどのようなメリット・デメリットがあると考えられるかを説明すること。資金計画についてきっちりと説明すること。どのような二世帯形態をとるつもりかをきっちりと説明すること（具体的には独立二世帯）（子世帯夫回答・30代/娘夫婦同居）

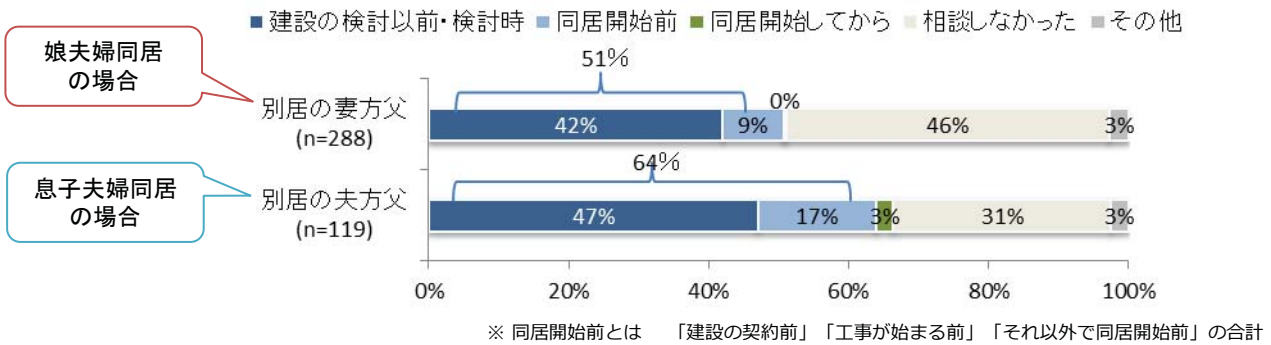


2-2) 親と同居する場合の「別居の親・兄弟姉妹」とのコンセンサス <同居 詳細編>

同居をする場合にも、他方の別居親への相談は、早い方が同居満足度も高い傾向

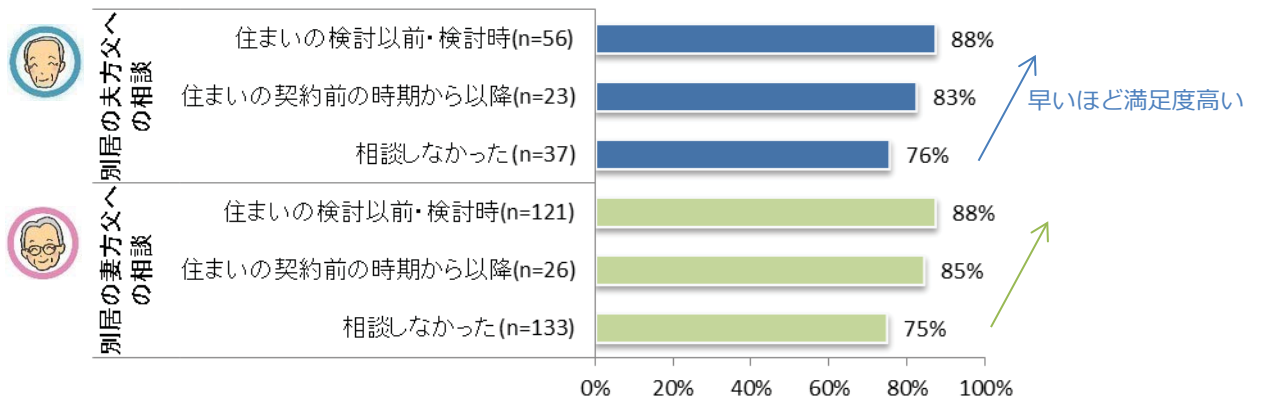
- 別居の夫方父への相談時期は「建設の検討以前・検討時」が47%の一方で「相談しなかった」も31%おり、早く相談するか、最後までしないかの両極端です。
- 同居をする場合に、他方の別居親へは、実子から相談をしています。（夫方両親には、夫からが9割、妻方両親には、妻からが8割）同居親から（形式を重んじて）話をすることは全くありませんでした。（0%）

◇ 別居の親への同居に関する相談時期（子世帯）



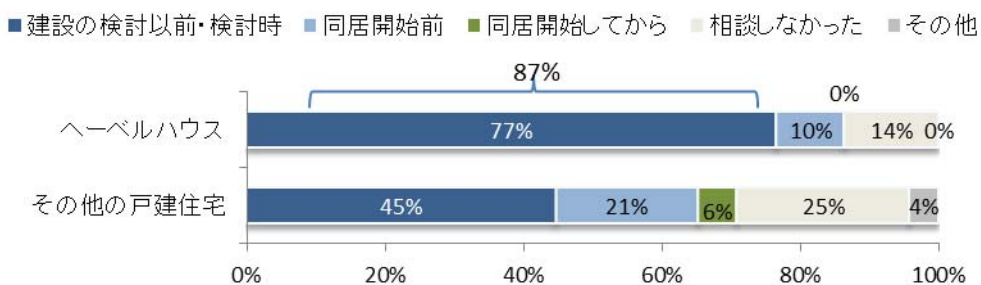
- 親と同居をする場合にも、他方の別居親への相談時期が早いほど、同居に対する満足度も高い傾向がみられます。周囲の家族とも良い関係で同居をスタートすると、その後の同居の暮らしも良好なスタートを切れると言えるのではないのでしょうか。

◇ 別居親への同居に関する相談時期と同居満足度の関係



別居の親への相談は、ヘーベルハウス居住者では、より早い傾向がみられます。

◇ 別居の夫方父への同居に関する相談時期（ヘーベルハウス居住の子世帯）



2-2) 親と同居する場合の「別居の親・兄弟姉妹」とのコンセンサス<同居 詳細編>

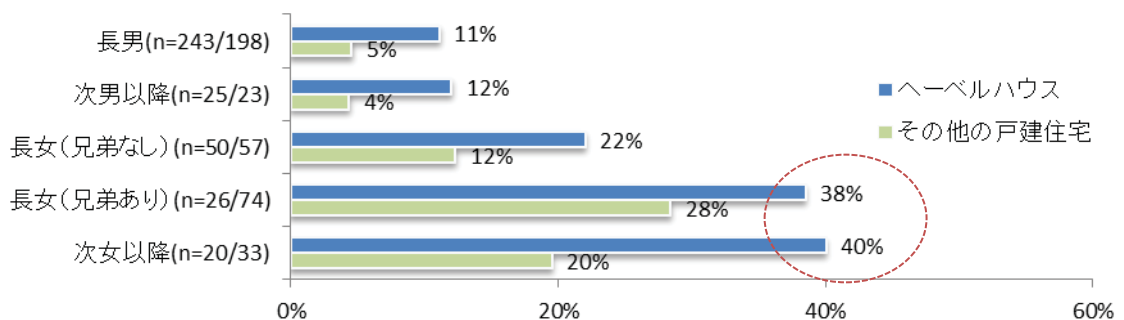


兄弟のいる長女や次女以降の子が同居する場合には、「家族コンセンサス」が決め手

- 同居子が女性の場合に、「家族コンセンサス」（別居の兄弟姉妹、他方の親）が決め手になりやすい傾向があり、特にヘーベルハウス居住者に顕著です。

◇ 同居子の続柄別

別居の兄弟姉妹、他方の親との「家族コンセンサス」が同居の決め手となる割合



別居の親や兄弟姉妹 同居について、どんなことを心配された？反対された？

- 私が**苦勞するのではないかと**思ったようです。いわゆる嫁姑問題や、将来夫の親の介護をすることになるかもしれないことなど。（子世帯妻回答・40代/息子夫婦同居）
- わたしの兄側が、賛成できなかったわけではないが、**もっと早い段階（同居検討段階）での報告が欲しかった**ようだった。実際に報告したのはかなり話が進んだ後だったので、それはまずかったかなと今でも少し後悔している。（子世帯妻回答・30代/娘夫婦同居）
- 先に相談しなかったことで母を怒らせた**。妻の実家は古い土地柄なので私が馴染めるか不安に思われた。妻の両親と同居することで気を使いすぎるのではないかと心配された。（子世帯夫回答・30代/娘夫婦同居）
- 娘が婚家の親たちと同居すると、自分たち（実家の両親）が気楽に遊びに寄ったり、電話したりできないかな・・・という寂しさがあったかな、と今思えば思う。（子世帯妻回答・40代/息子夫婦同居）
- 次男夫婦が同居を希望。長男は独身で仕事に都合の良い東京で賃貸マンション暮らし。**将来の予定はまだ立っていなかったようで弟が先に実家を継ぐことになることにはすぐ返答できなかった**ようです。（親世帯母回答・20代/息子夫婦同居）
- 長女が気にしている感じ**でしたが、彼女もマンションを購入したので、納得してくれた。（親世帯母回答・30代/娘夫婦同居）

※文中の年代は、同居開始時の子世帯夫の年代

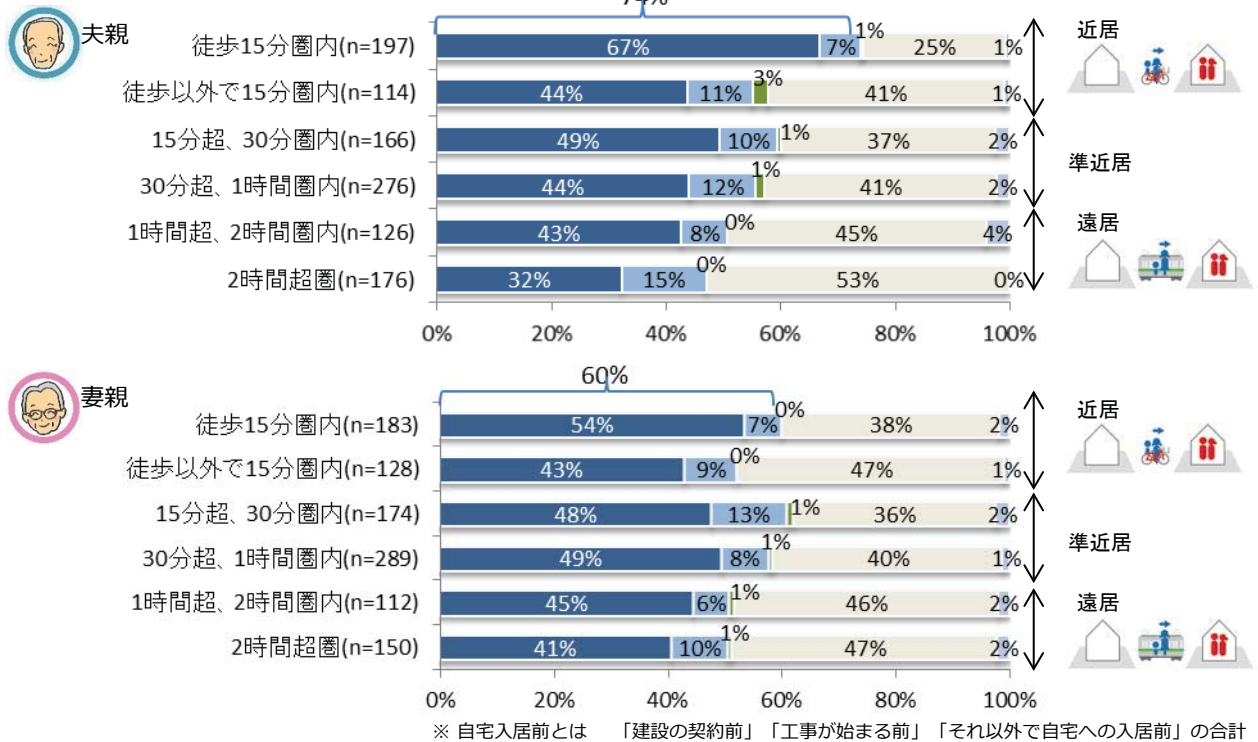
2-3) 「親と別居」をする場合の親とのコンセンサス<近居・遠居 詳細編>

別居をする双方の親とのコンセンサスも「建設の検討以前・検討時」に相談か、「相談しない」

- 徒歩15分圏内では、同居をしている人たち以上に6-7割が事前に相談していますが、親の住まいとの距離が離れるにつれて、「相談しない」が増えて約半数になります。

◇ 別居の親の住まいとの距離と自宅建設・入手に関する子世帯からの相談時期

■ 住まいの検討以前・検討時 ■ 自宅入居前 ■ 自宅入居してから ■ 相談しなかった ■ その他



別居の親に相談しなかったのは「そもそも相談するものだと思っていなかった」

- 自分たちのことを決めるときに親に意見は聞かないので特に問題なかった。(30代妻・夫親,妻親と近居)
- 特段相談もしなかった。しかし、子供として両親に近い場所にて住居を決めたかったため、現在の位置に落ち着いた。周囲からの反対意見も出ることはなかった。(20代夫・夫親,妻親と近居)
- 相談もなく決めたことに対して文句は言われた。金は出さないが口は出すつもりだと言われた。(20代妻・夫親,妻親と準近居)
- 近くなら喜んでくれると確信していたので相談しなかった。(20代夫・夫親,妻親と準近居)
- 同意を得ないといけないという考えはなかった。ただ報告をしただけです。(40代妻・夫親,妻親と準近居)
- 自分たちの好みだけで決めたとし、別に相談もせず決めてから、単に報告したので誰も反対も賛成もなく。(40代妻・夫親と準近居,妻親と近居)

※文中の年代は、同居時の子世帯の年代

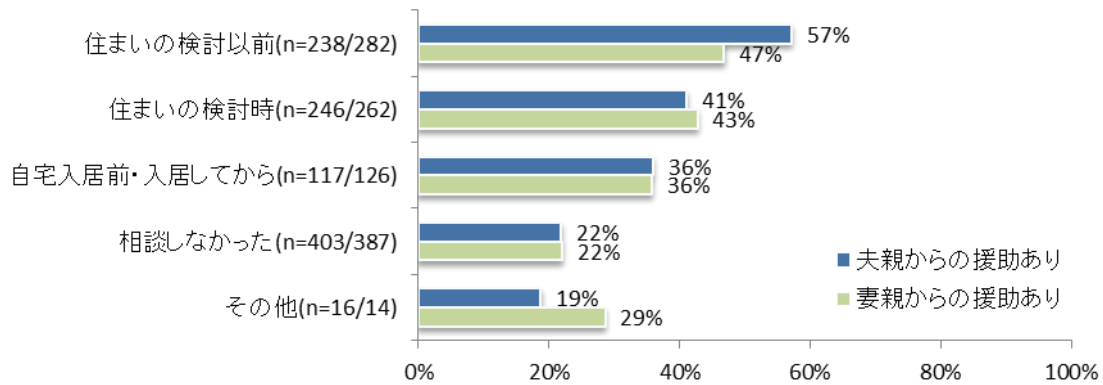
2-3) 「親と別居」をする場合の親とのコンセンサス<近居・遠居 詳細編>



住まいの建設・入手に関する親への相談時期は親からの援助にも、その後の満足度にも関係あり

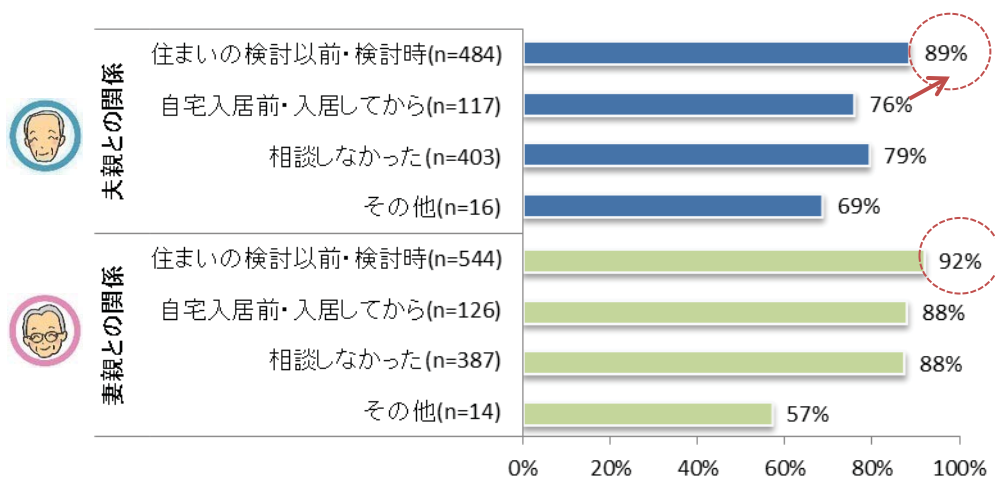
- 父親に対して「住まいの検討以前」に相談している場合には、57%が何らかの援助を受けています。相談されると援助したくなる親心、援助を期待して相談する子心かもしれません。

◇ 住まいの建設・入手に関する別居親への相談時期と援助の関係



- 親に対して「住まいの検討以前・検討時」に相談している場合は、その後の親との関係に対する満足度も高い傾向があり、特に父親に顕著です。

◇ 住まいの建設・入手に関する別居親への相談時期と現在の親との関係に対する満足度



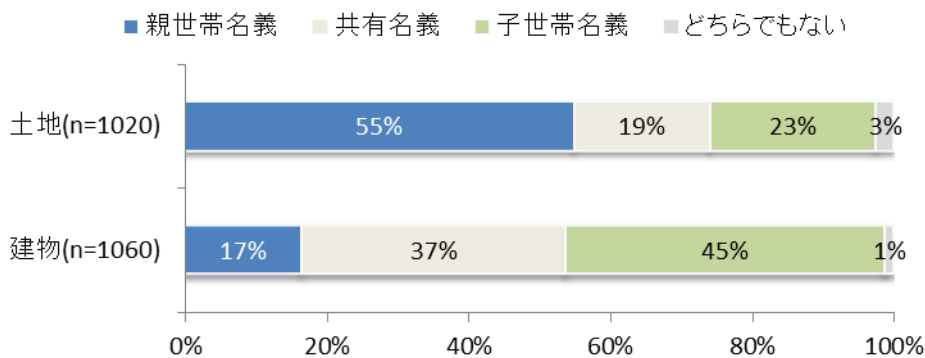
3-1) 家づくりの資金面における親子コラボレーション<同居編>



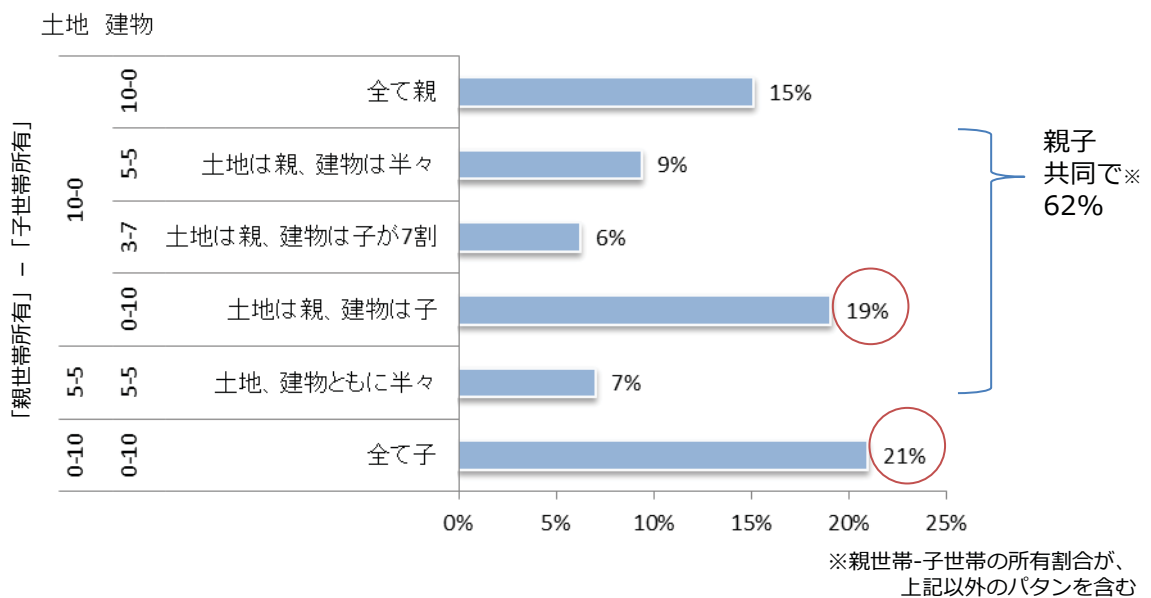
同居の家づくりは、6割が親子で力を合わせて

- 同居の場合の土地は親世帯名義が多く、土地は子世帯名義または共有名義が多くあります。
- 土地・建物の所有割合で最も多いパターンは「全て子」の所有で21%、ついで、親の土地に子が建てる「土地は親、建物は子」パターンで19%です。
- 親子が共同で家づくりをするのは41%、土地以外に親の建設資金が入るケースは37%で、全て子、全て親よりも多くあります。

◇ 同居親世帯と子世帯の土地と建物の所有割合



◇ 同居親世帯と子世帯の土地-建物の所有割合の分布



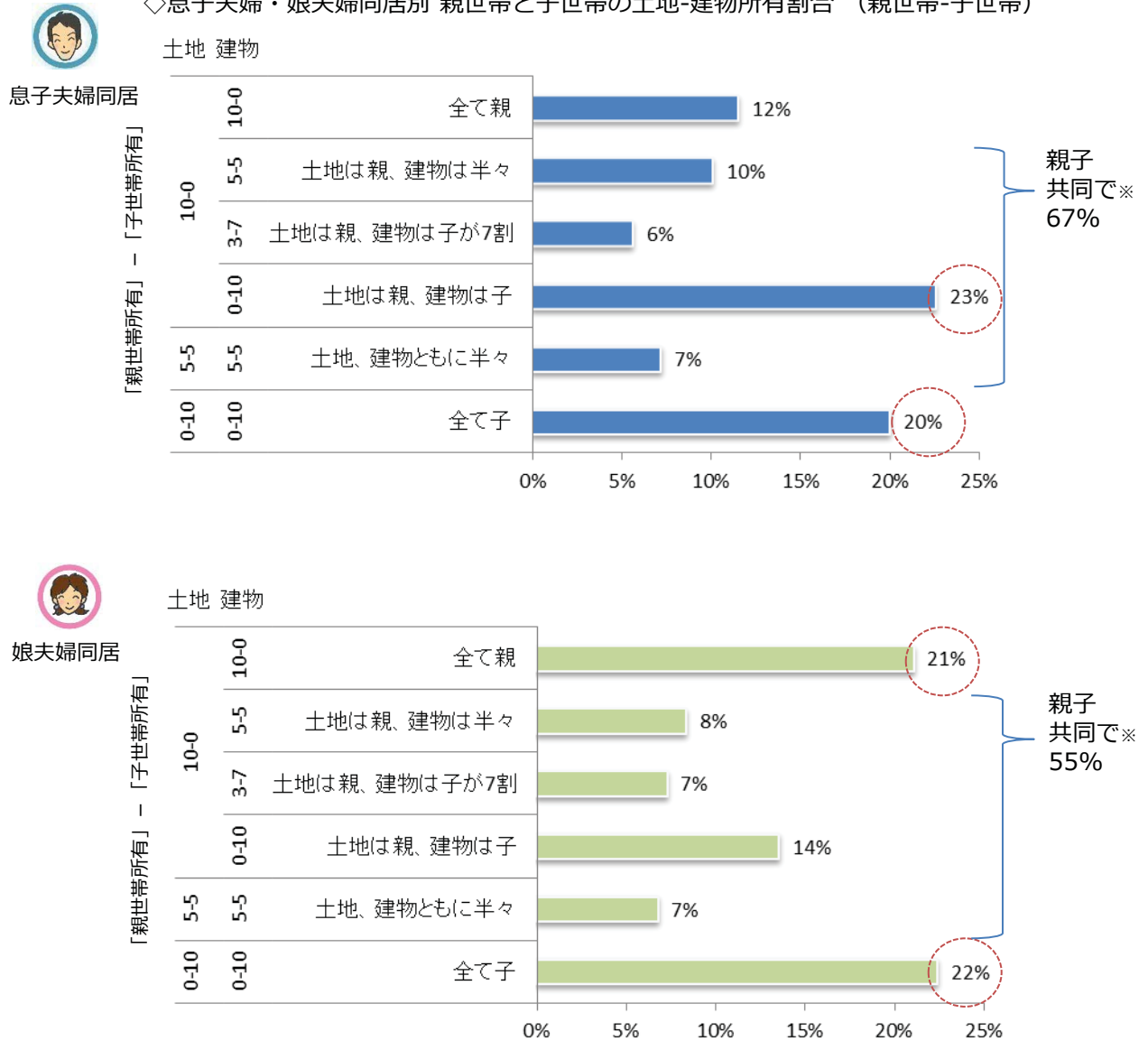
3-1) 家づくりの資金面における親子コラボレーション<同居 編>



息子夫婦同居では、「土地は親・建物は子」所有が最も多く23%

- 息子夫婦同居の場合には、娘夫婦同居と比べて、土地や建物を親子双方が所有する親子共同での家づくりの割合が67%と高く、「全て親」の割合が少ないことがわかります。
- 娘夫婦同居は、「全て子」22%、「全て親」21%と最も多いことが特徴的です。

◇息子夫婦・娘夫婦同居別 親世帯と子世帯の土地-建物所有割合（親世帯-子世帯）



※親世帯-子世帯の所有割合が、上記以外のパターンを含む

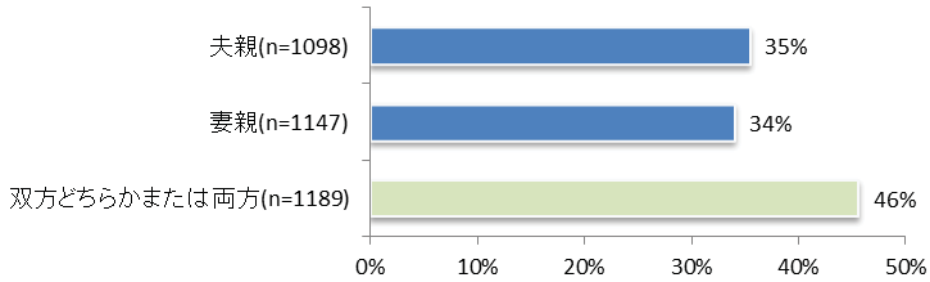
3-2) 家づくりの資金面における親子コラボレーション<近居・遠居編>



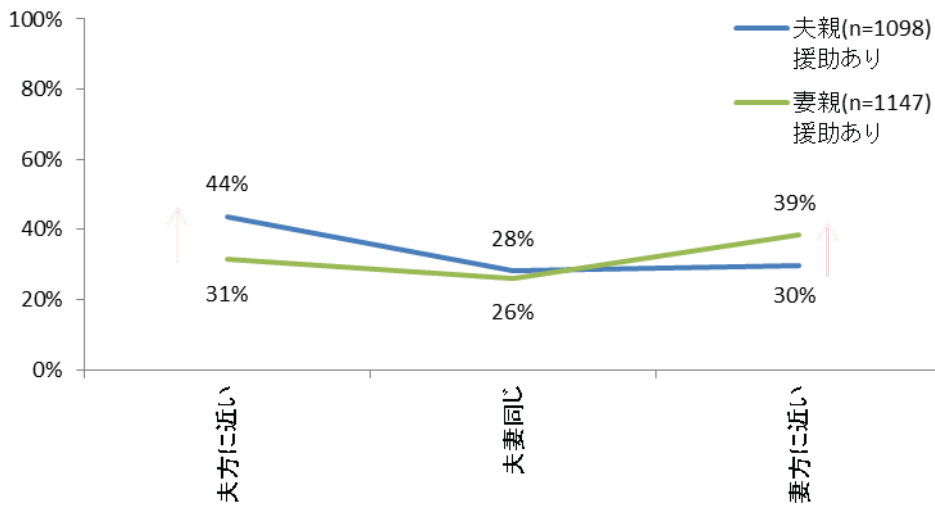
全体で5割弱が別居の親から資金や土地の援助を受けている
 父親・母親別には、それぞれ3割強が援助を受けているが、距離が近い親の方が多い傾向

- 別居の親から資金や土地の援助があった割合は約5割、父親/母親でから同程度に受けています。
- しかし、住まいの距離がより近いと援助の割合は高くなるという親心もみられました。

◇ 別居の親からの住宅・土地取得に対する援助があった割合



◇ 別居の父親・母親の住まいとの位置関係と住宅・土地取得に対する援助



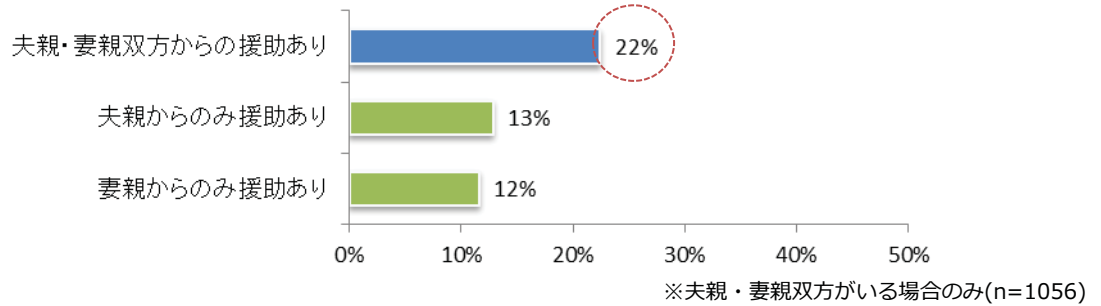
3-2) 家づくりの資金面における親子コラボレーション<近居・遠居編>



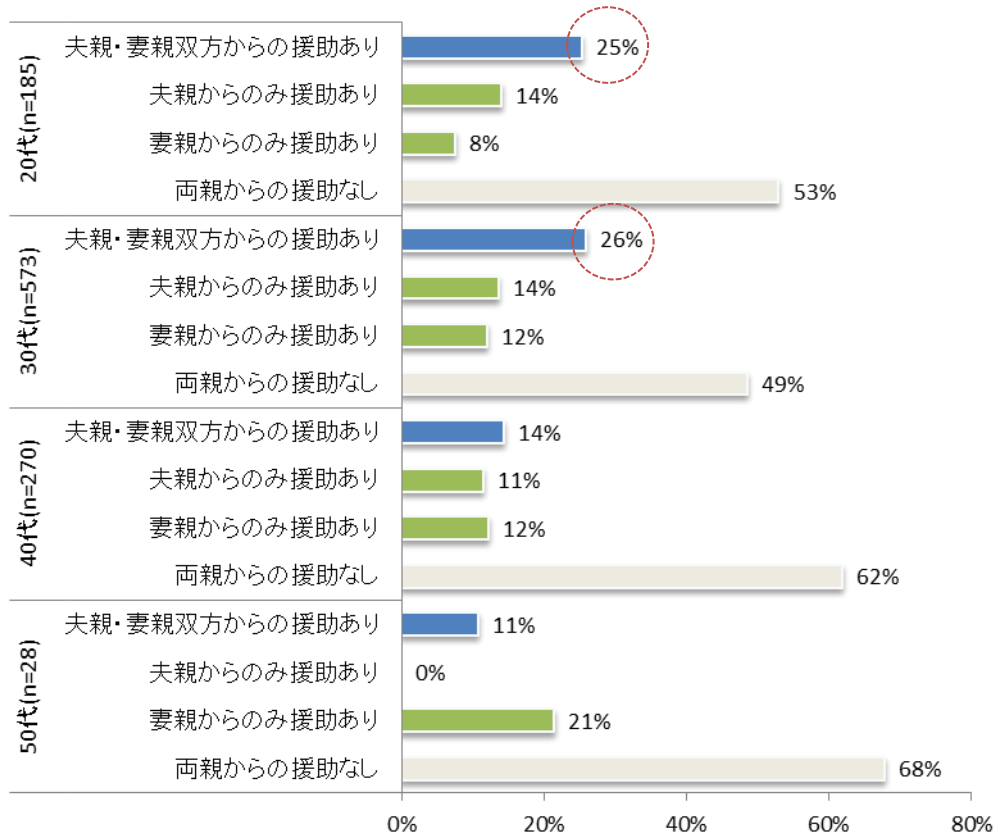
30代以下の4軒に1軒は、父親・母親の双方から援助あり

- 全体の22%は父親からも母親からも援助を受けています。
- また住宅の建設・入居時の年代別にみると、20代、30代で双方の親から援助を受けています。50代でも3割はどちらかの親から援助があることもわかります。

◇別居の父親・母親から自宅取得のための援助がある割合



◇建設・入居時の年代別 別居の父親・母親からの自宅取得のための援助がある割合

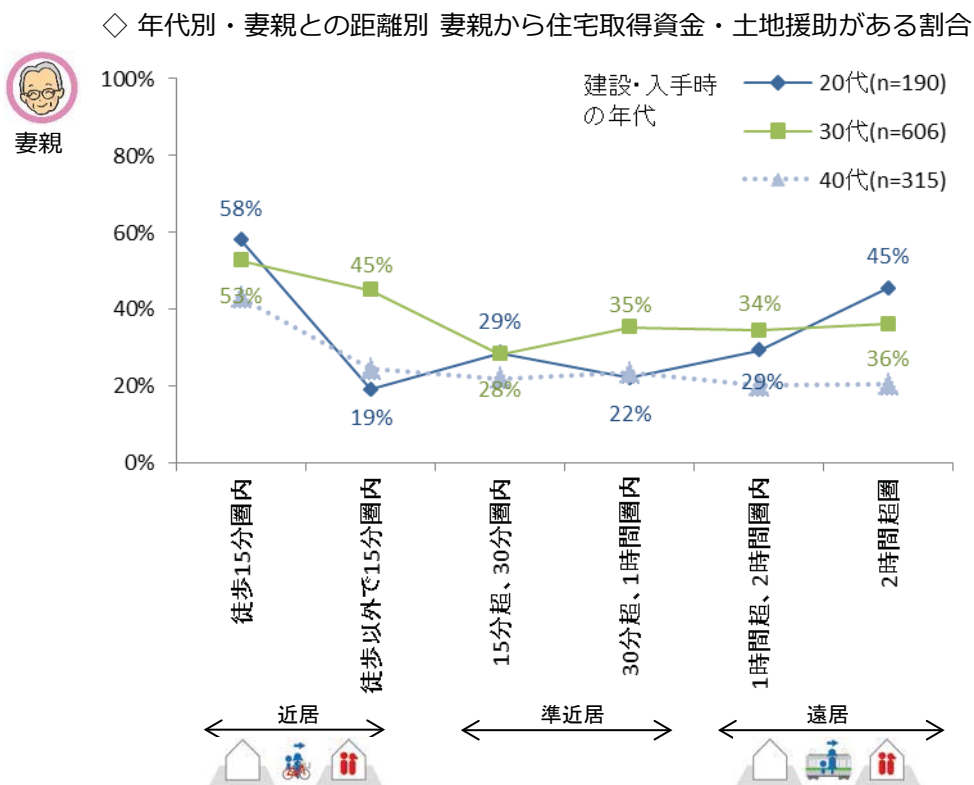
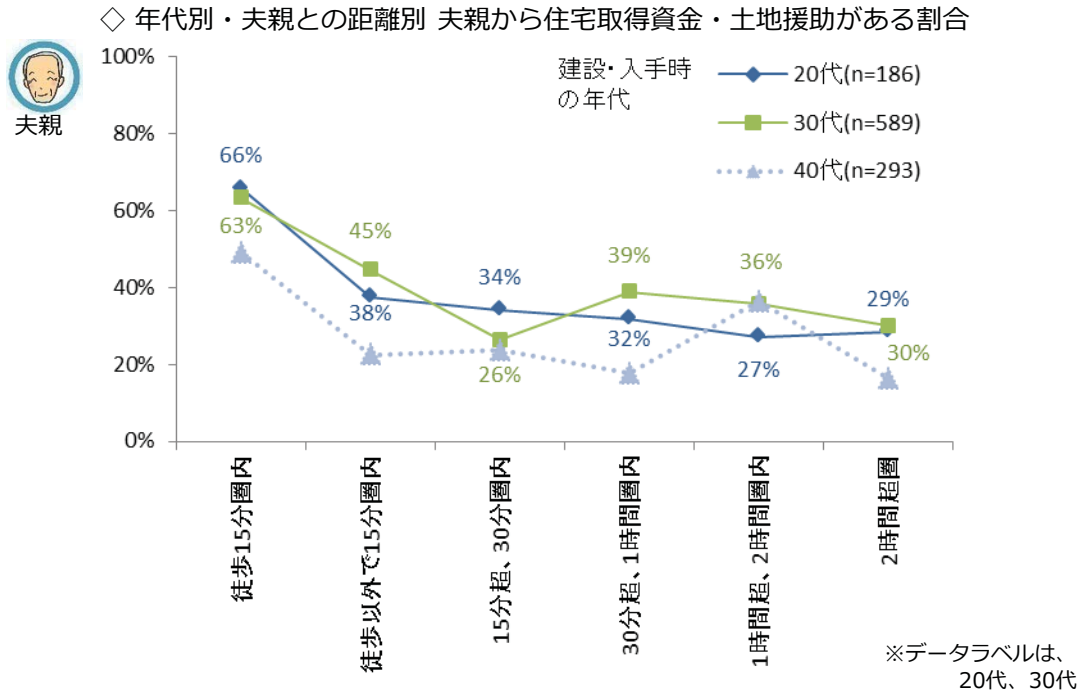


3-2) 家づくりの資金面における親子コラボレーション〈近居・遠居編〉



親の住まいと徒歩15分圏内の場合には、親からの援助を受ける割合が特に高い

- 父親から徒歩15分圏内に住む場合、（自宅の建設・入手時代が）20代は66%、30代は63%が資金または土地の援助を受けている。
- 妻親の場合も徒歩15分圏内での援助割合は高く、20代58%、30代53%が援助を受けている。



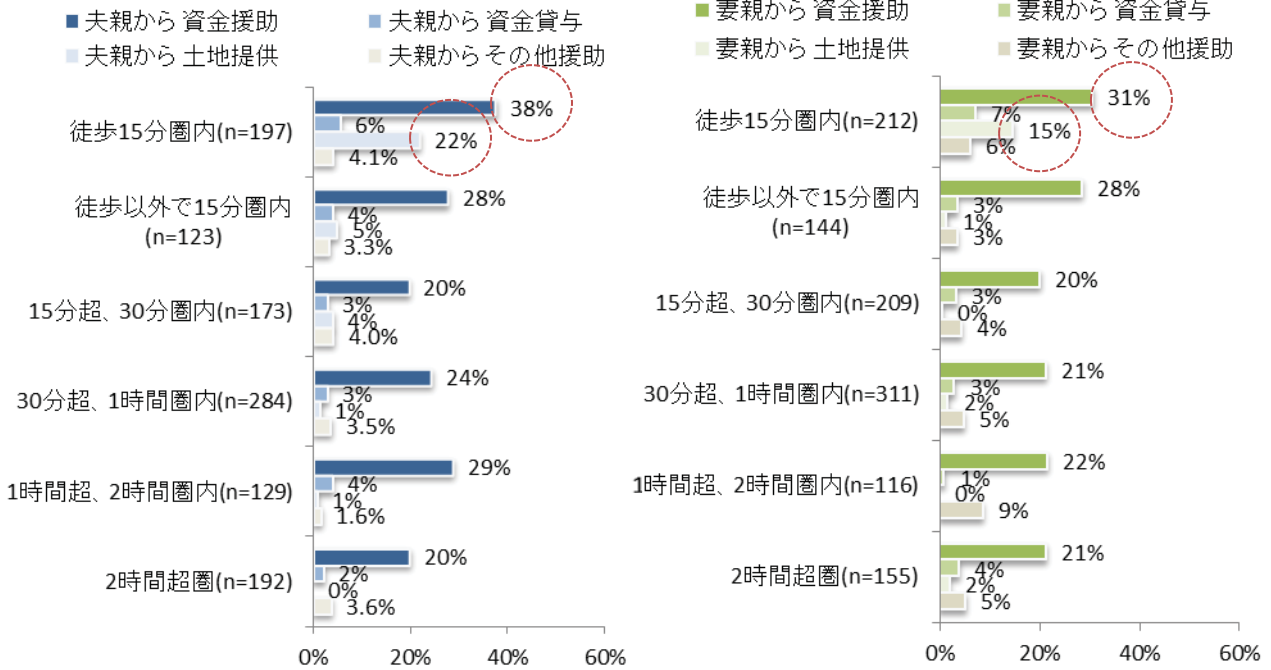
3-2) 家づくりの資金面における親子コラボレーション<近居・遠居編>



援助の種類は「資金提供」が最も多く、そのうち約8割は贈与税非課税範囲内

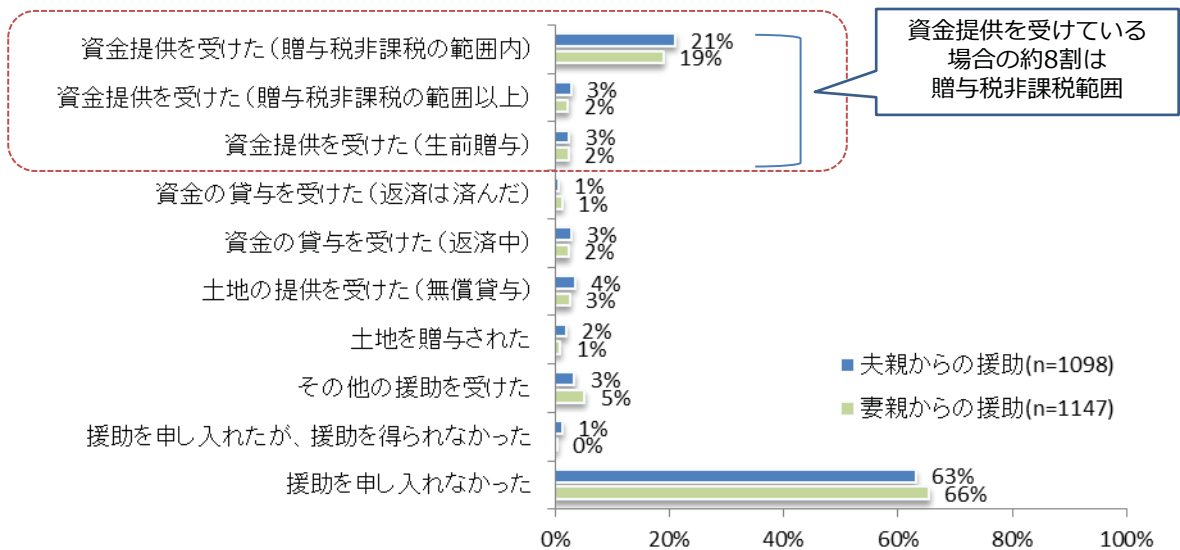
- 援助の種類は「資金提供」が最も多くありますが、徒歩15分圏内では「土地提供」も2割前後あります。

◇ 別居の父親・妻親からの資金・土地援助と住まいの距離の関係



- 資金提供は、父親から27%、妻親から23%受けており、土地提供や資金貸与よりも多くありますが、そのうち約8割は、贈与税非課税範囲の資金提供です。

◇ 別居の父親・妻親からの資金・土地援助と住まいの距離の関係



4) 相続に関する考え<同居・近居 比較編>



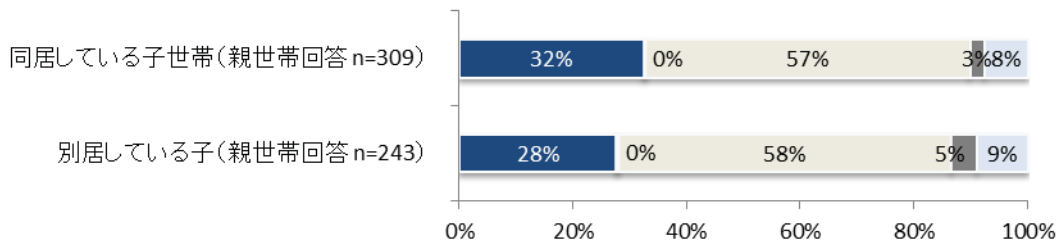
相続について同居家族が同意している割合は3割、別居家族は1割強、多くは「必要になった時に話し合う」と先送り

- 親世帯が、同居の子世帯や別居の子と相続について「話をして全員同意している」のは、約3割ということがわかりました。多くは、必要となった時にと考えているようです。

◇ 同居世帯の相続に関する話し合い状況



- 話をして、全員同意している
- 話をしたが、同意していない
- 必要になった時に話し合う
- その他
- 相続はない

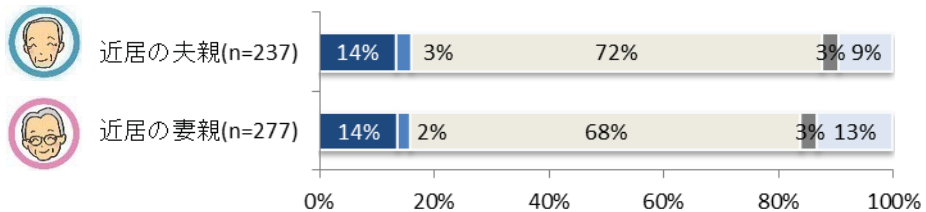


- 別居の親と子世帯が相続について「話をして、同意している」割合は1割強と、同居よりもさらに少なく、7割が「必要となった時に話し合う」と考えています。
- また、相続に対する考えは「わからない」が最も多く、次いでばらついています「全て同居の子が相続」10%である。

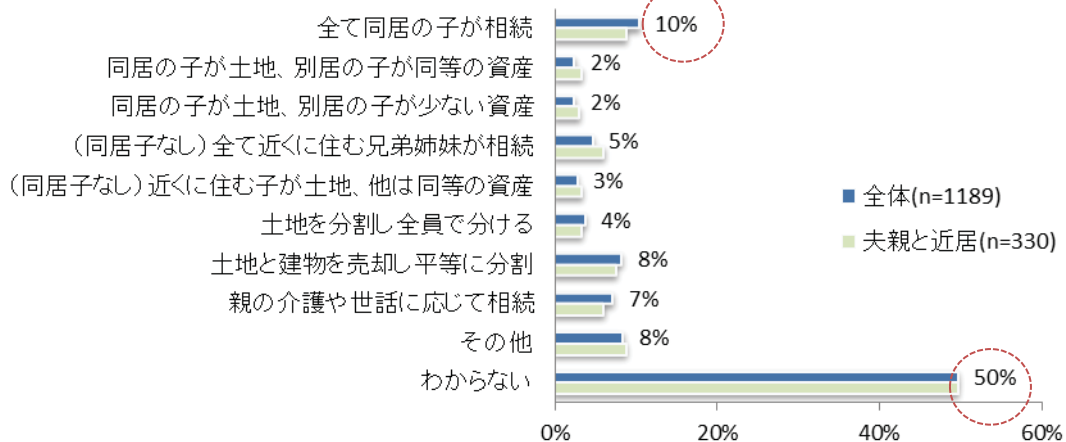
◇ 近居世帯の相続に関する話し合い状況



- 話をして、同意している
- 話をしたが、同意していない
- 必要になった時に話し合う
- その他
- 相続はない



◇ 親と近居している子世帯の相続に関する考え



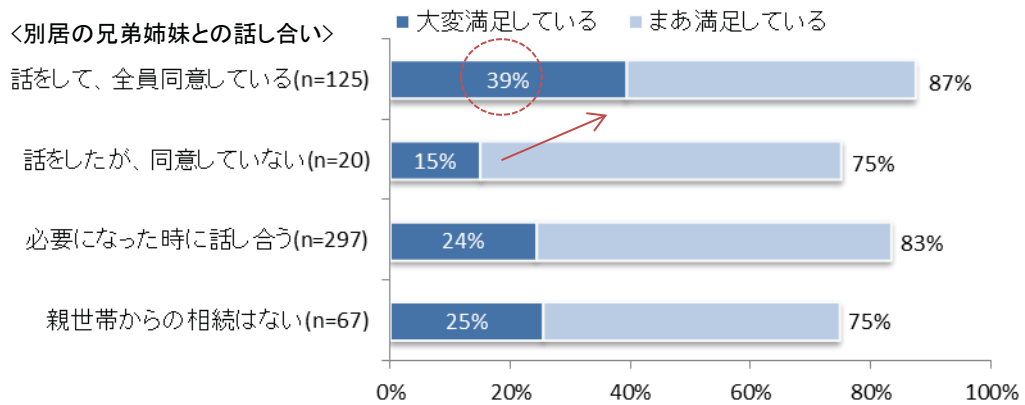
4) 相続に関する考え<同居・近居 比較編>



同居家族の中で相続について全員同意している場合には、同居満足度も高い傾向

- 相続コンセンサスが上手く取れている同居家族は、その満足度も高い傾向がみられます。別居の兄弟姉妹と子世帯が「話をし、全員同意している」場合には、大変満足している割合が39%と高く、まあ満足している割合を足して、87%が同居の親子関係に満足しています。

◇ 同居世帯の相続に関する話し合い状況と同居満足度(子世帯)の関係

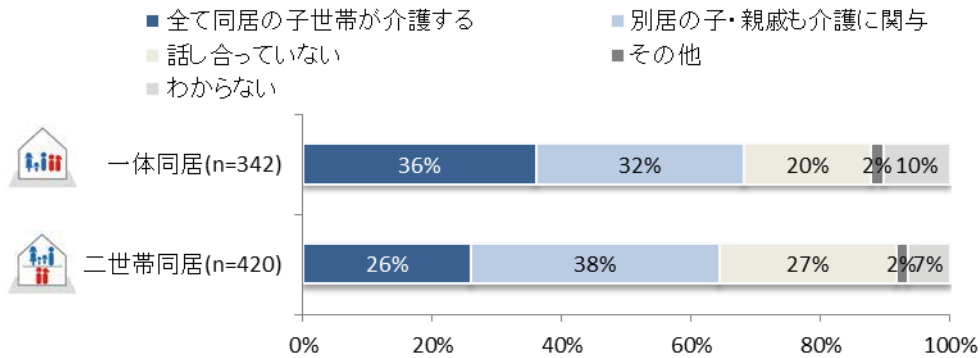


5) 介護に関する考え<同居・近居 比較編>

同居親の介護は「全て同居の子世帯」「同居の子世帯と別居の子で」が行う考えが多いが、近居・遠居している子世帯では「話し合っていない」が4-5割に達する

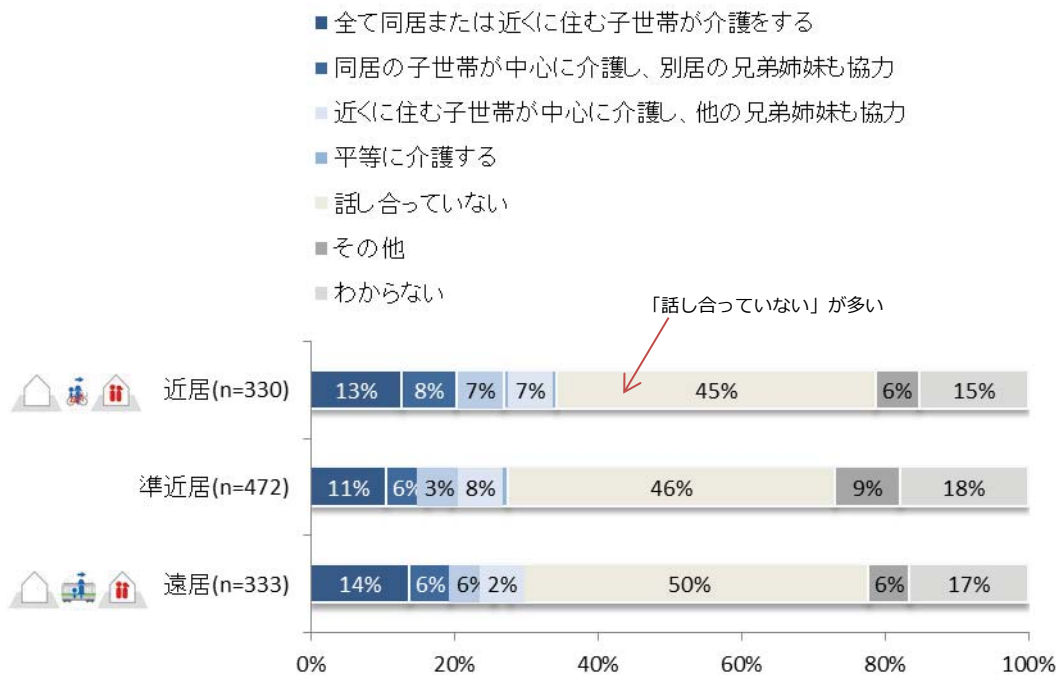
- 親と同居している子世帯は、「全て同居の子世帯」で介護をする考えを、一体同居の場合には36%、二世帯同居の場合には26%持っています。
- まだ介護について「話し合っていない」という態度保留であるのは、一体同居で20%、二世帯同居で27%ありました。

◇親と同居している子世帯の介護に対する考え



- 親と近居している子世帯は、介護は「話し合っていない」が4割から5割に達し、同居をしている子世帯とは大きく異なります。
- 夫親・妻親の別に見ても、この傾向には変わりがありません。（図なし）

◇夫親と近居・遠居している子世帯の夫親の介護に対する考え



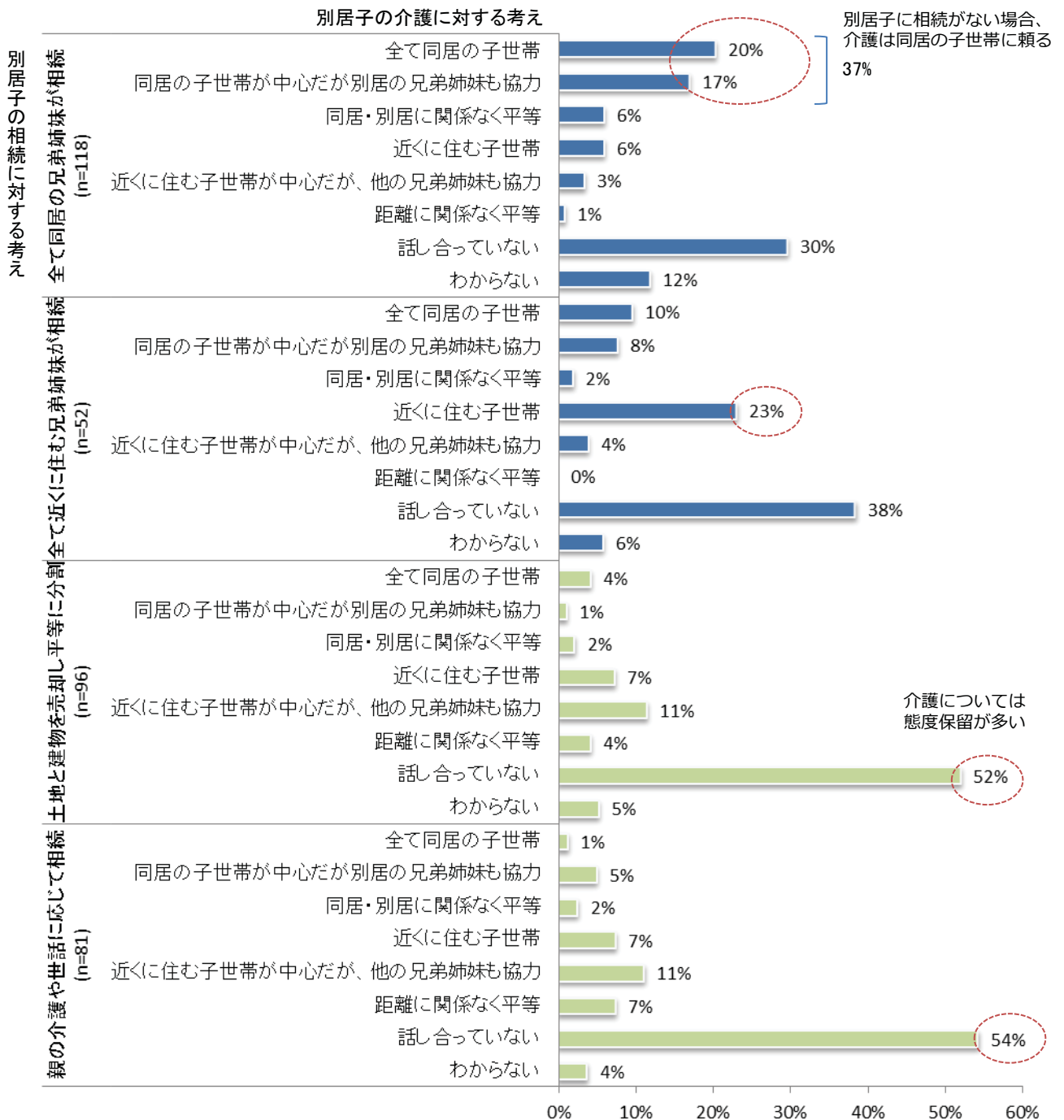
5) 介護に関する考え<同居・近居 比較編>



親と別居している子は、親からの相続がない場合には、介護を同居の子世帯に頼る考えが4割程

- 親と別居している子世帯が相続について「全て同居の兄弟姉妹が相続」とする考えは、P42でお伝えした通り、全体の10%を占めますが、その場合には、介護も同居の子世帯に頼る考えが4割程を占めます。
- 相続について「土地と建物を売却し平等に分割」「親の介護や世話に応じて相続」と考える子世帯の場合には、実際の介護に関して、「話し合っていない」という態度留保が過半数となりました。

◇親と別居している子の相続と介護に対する考えの関係

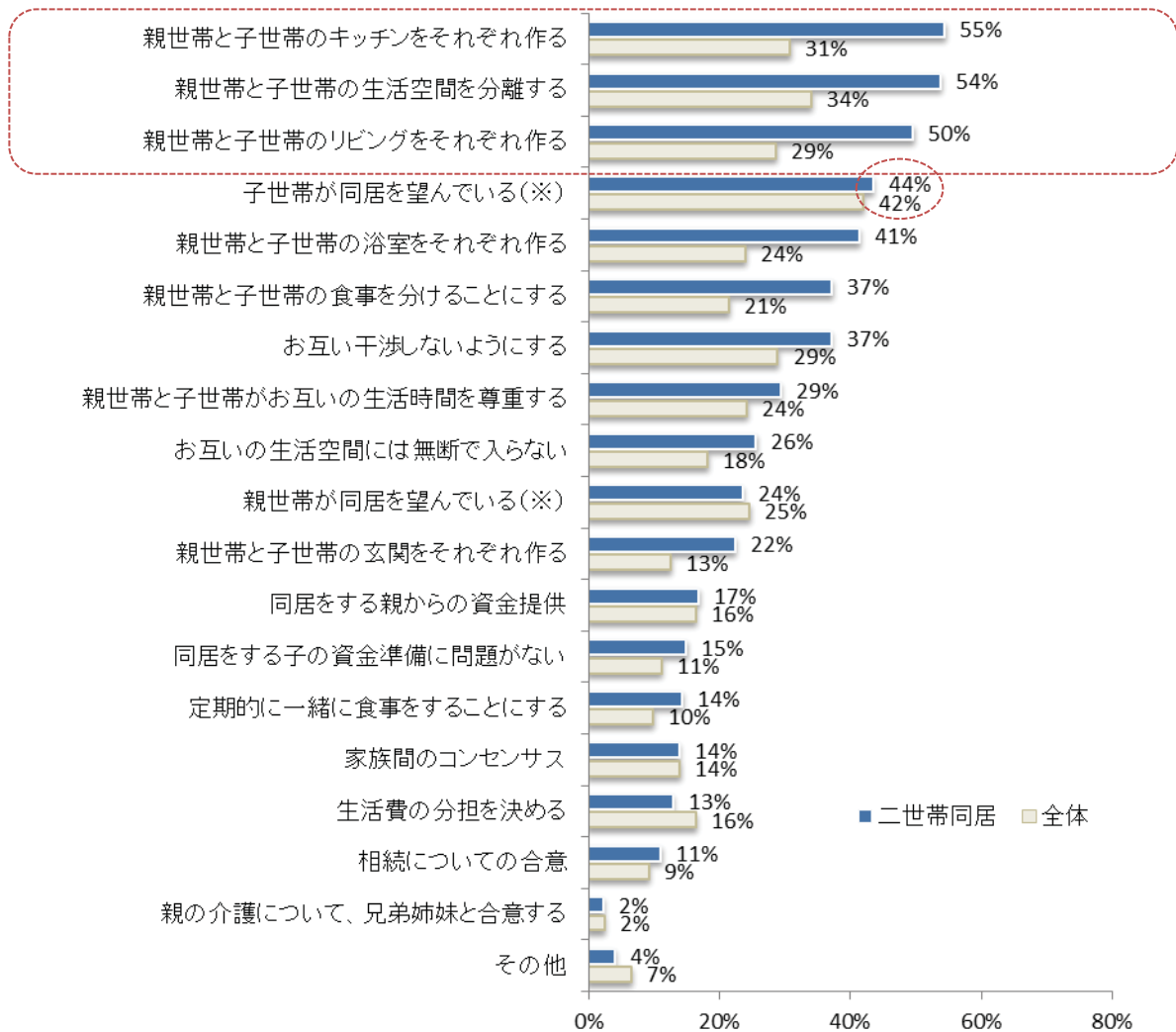


6-1) 同居・近居の決め手となったもの・こと<同居編>

同居に踏み切った決め手は、「子世帯の希望」と「親世帯と子世帯の生活空間を分け、リビングやキッチン、浴室が2つあること」

- 同居全体では、同居の決め手の1位は「子世帯が望んでいる」42%でした。
- 特にキッチンが2つ以上ある二世帯同居に限ってみると、「キッチンを専用に作る」55%が最も多く、その他にも生活空間の分離に関する決め手が多く挙げられています。同居に踏み切った決め手は、水廻りやリビングの独立であるケースも多いと言えます。


◇ 同居の決め手となったもの・こと



同居の決め手：**それぞれの専用空間づくり、お互いのプライバシー確保と協力を約束**

- お互いの生活時間が違うのでキッチンとトイレとリビングは別々にするのは自分が提案した。親からは玄関を別々にすることを提案された。将来親世帯の部分を賃貸にしたり、私の子どもが結婚して同居したときのことを考えて二つ作ったほうが良いということになった。（子世帯妻回答・50代/息子夫婦同居）
- こちらからは、玄関を含む全ての生活空間を1階と2階で分けることを条件とした。母からは特になし。（子世帯妻回答・40代/娘夫婦同居）
- ウチは共働きなので、母から「平日は夕飯を作るので休日は食事を作ってほしい」と言われたくらい。（子世帯夫回答・50代/息子夫婦同居）
- お互い干渉しない。同じマンションに住んでる感覚で住みましょうと親世帯から言われた。だから二世帯住宅にした。（子世帯妻回答・40代/息子夫婦同居）
- 1. 生活空間の独立 2. 互いの不干渉 3. 互いの助け合い（子供全員）
4. この家が親世代、子世代の本拠であることの確認。（親世帯父回答・30代/息子夫婦同居）
- 同じ屋根の下、お互いに干渉せずに自分達の生活を守る。お互いのカギを渡さない、生活費は別にすると約束しました。（親世帯母回答・30代/息子夫婦同居）

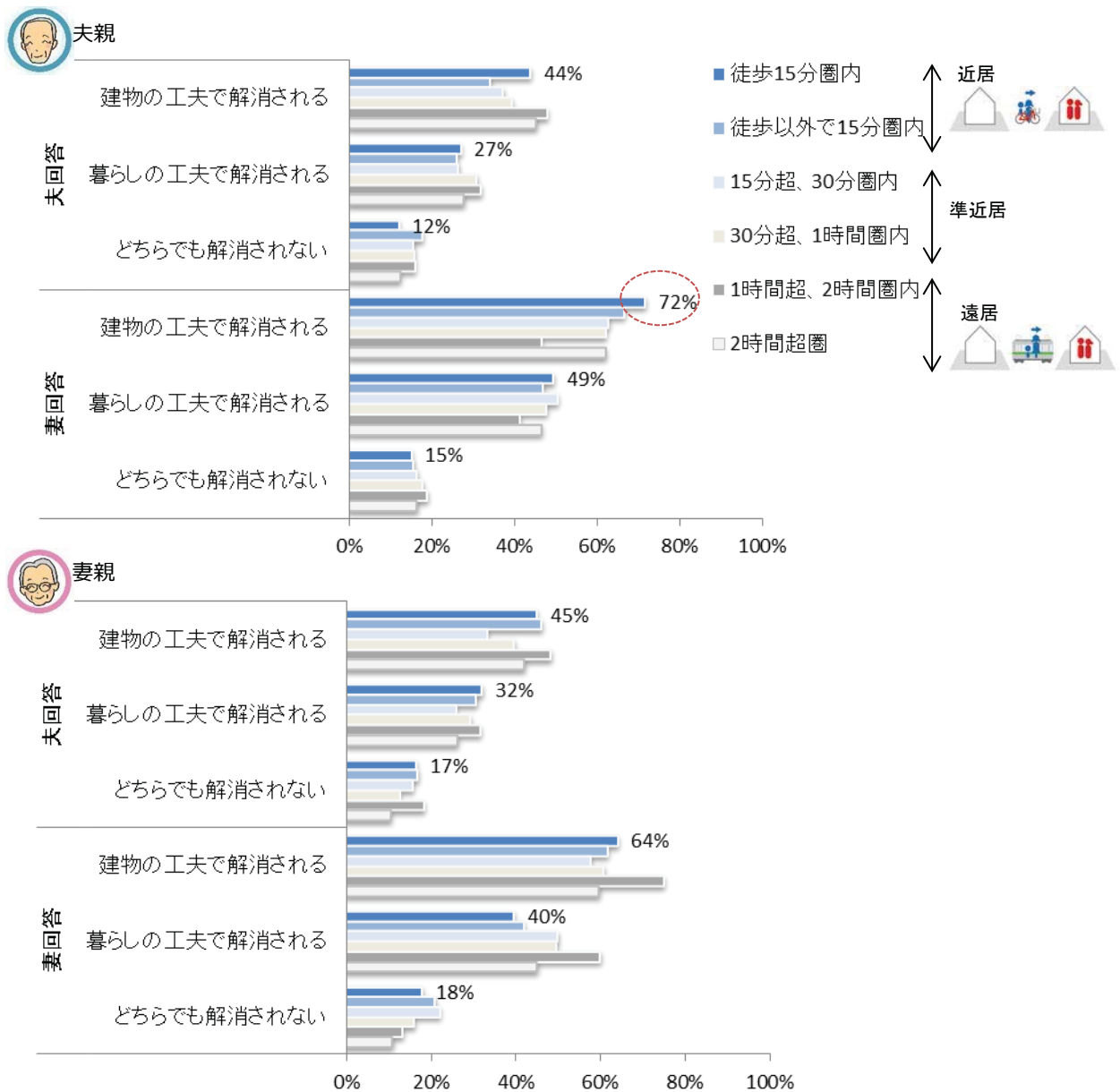


6-1) 同居・近居の決め手となったもの・こと<同居編> 

近居の子世帯妻も、「同居」の不便・デメリットは「建物の工夫」で解決できると考えている

- 親と別居している子世帯の妻が、「親との同居」というイメージに感じる不便・デメリットの上位は「干渉されるのが嫌だ」「何かと気を遣うから嫌だ」という両世帯の関係性に関するものが上位にあがっています。(図なし)
- しかし一方で、その同居に感じる不便について多くは「建物の工夫」で解消され则认为しており、子世帯妻が夫親との同居に関して感じる不便の場合でも、72%が建物の工夫で解消されると考えています。
- 反対に、同居の不便・デメリットを建物や暮らしの工夫で解消できないと考える人は15%に過ぎませんでした。

◇ 別居の子世帯が感じる「同居の不便・デメリット」の解消法



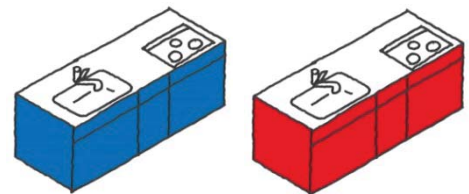
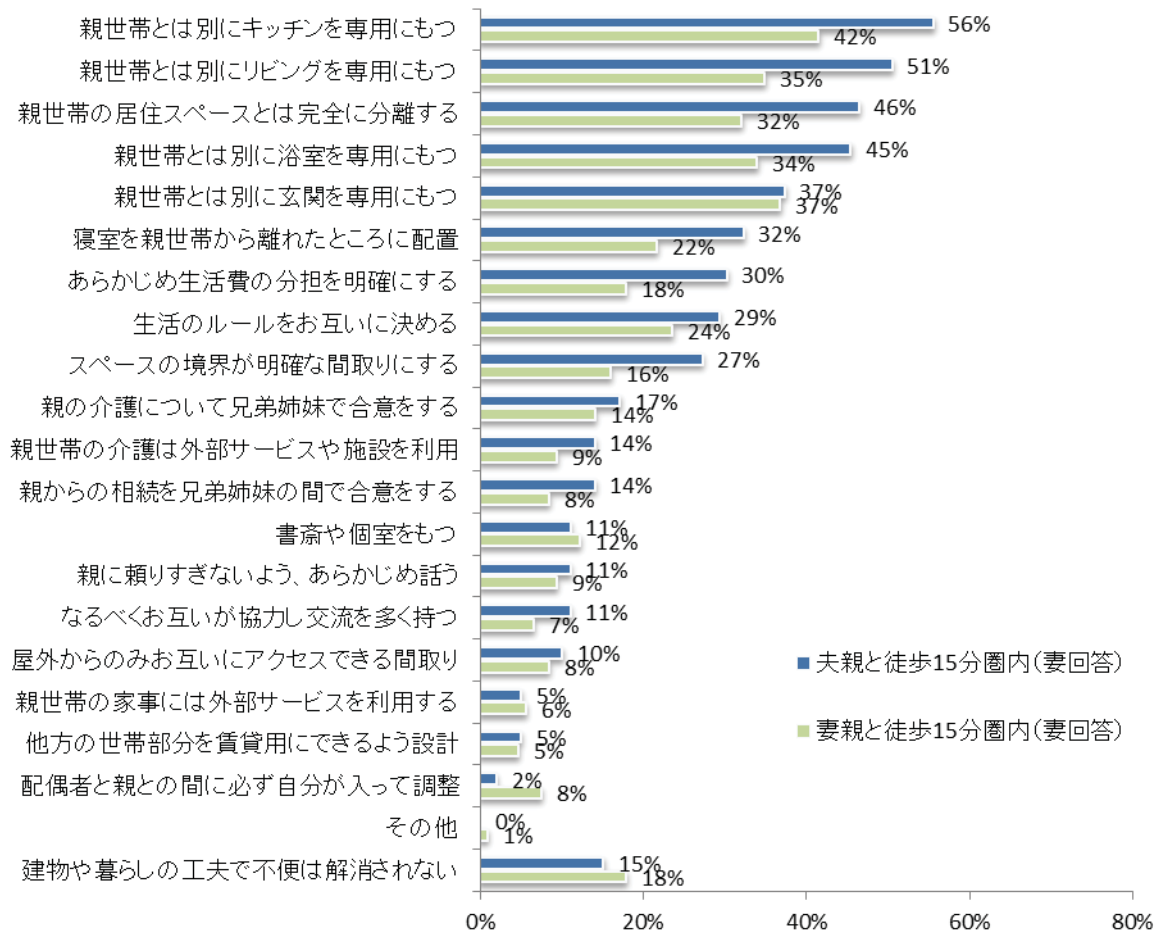
6-1) 同居・近居の決め手となったもの・こと<同居編>



近居の子世帯からも支持される「キッチンをそれぞれの世帯が専用にもつ」という建物の工夫

- 親の住まいから徒歩15分圏内に住む子世帯の妻は、夫親との同居の不安解消法として「キッチンを専用にもつ」56%が1位、次いで「リビングを専用にもつ」51%を支持しています。

◇ 同居の不便・デメリットを解消するための工夫（親の住まいと徒歩15分圏内の妻回答）

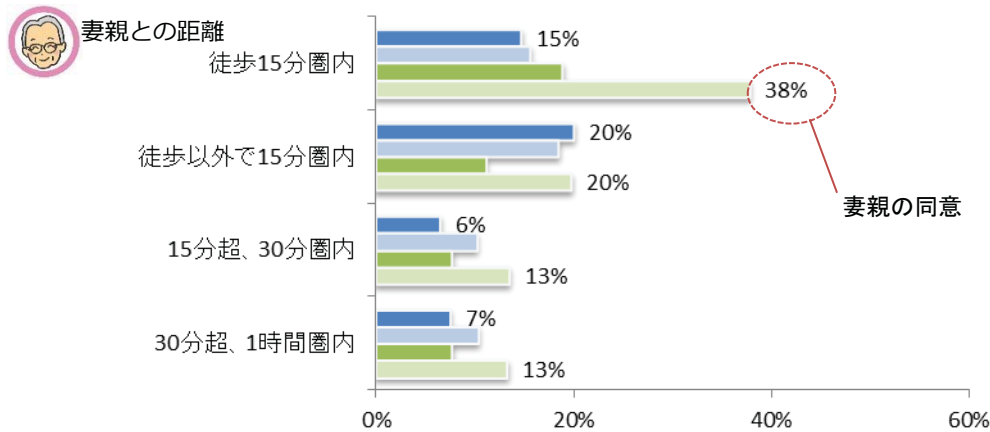
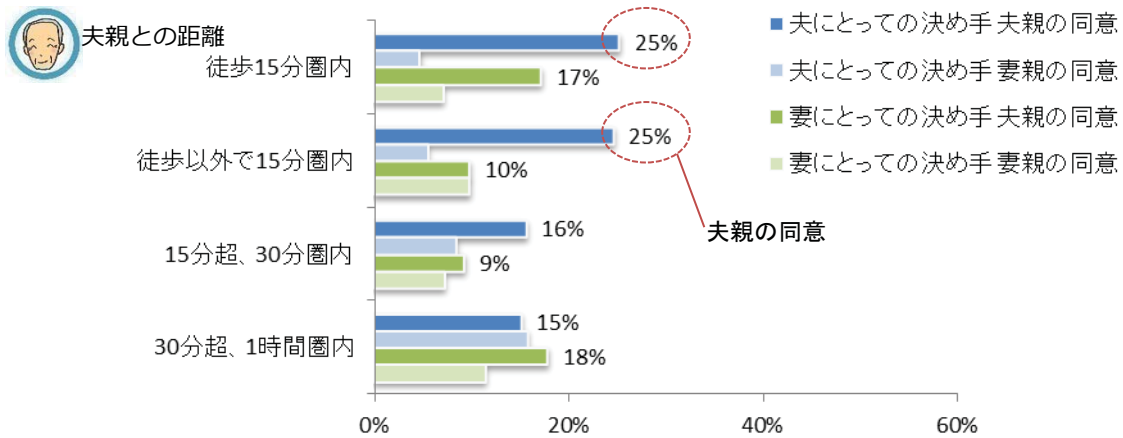


6-2) 同居・近居の決め手となったもの・こと<近居・遠居編>

徒歩15分圏内に近居している妻の決め手は、「妻親の同意」が4割と多い

- 夫親と15分圏内の近居に住む場合には、夫にとって「夫親の同意」が得られることが、近居の決め手となる割合が25%あります。
- また妻親と徒歩15分圏内に住む場合には、妻にとって「妻親の同意」が得られることが、近居の決め手となる割合が38%と多くあります。

◇ 親との近居の決め手が「親の同意」である割合



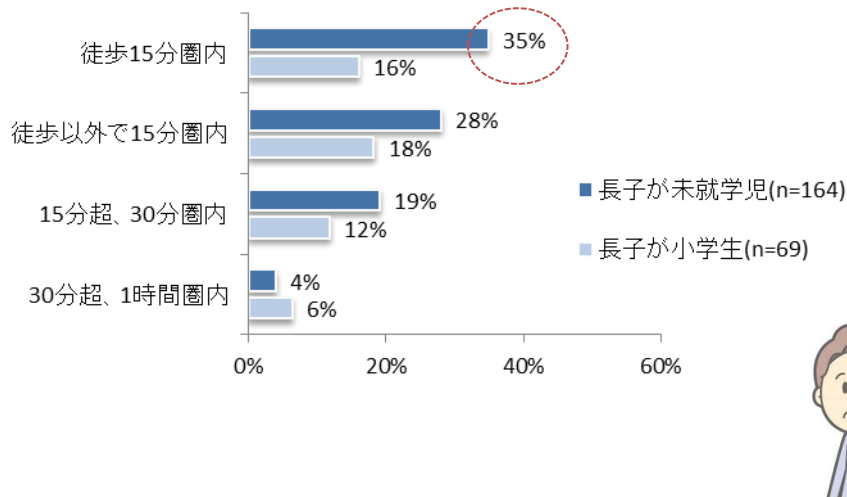
6-2) 同居・近居の決め手となったもの・こと<近居・遠居編>




長子が未就学児の場合に限ると、妻親と徒歩15分圏内に近居している妻の35%にとっては「子の世話や送迎を親に頼めること」が「近居の決め手」

- 長子が未就学児の場合に限ると、妻親と徒歩15分圏内に近居している妻の35%は「子の世話や送迎を親に頼めること」が決め手になっている。

◇ 妻親と近居の決め手が「子の世話や送迎を親に頼める」ことである割合（妻回答）



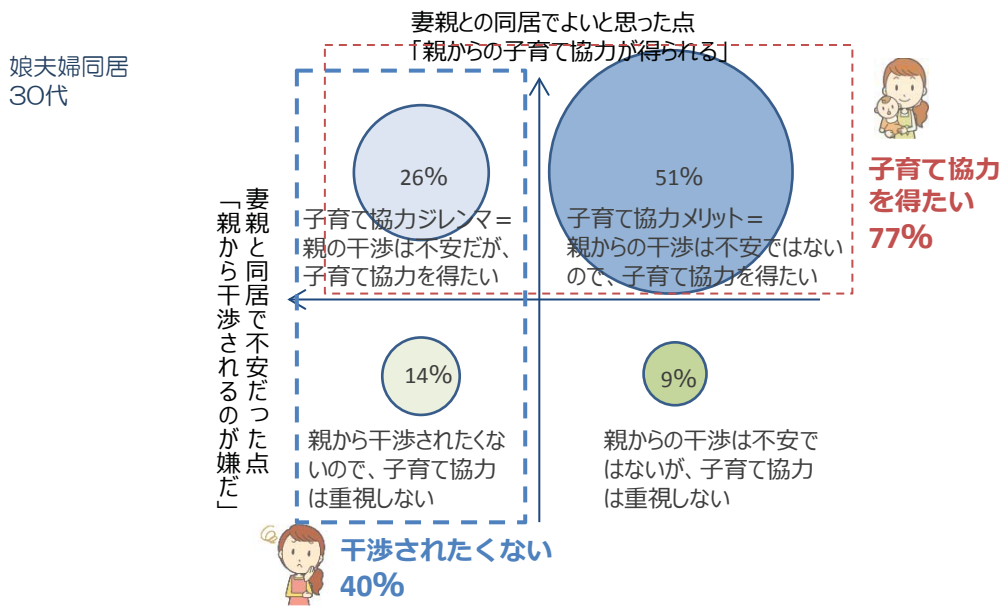
※長子が小学生の場合は、徒歩以外で15分圏以上はサンプルが少ないため参考値

6-2) 同居・近居の決め手となったもの・こと<近居・遠居編> 

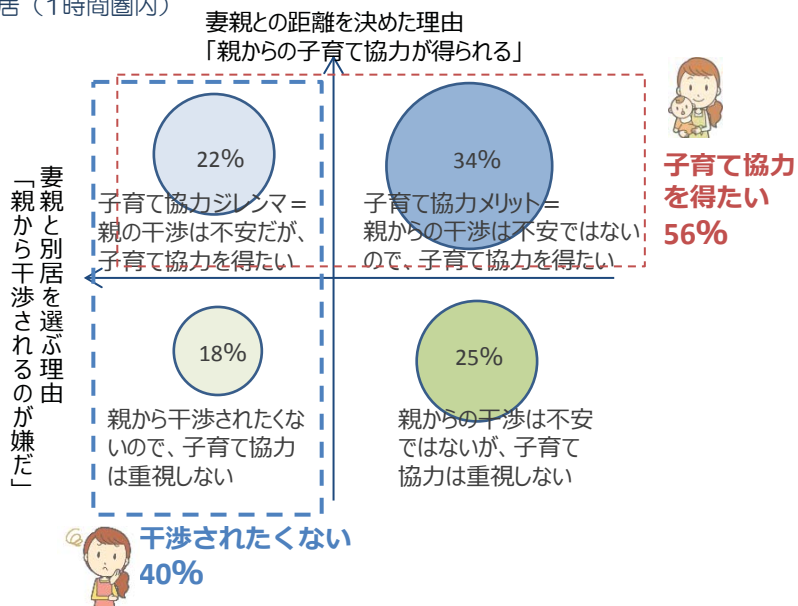
同居と近居は、子育て協力ニーズと干渉不安のバランスで選択される

- 30代の妻とその親との関係において、子育て協力ニーズと親からの干渉に対する不安をマトリクスにして、同居と別居を比較してみたものが以下の図です。
- 親からの子育てサポートが得られるメリットと、干渉されるという不安の両方を抱えている子育て協力ジレンマグループは同居で26%、1時間以内の距離に住む近居・準近居でも22%います。一方で、親からの干渉は気にならず、子育てサポートのメリットを感じている子育て協力メリットグループは、同居に51%と多くいることがわかります。
- 30代において同居や近居に伴う親との関係性は、子育て協力ニーズと干渉不安のバランスの中で成り立ち選択されるのではないかと考えられます。

◇子育て協力ニーズと親からの干渉不安マトリクス/30代



妻親と近居・準近居（1時間圏内） 30代



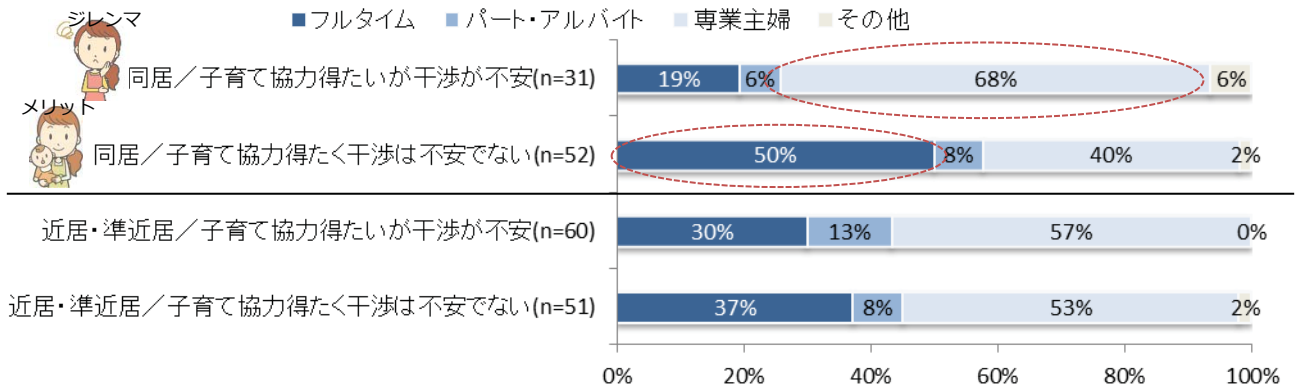
6-2) 同居・近居の決め手となったもの・こと<近居・遠居編>



子育て協力を得たいが、干渉が不安な専業主婦同居、干渉は不安でないフルタイム共働き同居

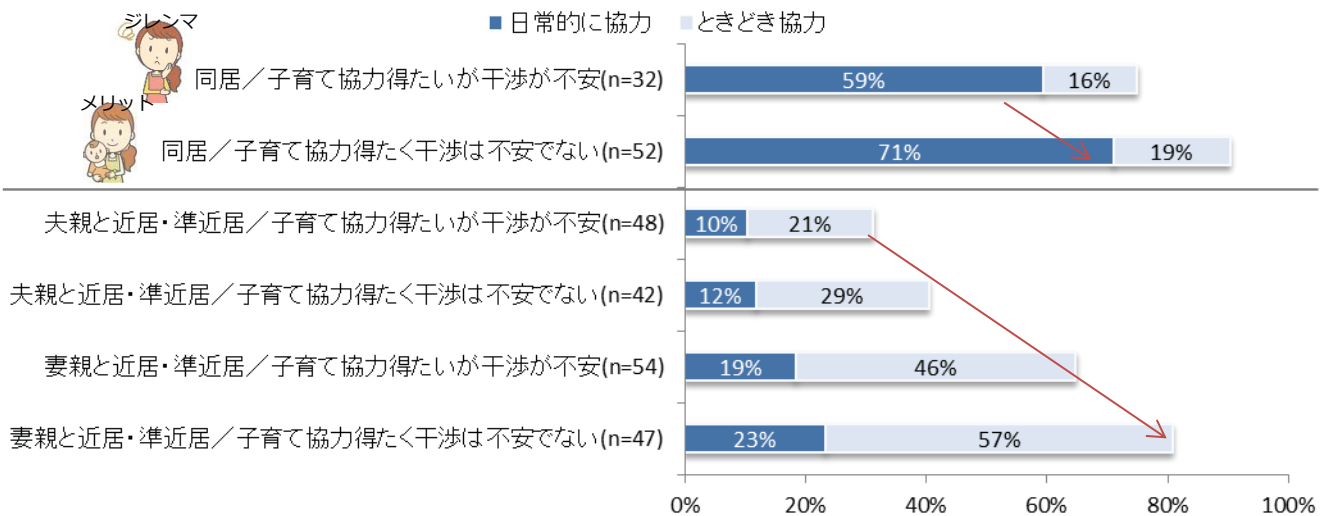
- 同居の子育て協力メリットグループ（子育て協力得たく干渉は不安でない）には妻：フルタイム就業が50%と多く、逆に子育て協力ジレンマグループ（子育て協力得たく干渉が不安）は、妻：専業主婦が68%と多い特徴がみられました。
- 親と近居・準近居（1時間圏内）の場合には、妻の勤務状況と子育て協力意識には殆ど関係がみられません。


◇ 妻の就業状況別に見た 子育て協力ニーズと親からの干渉不安マトリクス/30代



- 実際には、同居の場合、子育てジレンマグループも子育てメリットグループもともに、日常的に親から子育て協力を受けている割合は高いのですが、妻がフルタイム就業の割合が高い子育てメリットグループではより高く、71%が日常的に親の協力を得ています。
- 近居・準近居では、干渉が不安でない夫親よりも、干渉が不安な妻親により協力を得ている現状がわかります。

◇ 子育て協力ニーズと親からの干渉不安マトリクスと親からの子育て協力の関係/30代

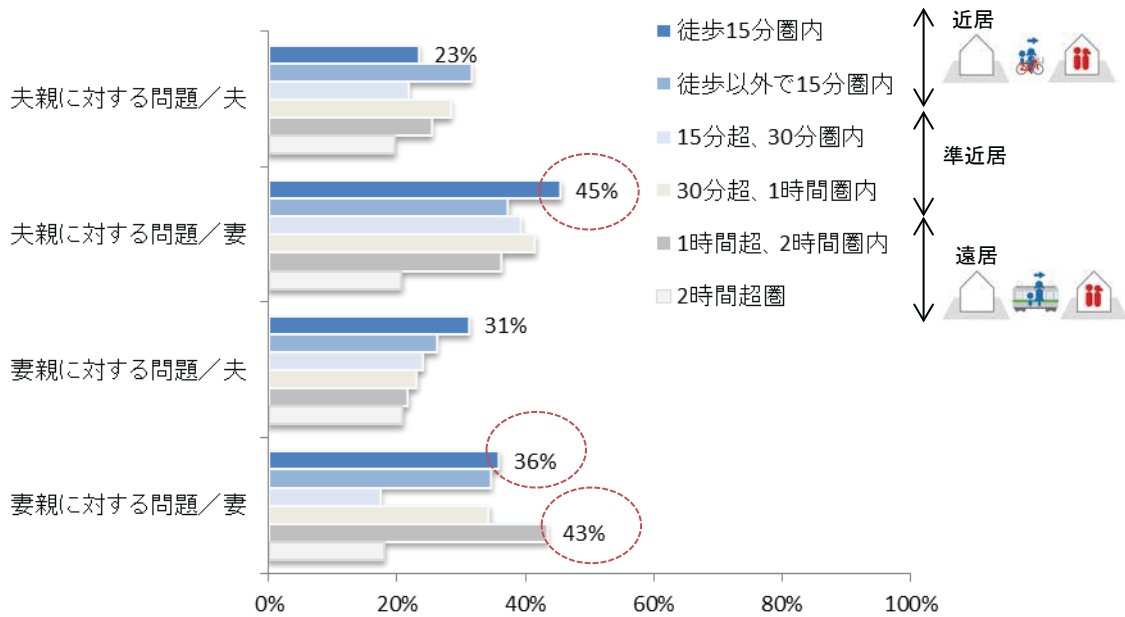


6-2) 同居・近居の決め手となったもの・こと<近居・遠居編> 

徒歩15分圏内に住む父親との関係に、何らかの問題があると感じている妻(嫁)は45%、近居で感じられている問題は、同居のそれとよく似ている

- 父親と徒歩15分圏内住んでいる妻(嫁)のうち、父親との関係に何らかの問題(近居ストレス)があると感じている妻は45%いることがわかりました。
- 概して距離が離れるほど、その問題を感じる割合は減少していますが、妻親に対して妻(娘)を感じる問題は、必ずしも距離に応じて減少しません。実の娘の場合には、離れていても「介護を期待される」「干渉される」という問題を感じるようなようです。

◇ 親と別居している既婚の子のうち、親との間で問題を感じている人の割合



- 徒歩15分圏内に住む親に対し妻が感じている問題の内容は、同居の暮らしに感じているものと同様の傾向がみられることがわかりました。


妻が親との関係に感じている問題/ (徒歩15分圏内・問題を感じている人に対する割合)

	父親に感じている問題	妻親に感じている問題
1位	何かと気を遣う(44%)	親に干渉される(21%)
2位	親の介護を期待される(24%)	親の介護を期待される(18%)
3位	親が連絡なく訪問してくる(24%)	子のしつけに意見が合わない(18%)

近居・遠居の親との距離：もっとうすればよかったと思うこともあります

- 妻の親が引っ越しをする際に、家族や兄弟の距離を考えて引っ越しをしたが、今考えると、どの家からも少し中途半端になってしまったので、もっとうちのそばでもよかったのではと思う。(30代夫・夫親と近居、妻親と遠居)
- 徒歩圏(もっと近く)に住めば良かった。(40代夫・夫親と近居：徒歩以外で15分圏内)
- 自分の親と距離をとってしまったのは良くなかった、縁遠くなった。(50代夫・妻親と近居)
- 近居は妻の親が良く来るので、最悪です。(40代夫・妻親と近居(敷地内隣居))
- スープの冷めない距離は近すぎる。(50代妻・夫親,妻親と近居)
- 近すぎて、こちら事が親にほとんど分かってしまう。主人が仕事を休めば「今日、あの人はどうしたの?」と言われてたり、「休みなのに、車がなかったね、どこに行ってたの?」と言われてたりします。(40代妻・妻親と近居)
- 自分の親とは、考え方も似ているので、近くて良かった、お互い協力し合えると思うが、配偶者の親とは、考え方が大きく違うので、とてもストレスがかかる。近いがゆえに、しょっちゅう呼ばれたり、急に来たり、孫の教育にも口を出してきたり…配偶者の親と近居するなら、配偶者は頼りがいのあるしっかりした人でないと、ストレスが溜まる。遠くに引っ越したいと、多々思うときがある。(30代妻・夫親,妻親と近居)
- 同じマンション内の違う部屋が理想だと思う。(30代妻・妻親と近居)



6-2) 同居・近居の決め手となったもの・こと<近居・遠居編> 

近居も、実は二世帯同居のような家族の交流や気兼ねが存在

■ 近居にしてよかったこと

親にはお世話になってます

- 子供の面倒を見てもらえる。正社員の為、病院に連れて行ってもらえたり、ご飯を食べさせてもらえたりする。(40代・妻親と近居)
- いざというときはすぐに頼れる(30代・父親と近居(敷地内隣居))
- ミシンの使い方など聞きに行ったり、たくさんある食べ物をわけたり、お茶をしにいける。(30代・妻親と近居)
- 子供を少し預けたいときにすぐに預けられる。また、近くに住んでいると子供も親のことが大好きなので、預ける時も心配がない。(30代・妻親と近居)
- こちらの都合の良いタイミング会いに行き、色々と世話になれる。食事をご馳走になったりとか。(40代・妻親と近居)
- 洗濯物の取り入れ(50代・父親、妻親と近居)
- 家をバルサンする時、ペットを私の家に移動させれる。もちろん両親も家で寛いでいて、バルサンが終わるころに帰ればよいので行き場がある事。(40代・妻親と近居(敷地内隣居))
- 冷蔵庫が別々だから、食材を買いすぎたときに冷蔵庫の空いたスペースを借りたことがある。(30代・妻親と近居(敷地内隣居))
- 旅行の時にペットの世話や植木の水やりをお願いできる、子供が親に叱られた時に逃げる場所がある(50代・妻親と近居)
- 正月やお盆などの際の、移動時間が少なく負担にならない。(40代・父親と準近居、妻親と近居)
- 幼稚園の行事や、下の子の出産などで子どもをみてもらえたこと。親のそばに住むようになってから、下の子が産まれたが、上の子と比べると祖父母に慣れているので面倒をみてもらいやすい。(30代・妻親と近居)

親の様子がわかる

- 健康状態がすぐわかる(50代・父親と近居(敷地内隣居))
- 孫と気軽にお出かけできる姿が幸せそう(30代・父親、妻親と準近居)
- 親もかなり高齢になってきたので、寂しがるようになってきた。すぐに顔を出せるのは幸いなことだと思う。(40代・父親と準近居)
- 私の父が闘病生活の末、逝去したのですが、出来る限りのお手伝いや、孫との交流を毎日の様に持てた事。(30代・父親、妻親と近居)
- 親が元気に暮らしていた間は特に干渉せず、それぞれのペースで暮らせたので良かった。今は身の回りの世話をしているので、もう少し近距離なら良いのに、と感じることもある。(50代・妻親と準近居)

一緒にいろいろ楽しめる

- 買い物と一緒にいける。シェア出来る。(40代・夫親、妻親と準近居)
- 自分の親が行楽好きでアウトドアなのでよく誘ってくれる。じぶんたちでは行けない場所や思いつけない素敵な場所をよく知っているので誘われやすい距離に住んでいることは良かったと思う。(30代・夫親と近居、妻親と準近居)
- 旅行のお土産などをすぐに持っていけること。甥や姪が親の家に来た時に、すぐに会いに行けること(30代・夫親、妻親と近居)
- 義父母との交流が多くなった。子供の世話もしてもらえ、安心して仕事に行くことができるので助かっています。適度に距離が離れているので、「同居前の試用期間」としてよいと考えています(将来的には同居を考えています)。(30代・夫親と準近居)

距離が関係をうまく保つ秘訣

- 適度な距離がある事。顔を見せるのも週に1回程度で配偶者も負担になっていない。また距離が近いため、食事の誘いをするのもされるのも、了解も断りも入れやすい。(30代・夫親、妻親と準近居)
- 主人は自分の親に恵まれなかった分、うちの両親とは仲良くやっているが、それでも同居だったら色々気疲れすると思う。敷地内別居だとプライバシーや生活リズムは守られるのでよかった。(40代・妻親と近居(敷地内隣居))
- 泊まらなくても良くなったこと。用事があるときは、主人だけ行っても違和感が無い事(50代・夫親と近居(敷地内隣居))
- 近居だと同居ほど顔を見なくても良いから、嫁があまり同居に賛成でない場合はいいのでは??(30代・夫親と近居(敷地内隣居))



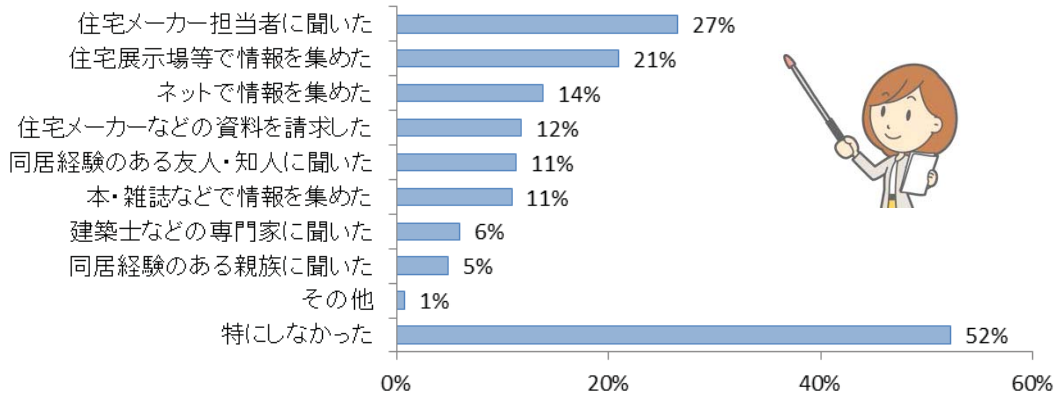
7) 同居・近居などの親との距離と住まいに関する情報収集



同居に関する情報収集・相談した相手は「住宅メーカーの担当者」

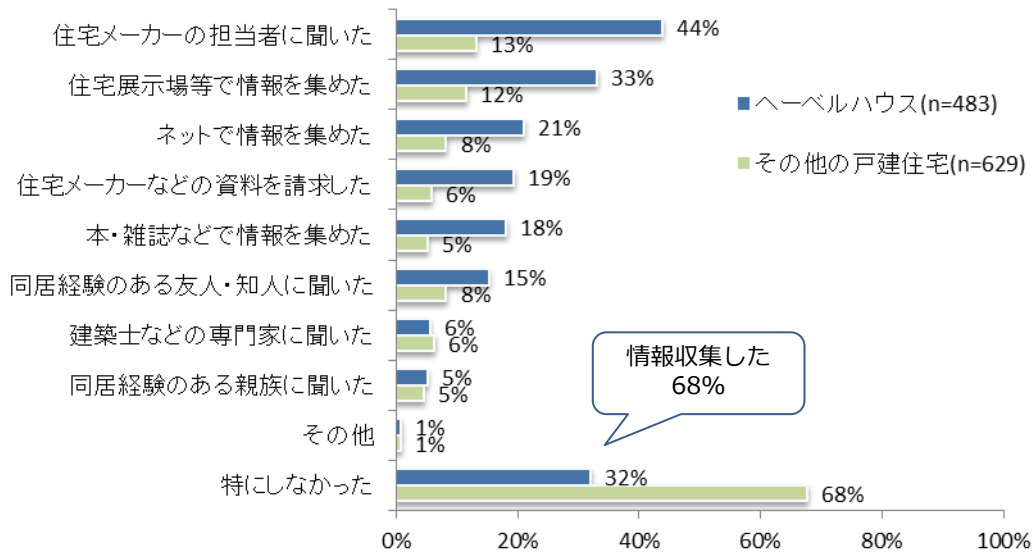
- 同居に関しての事前の相談や情報収集については、全体の48%がしています。
- 相談相手で最も多いのは、「住宅メーカー担当者」27%です。

◇ 同居に関する事前の情報収集・相談相手

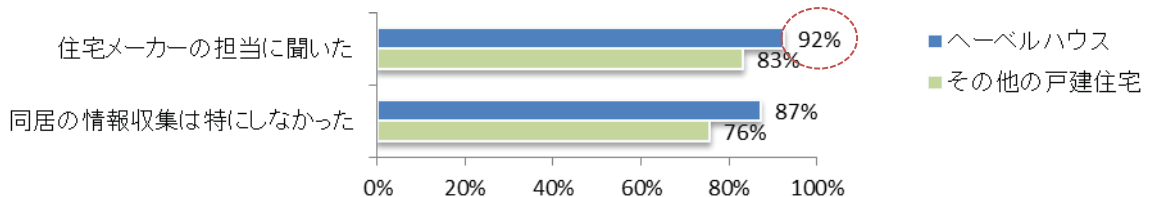


ヘーベルハウス居住者に限ると、同居に関しての事前の相談相手で最も多いのは、「住宅メーカー担当者」44%

◇ 同居に関する事前の情報収集・相談相手（ヘーベルハウス居住者）



◇ 同居に関する事前の情報収集・相談相手と暮らしの同居満足度



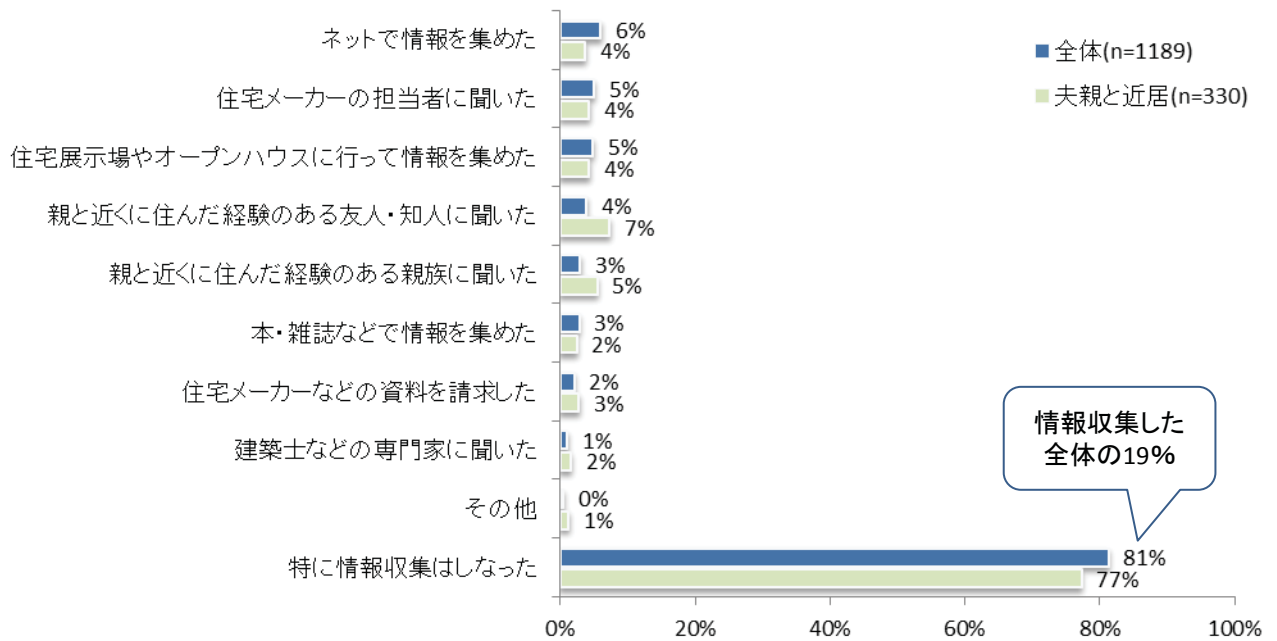
7) 同居・近居などの親との距離と住まいに関する情報収集



別居の親との距離や関係に関する情報収集・相談はほとんどなされていない
特に近居の暮らしを豊かなものとするためには、同居と同じような情報収集が必要

- 住まいを検討する際に、別居の親との距離や関係に関する情報収集・相談をしたのは全体の19%です。最も多い「ネットで情報を集めた」でも、わずか6%に過ぎず、別居の親との距離に関しての情報収集は、ほとんどされていない実態がわかりました。
- 夫親と近居をする場合にも、この傾向は変わりませんでした。

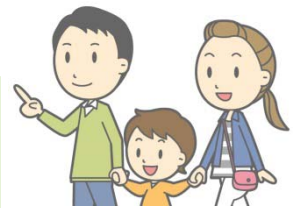
◇ 別居の親の住まいとの距離を考えるための情報収集・相談相手

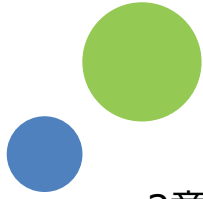


親と別居の住まいを検討する場合には、前ページの同居の場合とは異なり、殆ど、親との距離や関係に関する情報収集はなされていませんでした。

しかし実際には、親との近居を始めてみると、同居と同じような「干渉への不安」「何かと気を遣う」というような問題を感じている人たちもいることもわかりました。(P54-55)

親と同居をする時に、親とどのような距離感を持って暮らしていきたいのか、よく自分や家族の気持ちを考えるのと同じように、近居の場合にも、事前に親との暮らし方について情報を収集し考えておくことで、近居の暮らしをよりよく豊かにできるのではないのでしょうか。





2章 同居・近居 家事と子育ての親子コラボレーション調査

本章では、親・子世帯が、同居・近居・遠居を始めてから、どのように家事や子育てに関して協力関係にあるのか、その実態について比較をしながらみていきます。

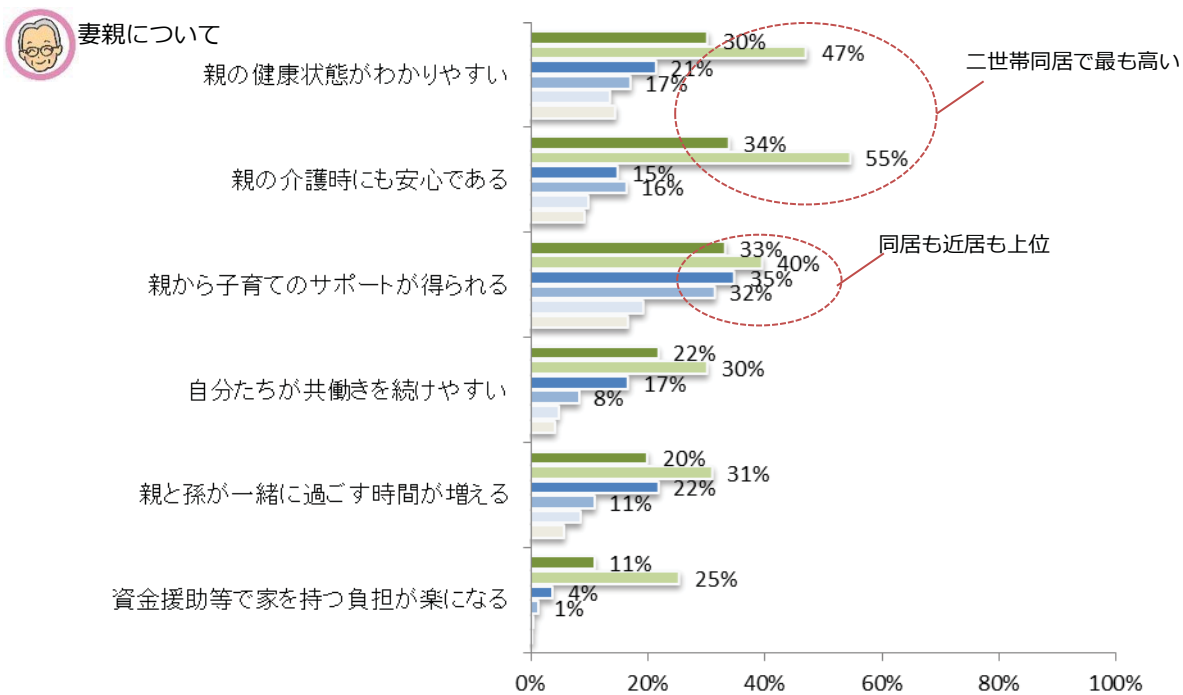
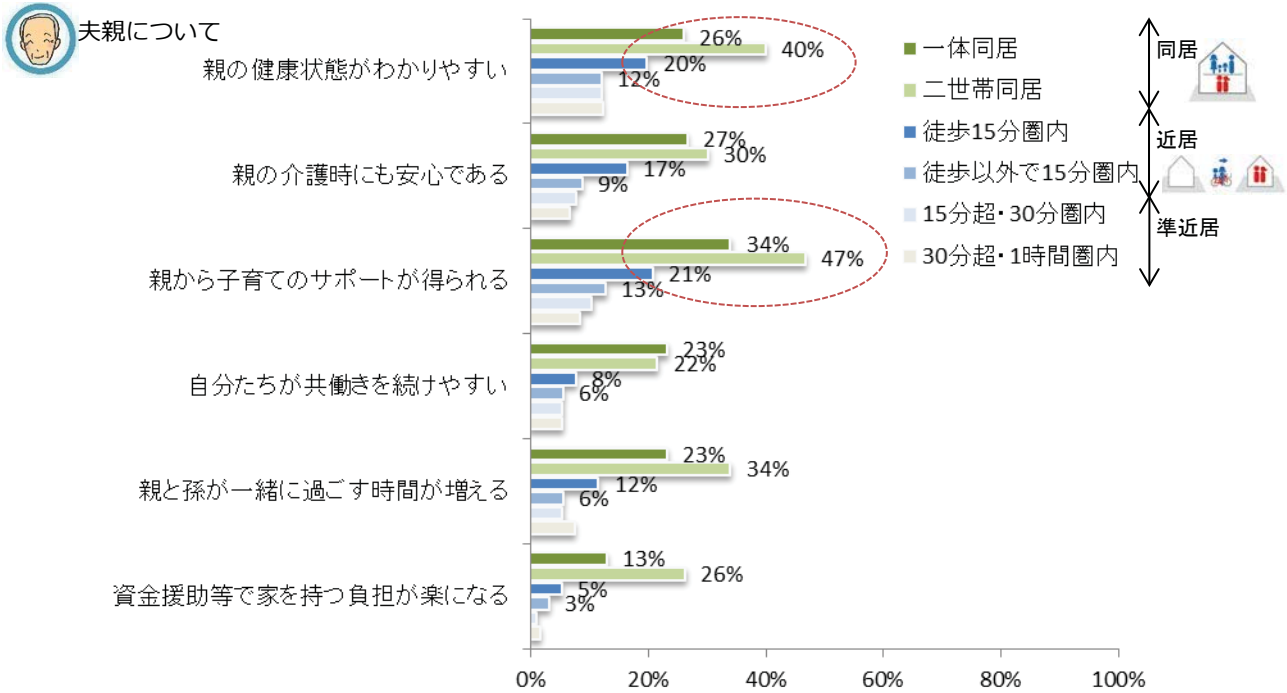
子世帯は、家事や子育ての協力意向や親の健康の心配や介護などを考えながら、またその他の仕事や学校関係も考えながら、それぞれの暮らしを豊かにするべく、親の住まいとの距離を選択している様子をお伝えしたいと思います。

1) 同居・近居の選択理由

子世帯が父親との距離を選択した理由1位は、二世帯同居も、近居も「子育て協力」
 妻親については、二世帯同居は介護時の安心が1位、子育て協力は、同居、近居に関わらず上位

- 二世帯同居も近居も、父親については割合の違いこそありますが「親から子育てのサポートが得られる」、「親の健康状態がわかりやすい」が上位の理由です。
- 妻親については、二世帯同居で親の介護・健康関係が5割前後の上位を占めています。子育て協力に関しては、同居・近居問わず、3~4割が理由として選択していることがわかります。

◇ 親との同居が良いと思う理由／近居・準近居を選択した理由



1) 同居・近居の選択理由

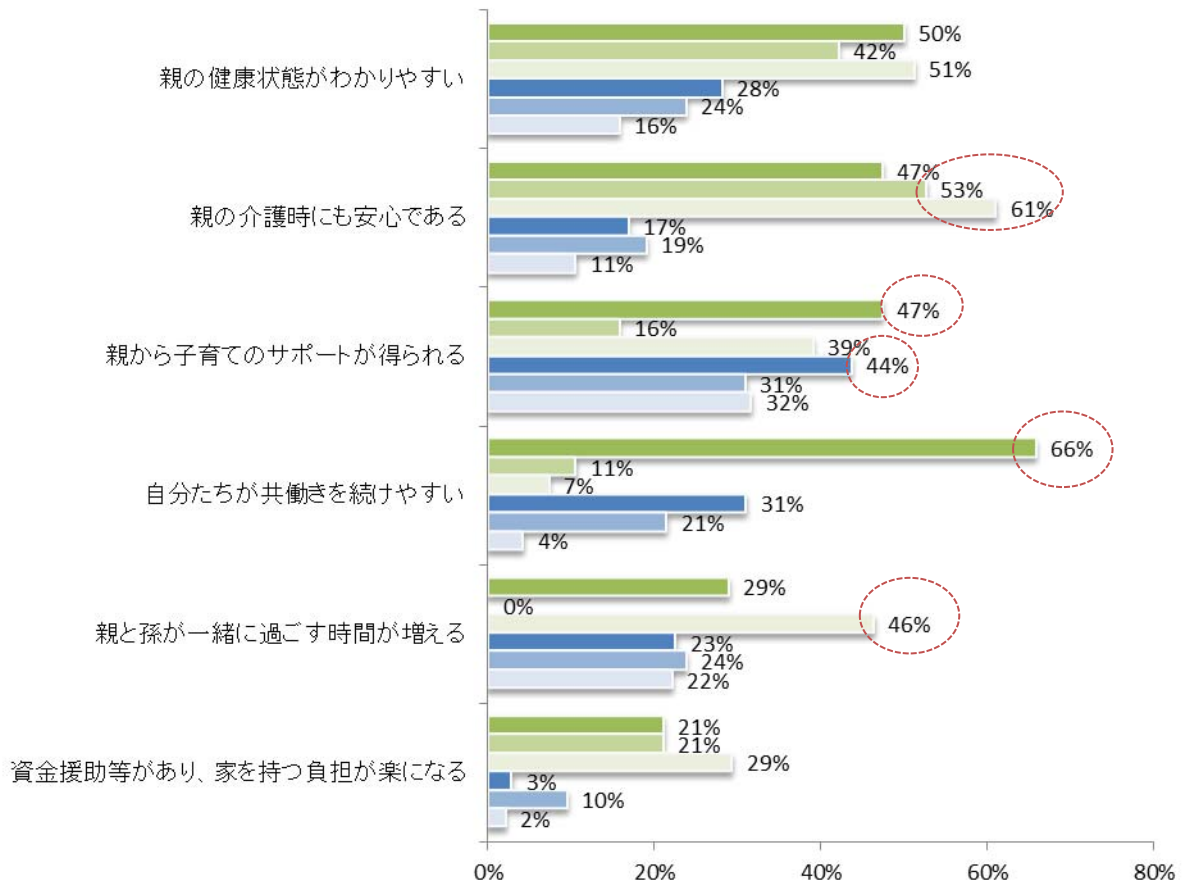



妻がフルタイム就業の娘夫婦同居世帯に限ってみると、二世帯同居選択した理由1位は「自分たち夫婦が共働きを続けやすい」66%

- 妻がフルタイム就業の場合でも、「自分たち夫婦が共働きを続けやすい」は二世帯同居と近居・準近居の選択理由としては大きく違い、二世帯同居が66%である一方で、近居・準近居は31%と少ないことがわかります。しかし「親から子育てのサポートが得られる」は二世帯同居と徒歩15分圏内近居の違いはほぼなく、同居では暮らし全般に親からの支援が得られる期待がうかがえます。
- 二世帯同居で妻がパートタイム・専業主婦の場合は、「親の介護時にも安心」が1位です。
- 「親と孫と一緒に過ごす時間が増える」は、二世帯同居で妻が専業主婦の場合に多い傾向(46%)がみられます。近居・準近居の場合には妻の就業状態に関わらず2割強が理由として挙げています。

◇ 妻の就業状態別 妻親との同居が良い理由・近居・準近居を選択した理由

- 二世帯同居フルタイム(n=38)
- 二世帯同居 パートタイム(n=19)
- 二世帯同居 専業主婦(n=41)
- 徒歩15分以内フルタイム(n=71)
- 徒歩15分以内 パートタイム(n=42)
- 徒歩15分以内 専業主婦(n=95)

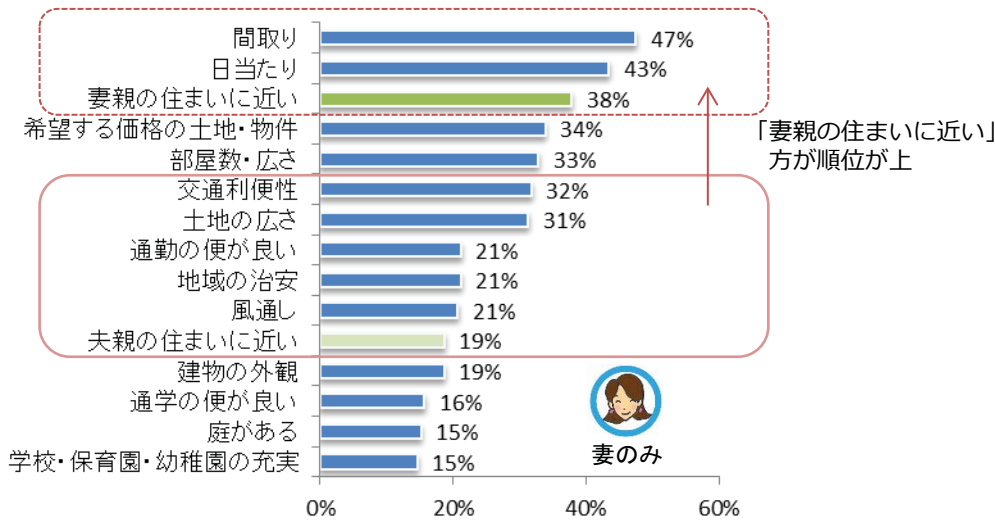
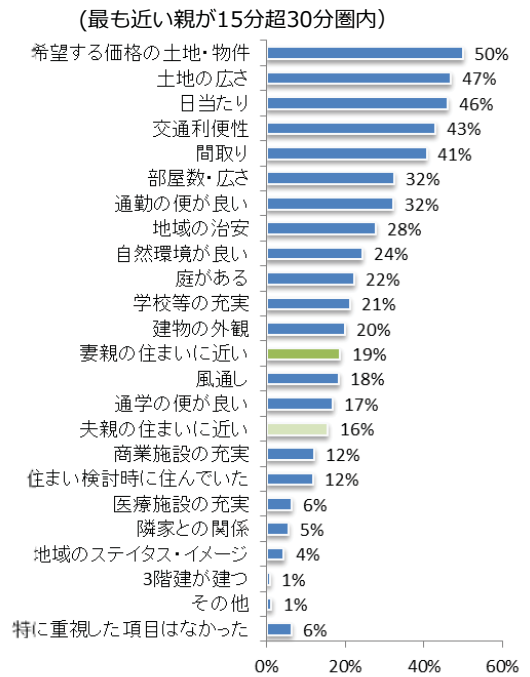
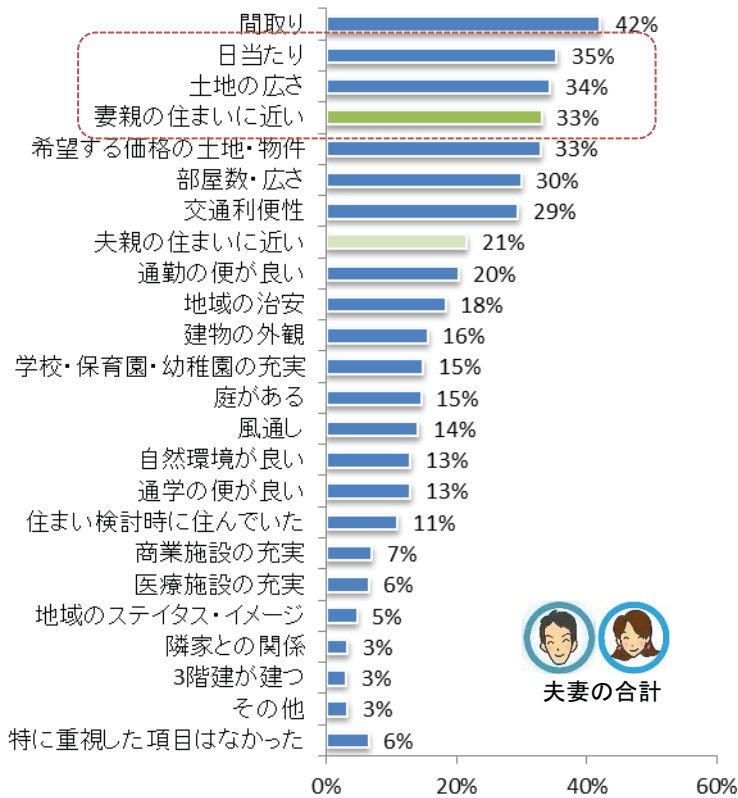



1) 同居・近居の選択理由 

親と徒歩15分圏内近居では、「妻親の住まいに近い」ことは住まい検討時の基本

- 親と徒歩15分圏内に近居をする人たちにとって「妻親の住まいに近い」ことは、「日当たり」や「土地の広さ」など同程度に、住まいの建設・入手時点で重視されています。
- 妻のみの回答に限ると、さらに「妻親の住まいに近い」ことを重視する割合は高くなり、「間取り」「日当たり」に次いで挙げられています。「交通利便性」「土地の広さ」「父親の住まいに近い」ことよりも重視されていることに着目されます。

◇ 住まいの建設・入手時の重視項目（最も近い親が徒歩15分圏内）



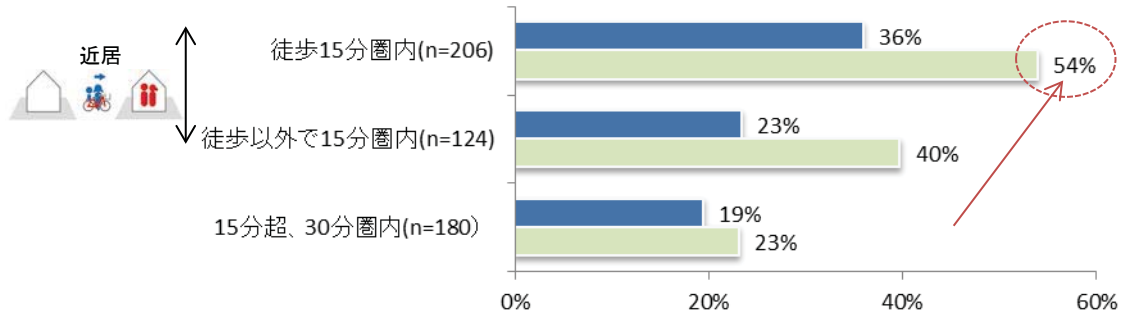
1) 同居・近居の選択理由 

夫親の住まいよりも「妻親の住まいに近いこと」を重視する人は、近居に多い

- 「妻親の住まいに近いこと」を重視して妻親と徒歩15分圏内を選択した人は54%で、夫親の場合より多く、妻親との関係をより意識している人が多いことが伺えます。

◇ 親との距離（入居時）と住まい選択時に親の住まいに近いことを重視した割合

■ 夫親の住まいに近いことを重視した割合 ■ 妻親の住まいに近いことを重視した割合

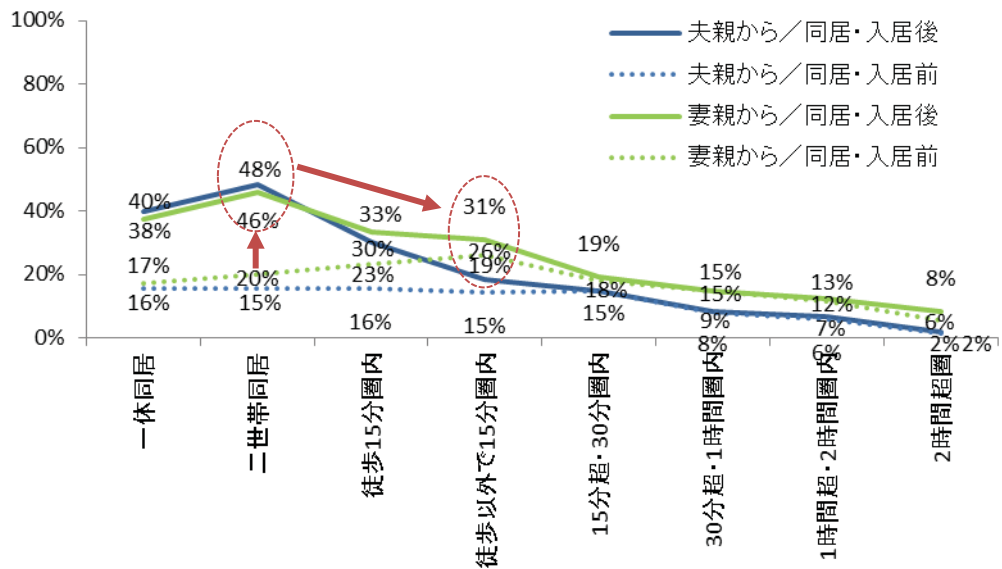


2) 親から子世帯へ、子育て協力の親子コラボレーション

夫親の協力は同居から徒歩15分圏内、妻親の協力は移動手段問わず15分圏内が子育て協力圏

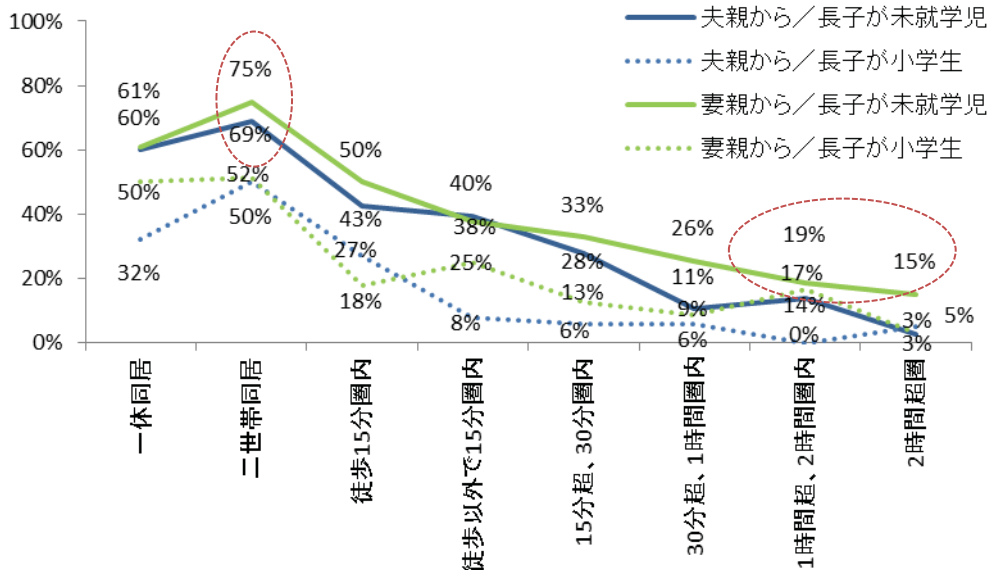
- 二世帯同居では、一体同居に比べて子育て協力の割合は高く、また同居前後での子育て協力の割合が、夫親・妻親に関わらず大きく上がる様子もみられます。
- 夫親の協力では「徒歩15分圏内」、妻親では「徒歩以外15分圏内」より遠くなると、協力割合が2割を切り、子育て協力の目安距離になっていると考えられます。
- 自宅の建設・取得前についてみると、妻親から子育て協力は「移動手段を問わず15分圏内」が最も多く、妻親と近居をしている場合には、自宅の建設・取得前から子育て協力が行われているようです。

◇ 親との距離別 親から子育て協力を受けている割合



- 孫(子世帯の子)が未就学児の場合には、娘夫婦の二世帯同居で最も多く75%、息子夫婦の二世帯同居では69%が同居親より子育て協力を受けています。一方で、妻親との距離が1時間を超えても2割近くの子育て協力がある点にも着目されます。
- 孫が小学生になると子育て協力は少なくなりますが、二世帯同居ではまだ50%を超える協力があります。

◇ 親との距離別 親から子育て協力を受けている割合 (長子が未就学児・小学生)



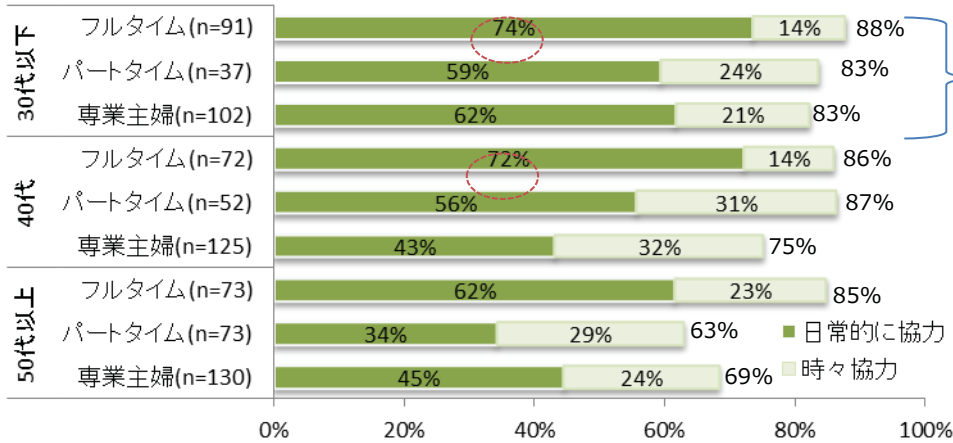
2) 親から子世帯へ、子育て協力の親子コラボレーション



子世帯が30代の同居の場合には、特に日常的に子育て支援を受けている

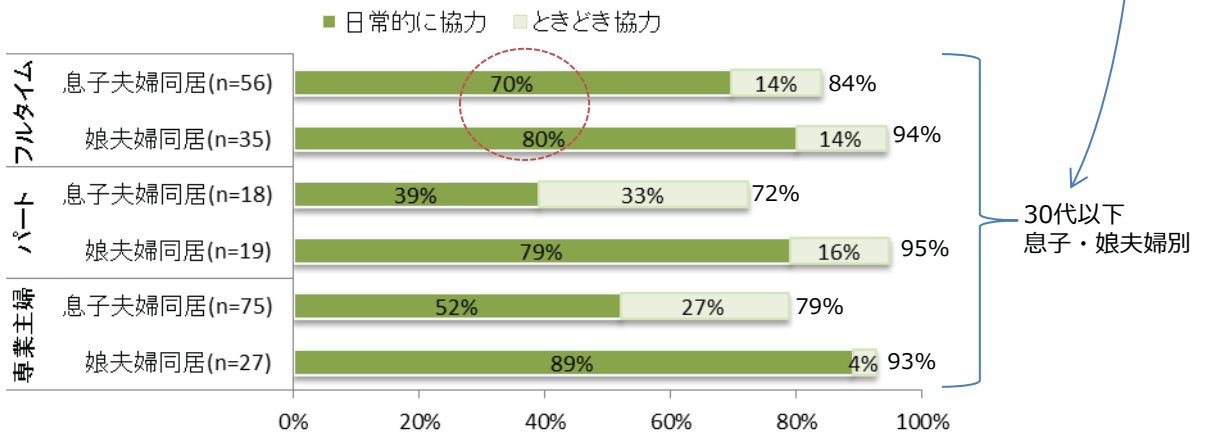
- 子世帯妻の就業状態別に、同居の子育て協力頻度をみると、フルタイム共働きは親世帯から「日常的に」子育て協力を受ける割合が高く、30代以下で74%（同居前から42ポイント増加）、40代でも72%（同居前から50ポイント増加）です。

◇ 年代・就業状態別 同居後の親世帯からの子育て協力頻度（※）




- 30代の妻フルタイム就業の場合には、娘夫婦同居と息子夫婦同居の協力頻度の差は、パート勤務や専業主婦に比べて小さくなり、息子夫婦同居でも70%が「日常的に」協力を受けています。

◇ 同居後の親世帯からの子育て協力頻度（30代以下、最も協力が深い時期の頻度）



※ 世帯が必要な子がいない場合を除く

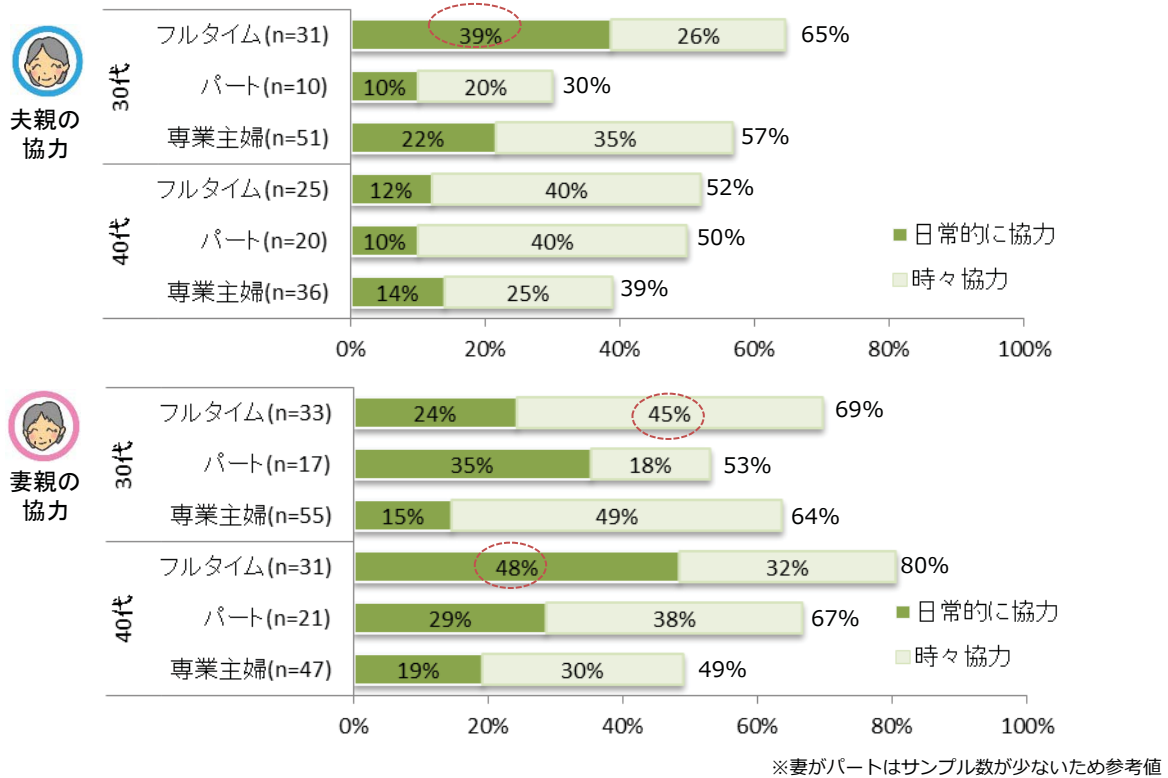
（※） 最も協力が深い時期の頻度

2) 親から子世帯へ、子育て協力の親子コラボレーション 

近居の親から受ける子育て協力は、妻が30代フルタイムの場合、父親から65%、母親から69%
妻が40代フルタイムの場合に最も協力割合が高く80%にのぼる

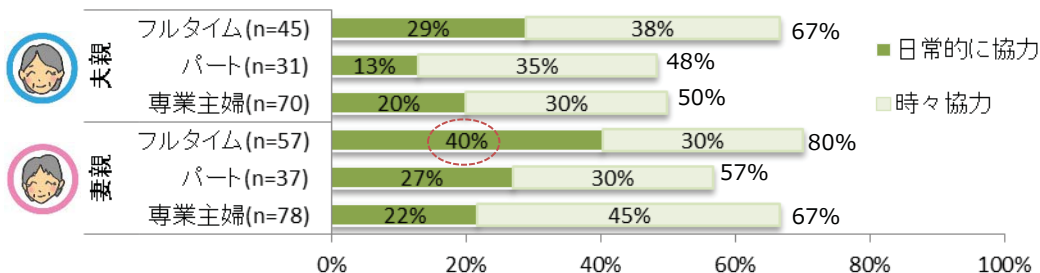
- 近居の親から受ける子育て協力は、父親と母親で「日常的に」協力を受けている傾向が異なります。父親には、30代の妻がフルタイム就業の場合が最も高く39%が「日常的に」協力を受けており、40代、50代になるとフルタイムでも大きく減少します。
- 一方、母親の場合には、妻がフルタイム就業の40代が最も「日常的に」協力を受けている割合が高く、30代は「日常的に」受ける割合が少なく「時々」受ける割合が高くなるという傾向がみられます。40代になると、子育て中と言えども、必ずしも家庭だけを優先できないことも増え、より共働き家族が助けを求めやすい母親に助けを求めることが多くなる、とも言えそうです。

◇ 年代・妻就業状態別に見た 近居の親から受ける子育て協力頻度 (※)




- 「徒歩15分圏内」に限って親から受ける子育て協力頻度を見ると、「日常的」+「時々」協力の割合は、父親と母親で大きな違いは見られません。
- 妻がフルタイム就業の場合には、「日常的に」協力を受ける割合が、母親でやや高く40%となります。

◇ 徒歩15分圏内の親から受ける子育て協力頻度と妻の就業状況



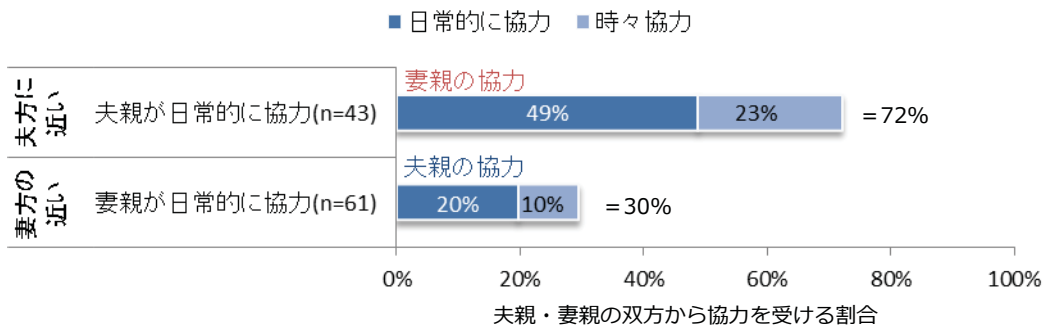
(※) 最も協力が多い時期の頻度

2) 親から子世帯へ、子育て協力の親子コラボレーション 

夫親に近く、「日常的に」子育て協力を受けている子世帯の5割は、妻親からも「日常的に」子育て協力を受けている = 両者から子育て協力を受けている

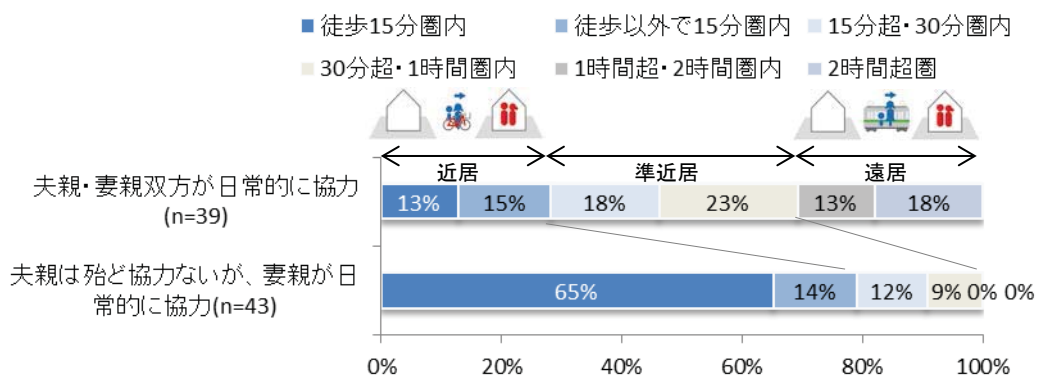
- 夫親に近く住み、夫親が日常的に協力している子世帯の場合には、妻親が日常的に協力をするのは49%でした。「時々協力」を加えると、72%が夫親から日常的に協力を得ながらも、妻親からも協力を得ていることがわかります。
- 妻親に近く住み、妻親が日常的に協力している場合には、夫親の関与は低くなります。

◇ 夫親と妻親からの子育て協力頻度の関係



- 夫親・妻親の双方から「日常的に」子育て協力を受けている場合、その妻親の住まいとの距離は、近居から遠居にわたり、全体的に分布をしています。妻親が遠居の場合も31%あります。
- 一方、夫親の協力は「ほとんどない」が、妻親からは「日常的に」子育て協力を受けている場合には、妻親の距離は「徒歩15分圏内」が65%と多数を占め、遠居のケースはみられません。妻親が近居で比較的頻繁に子育て協力が受けられる場合には、夫親の協力はほとんどないことが実情のようです。

◇ 夫親と妻親からの子育て協力頻度と妻親の住まいの距離

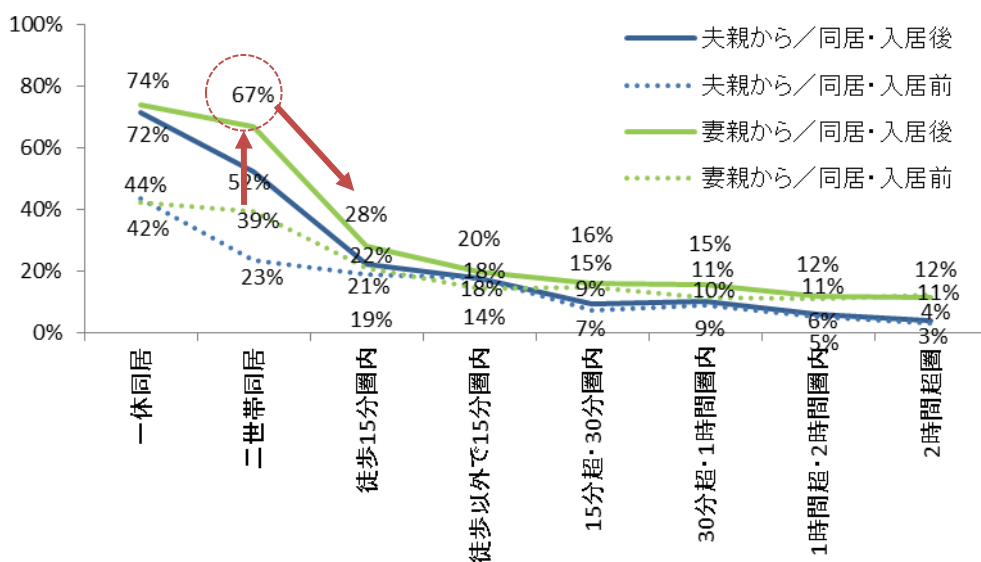



3) 親から子世帯へ、家事協力の親子コラボレーション

子世帯が親から家事協力を受ける割合は、同居で多く近居とは大きな違いがある
キッチンをそれぞれ専用にもつ二世帯同居でも64%が、親からの家事協力を受ける

- 親世帯から子世帯への家事協力割合については、子育て協力と異なり、同居と近居の間で大きな違いがみられます。
- また娘夫婦同居世帯は、同居前から4割前後が家事協力を受けており、かつ同居によって大きくその割合が上昇する様子がみられます。
- 二世帯同居の息子夫婦同居世帯は、同居前には約2割だった家事協力が、同居後には5割に上昇します。
- 一方で、徒歩15分圏内の近居でも親から家事協力を受けている割合は同居に比べて少なく、自宅への入居前後における協力割合の増加も僅かにとどまっています。

◇ 親との距離別 親から子世帯への家事協力がある割合（孫の世話を除く）

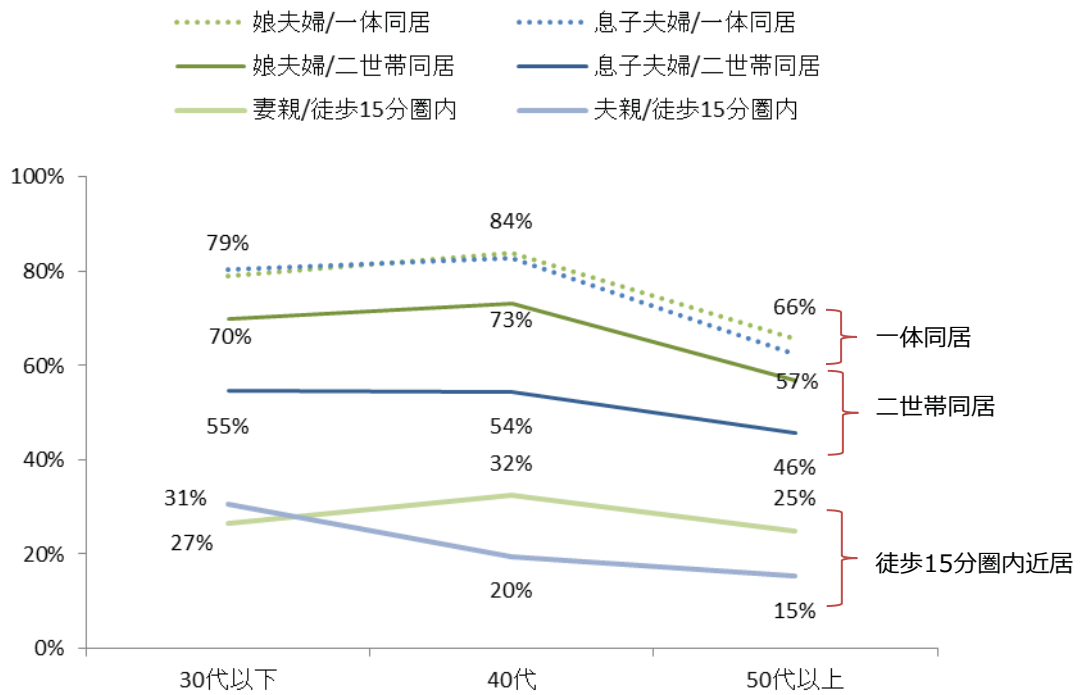


3) 親から子世帯へ、家事協力の親子コラボレーション 

最も家事協力を親から受けているのは、娘夫婦の一体同居40代で8割を超える

- 親から子世帯への家事協力は、全般に子世帯年代30-40代で高く、50代になると低くなる傾向がみられます。
- また、一体同居では夫親・妻親の違いは大きくありません。

◇ 年代別 親から子世帯への家事協力がある割合（孫の世話を除く）



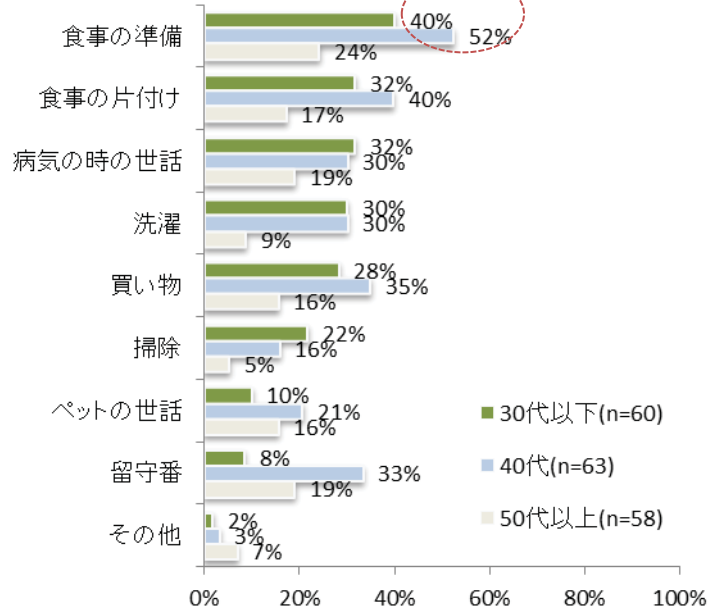
3) 親から子世帯へ、家事協力の親子コラボレーション



親から娘夫婦同居世帯への家事協力は「食事の準備」が1位

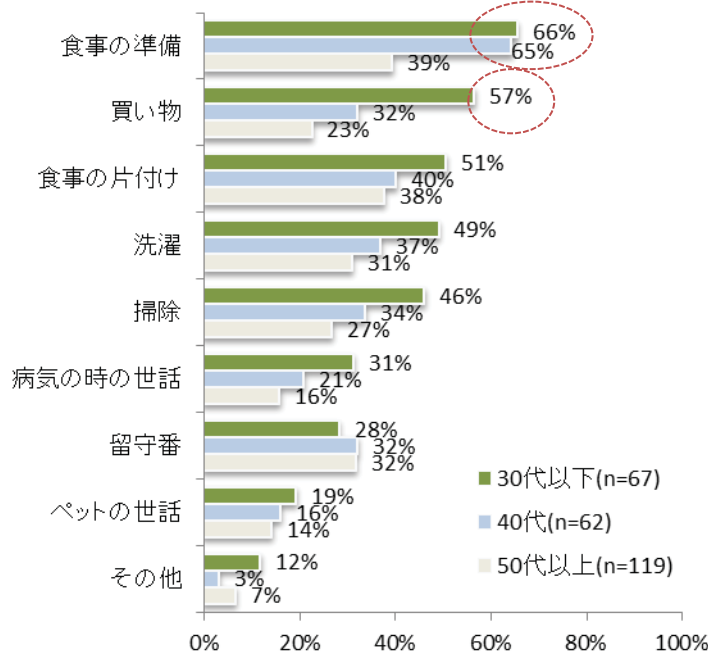
- 娘夫婦の二世帯同居では、親から「食事の準備」の協力が30代で40%、40代で52%あります。40代では「留守番」33%も他の年代と比較して多い傾向がみられます。

◇ 同居子世帯への家事協力内容（娘夫婦・二世帯同居）



- 娘夫婦の一体同居は、二世帯同居と比べて全般的に家事協力を受けている割合が高く、30代は66%が「食事の準備」を協力してもらっています。
- また一体同居30代は親世代が若く、生活用品を共通にしている割合も高いと思われるために「買い物」57%も他の世代と比較して多いと思われます。

◇ 同居子世帯への家事協力内容（娘夫婦・一体同居）



※ 年代は子世帯夫の年代

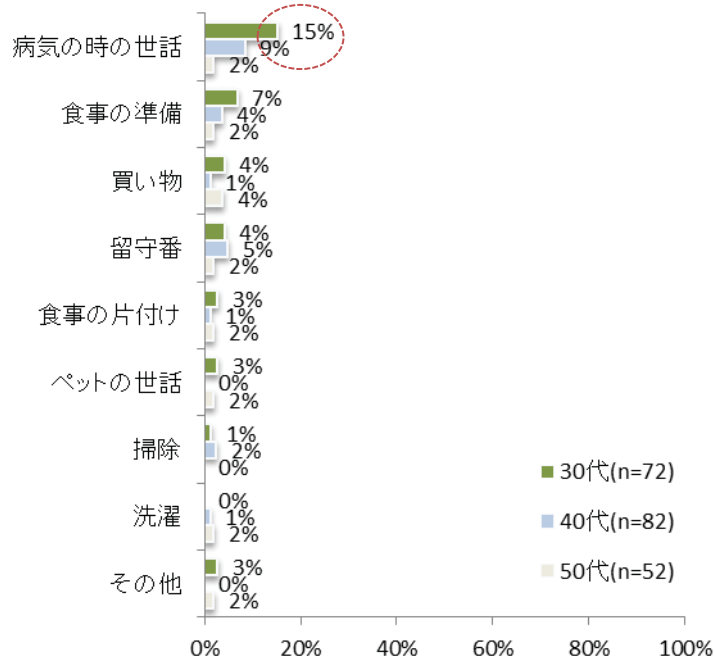
3) 親から子世帯へ、家事協力の親子コラボレーション



近居の場合には、同居に比べると家事協力は全般的にかなり少ない

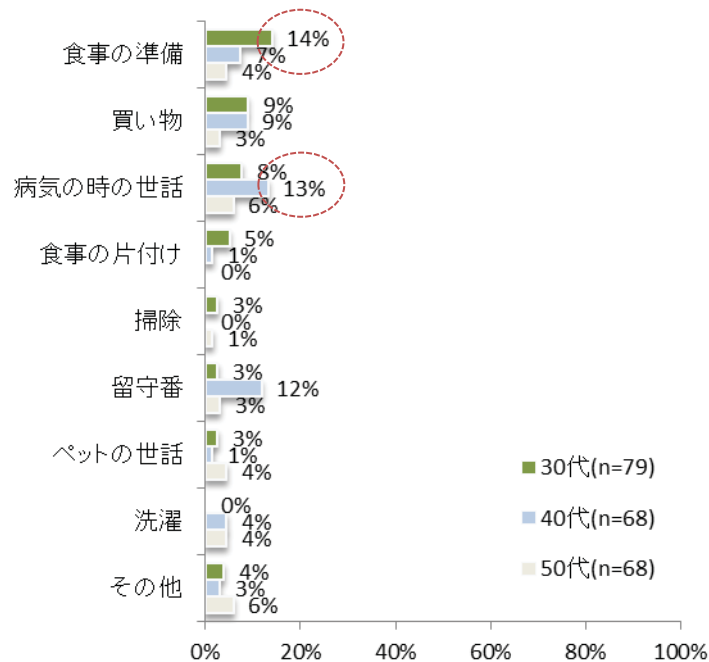
- 徒歩15分圏内に住む父親から受ける家事協力内容は30代で「病気の時の世話」15%が最も多く、同居のように「食事の準備」を協力してもらっている割合は7%に過ぎませんでした。

◇ 父親から近居の子世帯への家事協力内容（父親の徒歩15分圏内）



- 徒歩15分圏内に住む母親から受ける家事協力内容は、30代で最も多いのは「食事の準備」14%、40代では「病気の時の世話」13%でした。家事協力を得やすい近居の母親という印象をもちがちですが、同居と比較すると、ほとんど家事協力はなされていないと言えます。

◇ 母親から近居の子世帯への家事協力内容（母親の徒歩15分圏内）



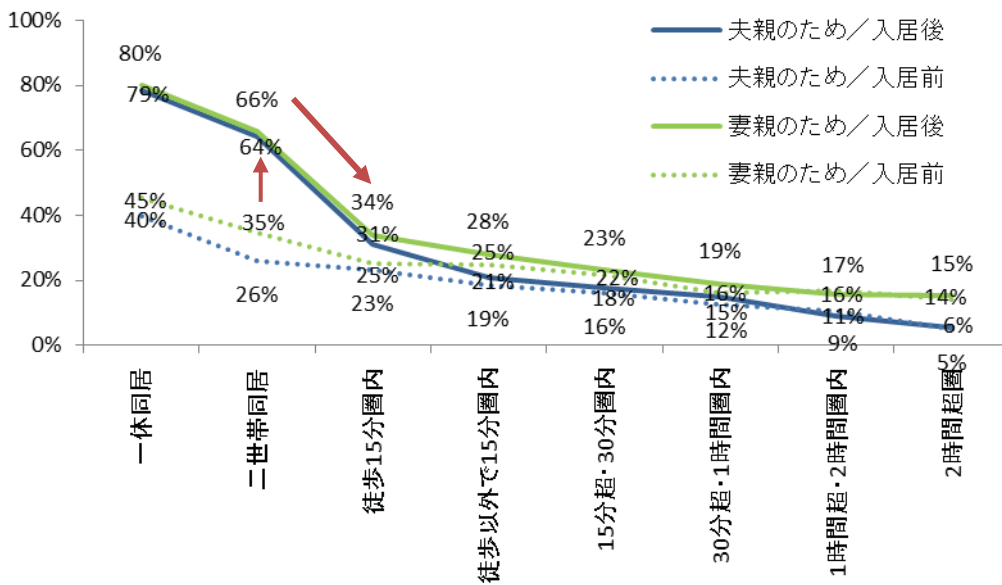
※ 年代は子世帯回答者の年代

4) 子世帯から親へ、家事協力の親子コラボレーション

子世帯から親への家事協力は、親世帯から子世帯への家事協力と同様、同居では多く行われており、物理的距離が大きく影響を与えている

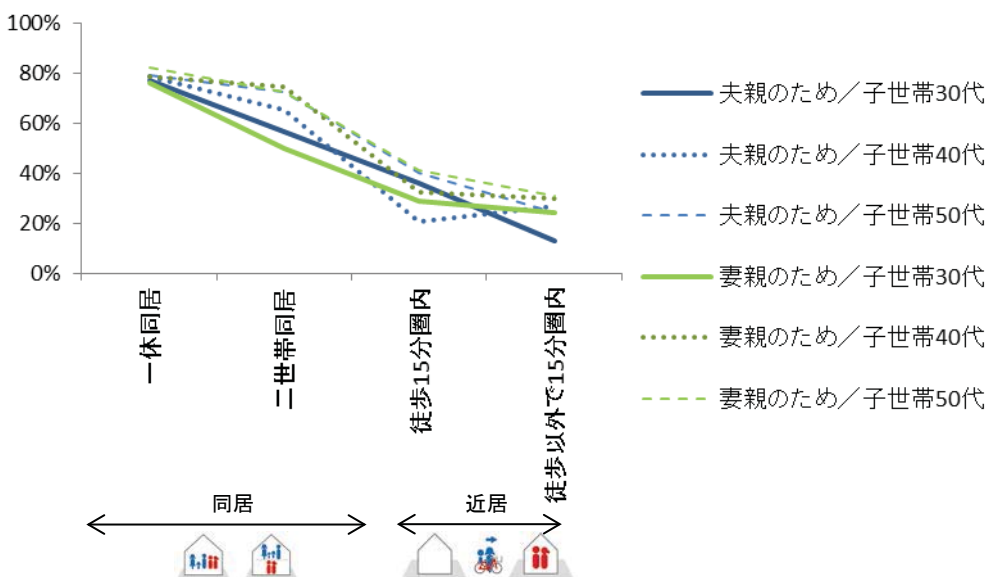
- 一体同居では8割程度、二世帯同居では6割強の子世帯が、親世帯の家事を行っています。父親・母親の違いがあまり見られません。
- 別居では親と徒歩15分圏内の距離においても家事協力は3割強にとどまり、物理的距離の影響が大きいようです。
- 同居前後での家事協力は約30ポイントと大きく増えますが、近居前後では10ポイント未満の増加にとどまっています。

◇ 親との距離別 子世帯から親への家事協力がある割合



- 子世帯の年代別にみると、親への家事協力は一体同居では子世帯の年代にかかわらず8割前後がなされていますが、世帯間の距離が離れる二世帯同居や近居では、50代がより親の家事協力を行っている様子がみられます。

◇ 年代別 子世帯から親への家事協力がある割合



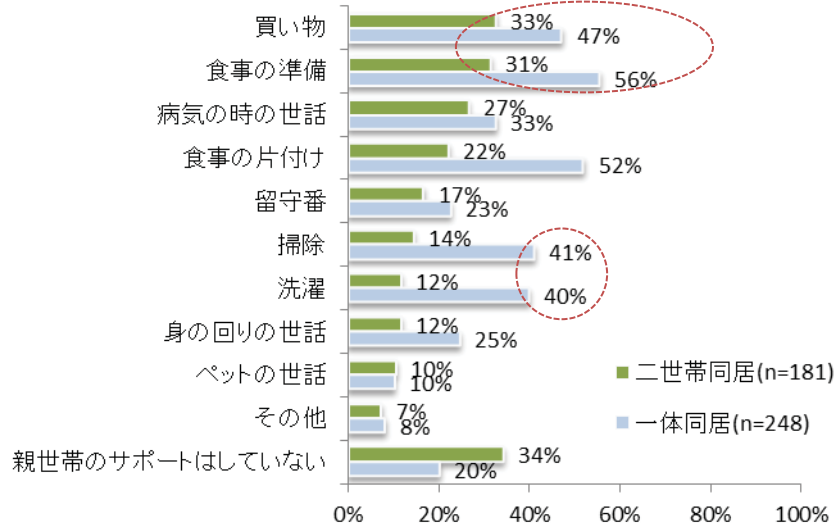
4) 子世帯から親へ、家事協力の親子コラボレーション



二世帯同居の娘夫婦は、親の「買い物」と「食事の準備」をすることが多い

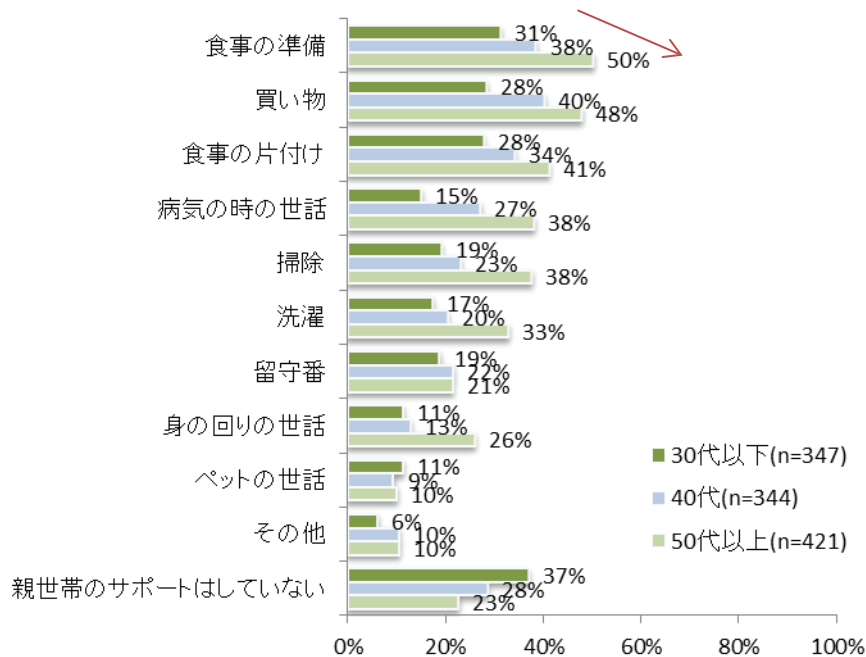
- 二世帯同居の子世帯から親への家事協力で最も多いのは「買い物」33%、次いで「食事の準備」31%です。実際に、訪問調査においても、娘夫婦の夫(婿)が車を出して、親世帯を買物に連れて行く様子よく聞くことがあります。
- 一体同居で最も多いのは「食事の準備」56%、次いで「食事の片付け」52%です。買い物や掃除、洗濯も4割を超えています。

◇ 同居親世帯への家事協力内容 (娘夫婦同居)



- 年代別に同居親世帯への家事協力内容をみると、年代が上がるにつれて、子世帯の家事協力が増える様子がみられます。

◇ 年代別 同居親世帯への家事協力内容



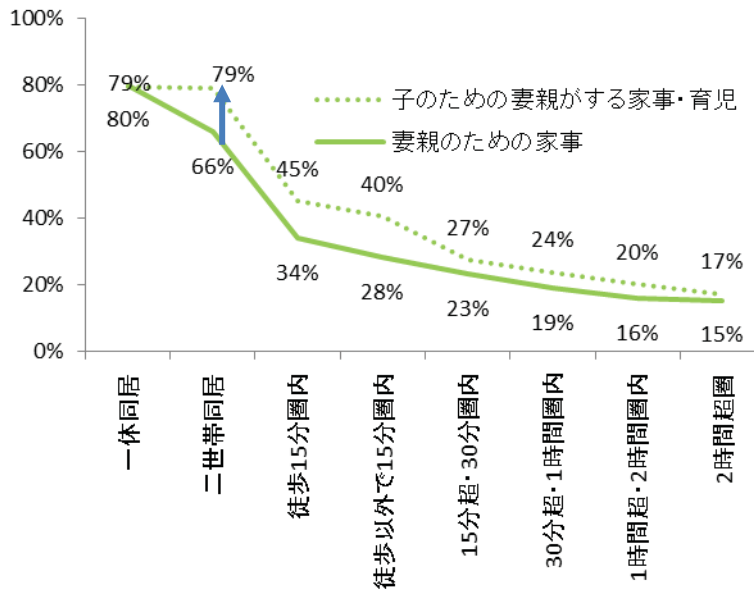
4) 子世帯から親へ、家事協力の親子コラボレーション



一体同居は、「子世帯のための家事・子育て」と「親のための家事」はギブアンドテイク

- 一体同居では、子世帯から親の家事、親から子世帯の家事・育児に関する協力割合が等しく、基本的にギブアンドテイクで暮らしが一体化している様子が伺えます。
- 二世帯同居、近居の親は、子世帯の家事・子育て協力はするが、自分たちのことは自分たちだけでする人たちが一定数います。

◇ 親との距離別 子世帯から親への家事協力・親から子世帯への家事・子育て協力がある割合

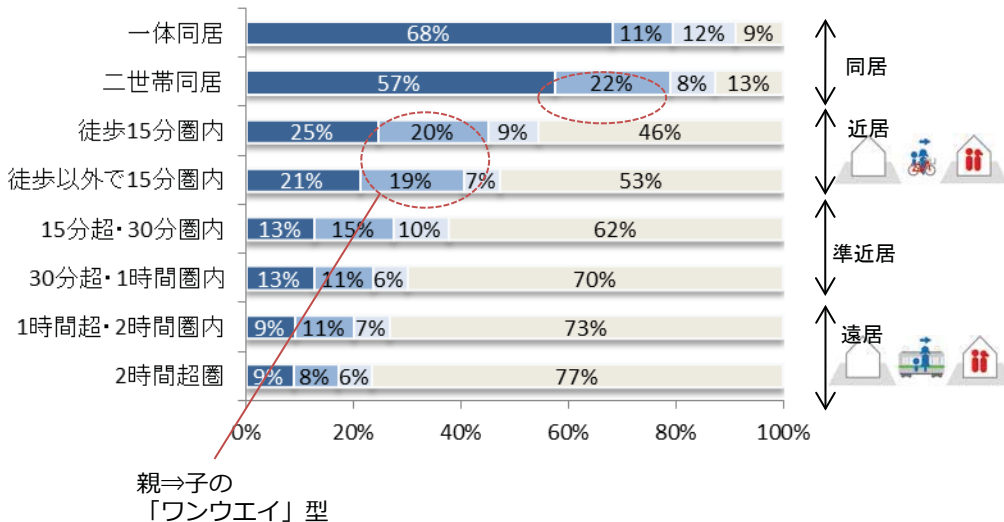




- 一体同居ではお互いに家事・子育て支援をしている双方向型が68%、二世帯同居では57%と最も多くみられました。一方で二世帯同居・近居では、2割の子世帯が親世帯から「ワンウェイ」型で家事・子育て協力を受けています。

◇ 妻親との距離別

子世帯から親への家事協力・親から子世帯への家事・子育て協力がある割合(娘夫婦)

- 妻親の家事もするし、家事・子育て協力も受ける
- 妻親の家事はせず、家事・子育て協力を受ける
- 妻親の家事はするが、家事・子育て協力は受けない
- 妻親の家事もしないし、家事・子育て協力も受けない

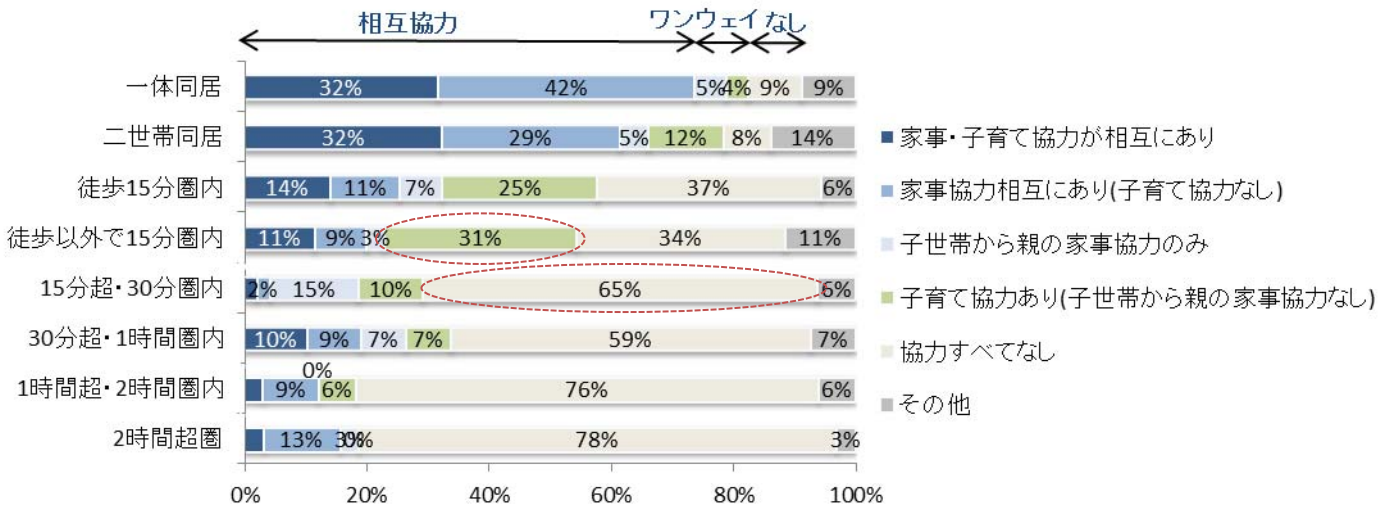


4) 子世帯から親へ、家事協力の親子コラボレーション  

妻がフルタイム就業の場合には同居・近居（～15分圏）で家事協力や子育て協力が起こりやすい
妻が専業主婦の場合には、同居／近居が家事協力・子育て協力の分け目

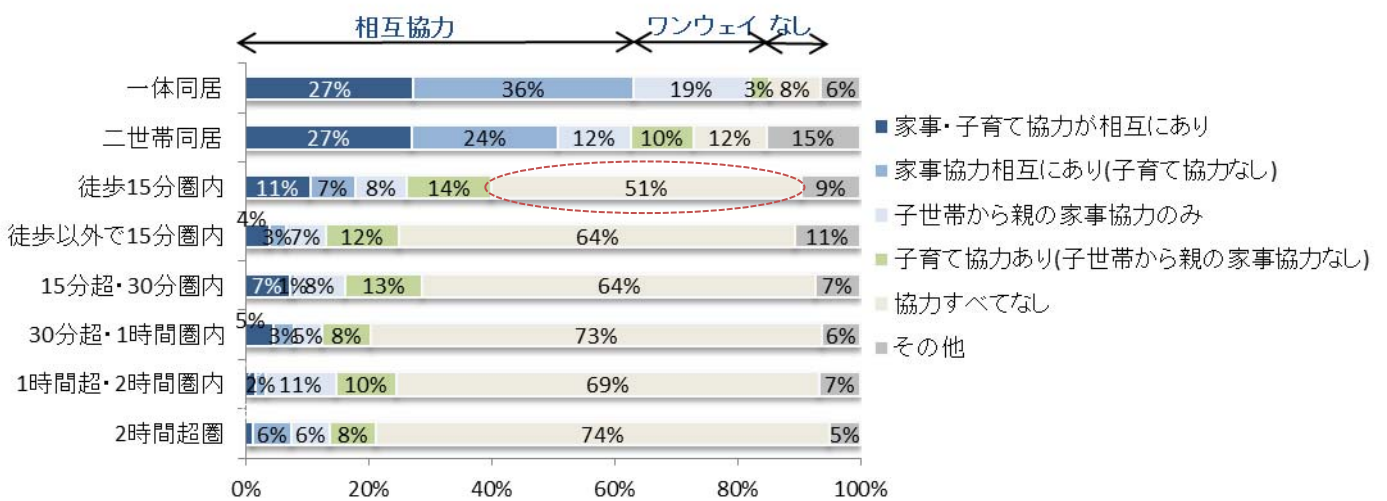
- 妻がフルタイム就業の場合には、妻親との家事・子育ての相互協力は同居で起きやすい様子がみられます。
- 準近居（15分超圏）を境に「協力すべてなし」が増加します。
- 妻親からの「ワンウェイ子育て支援（育児協力あり・子世帯から親の家事協力なし）」は、徒歩以外15分圏内の31%で最も多くなります。

◇ 妻親の住まいとの距離と家事子育てコラボパターン（妻がフルタイム就業）



- 妻が専業主婦の場合には、同居／近居が家事支援・子育て協力の分け目となっています。
- 妻親からの「ワンウェイ子育て支援」の割合は、親との距離にあまり影響を受けず1割程度います。

◇ 妻親の住まいとの距離と家事子育てコラボパターン（妻が専業主婦）



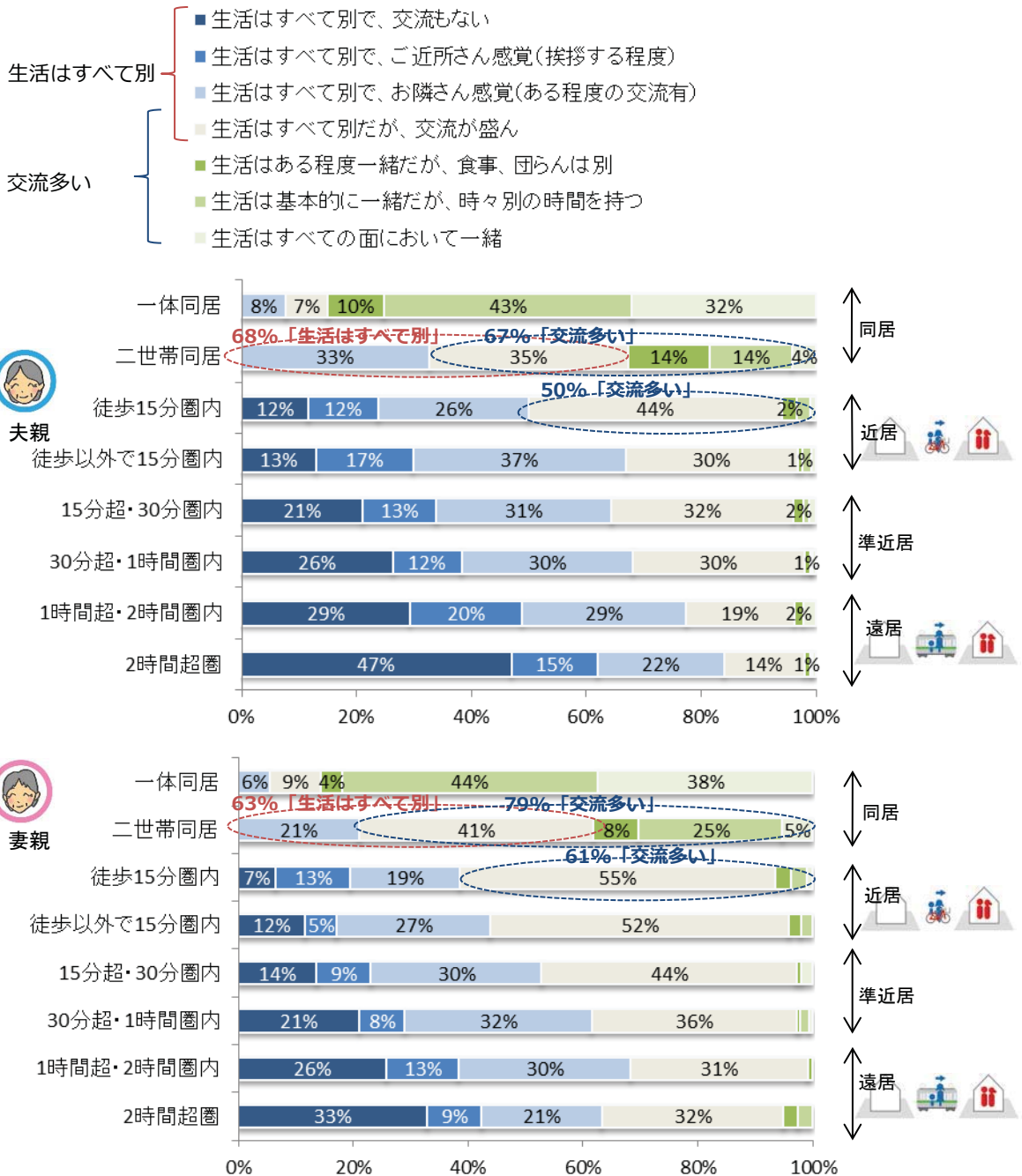
※ その他には「親から子世帯への子育て協力と子世帯から親への家事協力あり」「親から子世帯への家事協力のみのみ」が含まれる

5) 親と子世帯の交流パターン

二世帯同居で最も多いパターンは「生活はすべて別だが交流が盛ん」、暮らしの自立と交流を上手に組み合わせている

- 親と子世帯の交流パターンを見ると、二世帯同居では、息子夫婦の場合に68%、娘夫婦の場合に63%が「生活はすべて別」パターンです。
- 一方で、息子夫婦との二世帯同居の67%、娘夫婦との二世帯同居の79%が、交流多いと回答（＝「交流が盛ん+生活が一緒」）しています。
- 徒歩15分圏では父親で50%、妻親とは61%が交流が多い（＝「交流が盛ん+生活が一緒」）ですが、交流がないも1割前後います。
- 二世帯同居から近居、遠居と親の住まいとの距離が離れるにつれて、「生活はすべて別で交流もない」が増え、「生活がすべて別だが交流が盛ん」が減少し、その傾向は父親で顕著にみられます。

◇ 親との距離別 親と子世帯の交流パターン





3章 近居の住ニーズと二世帯住宅のコラボレーション

本章では、これまで1章～2章を通して見てきた、二世帯同居や近居における家づくりや家事、子育てに関する親子協力の実態をもとに、旭化成ホームズの家づくり提案についてご説明します。

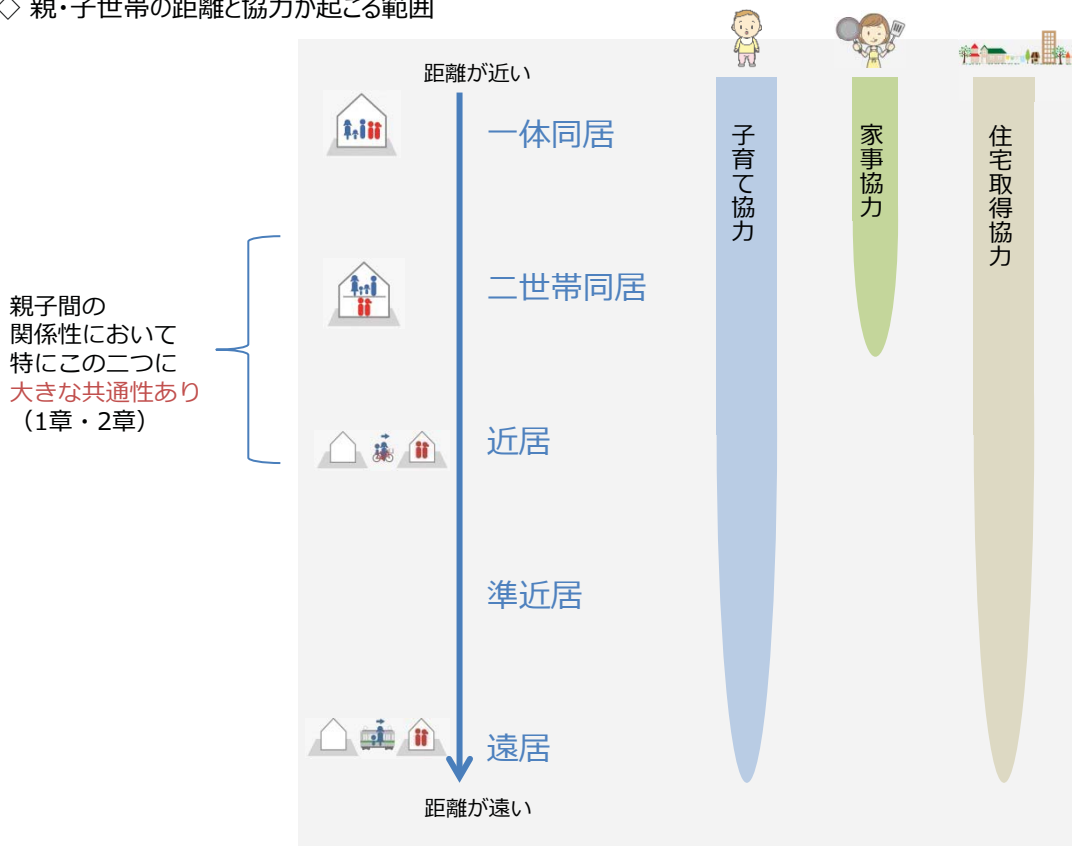
1) 住まいの距離を超えて広がる親子コラボレーション



二世帯住宅に近い住ニーズをもつ「近居」の暮らし

- これまで1章～2章を通して、二世帯同居や近居を中心に、家づくりや家事、子育てに関する親子協力の実態をみてきました。
- 本調査結果より見えてきたことは、親子の協力、親子コラボレーションが、住まいの距離を超えて広がっており、親と子世帯のそれぞれのライフステージや生活志向によって濃淡を交えながらお互いの暮らしを支えていることでした。
- そして、中でも「二世帯住宅」の暮らしと「近居」の暮らしには、親子の関係性とその結果として生まれる、暮らしの喜びや問題に大きな共通性がみられるということもわかりました。

◇ 親・子世帯の距離と協力が起こる範囲



- 親子の住まいの距離は、協力や交流、気兼ねのバランスのなかで選択されますが、ライフステージの変化のなかで、そのバランスも変化をします。家は、そのライフステージによるバランスの変化を上手に取り込み、それぞれの家族が豊かな関係性を続けられるような器となるものです。
- 旭化成ホームズでは、1975年に初めて二世帯住宅の提案をしてより、同居家族間の協力や交流の様子、また息子夫婦同居・娘夫婦同居に配慮し、二世帯住宅の建物分離度のパターンを広げながら提案をしてきました。さらには、弊社では当初より「親子同居の7原則」(P81参照)をかけた、親世帯と子世帯が一つ屋根の下に住む場合に、建物だけでなく、暮らしの心構えとしてどのようなことが大切なのかということをお伝えしてきました。しかし、実はこの7原則は、二つ屋根の下の近居の暮らしにも同様に通じるものでもあります。物理的な距離がすべての問題を解決しないことを認識したうえで、お互いの考えを確認してから近居を始めることで、現在の近居に暮らす人たちが感じているストレスを緩和することができると思っています。

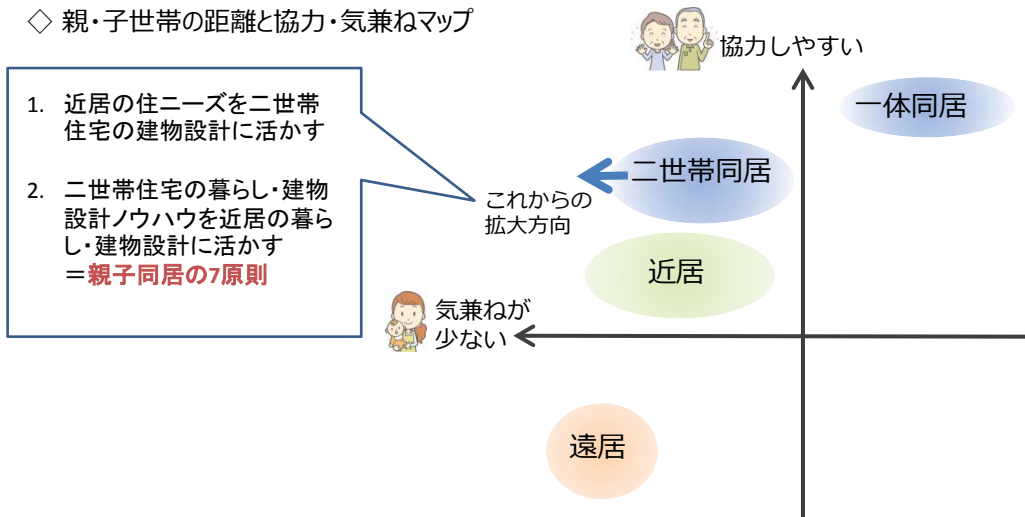
1) 住まいの距離を超えて広がる親子コラボレーション



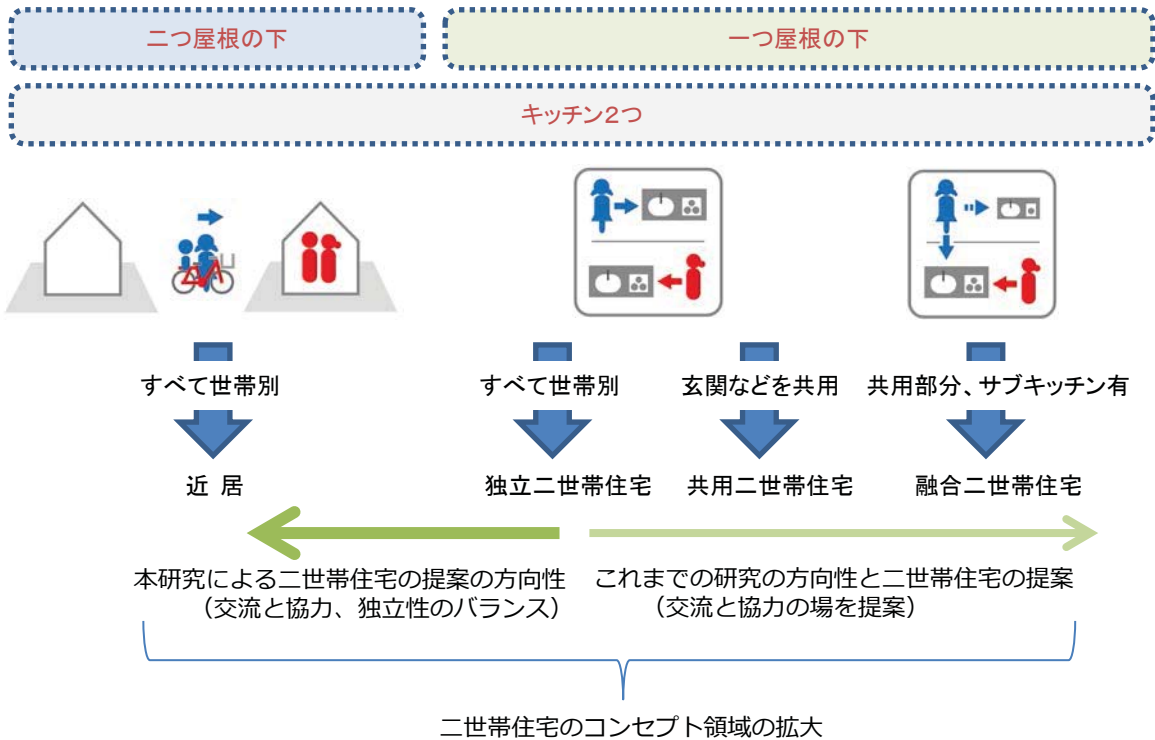
「近居」の暮らしにおける住ニーズを活かして、二世帯住宅のコンセプト領域を拡大、「二世帯住宅」における暮らし・建物設計のノウハウにより、「近居」の暮らしも豊かに

- 近居の住ニーズが、より二世帯同居に近いものである事実は、「独立二世帯住宅」からスタートし、これまで家族の交流や協力のある暮らしに対応して「共用・融合二世帯住宅」の方向性に拡大してきた旭化成ホームズの二世帯住宅が、もう一度、二世帯住宅の価値を再認識するきっかけとなりました。
- 二世帯住宅で培ったノウハウは、近居の住ニーズを満たすことでより厚みを加えるとともに、近居（あるいは親子協力が盛んな遠居までも）に二世帯住宅のノウハウを活かした新たな提案につながります。
- 次頁には「近居ニーズを取り込んだ分離度の高い独立型二世帯住宅プラン」の提案、そして本報告書と同時リリースの弊社共働き家族研究所の報告書には「二世帯住宅のノウハウを詰め込んだ、親子協力のある近居・遠居のための住宅プラン」の提案をしております。

◇ 親・子世帯の距離と協力・気兼ねマップ



◇ 本研究による二世帯住宅の提案の方向性（建物分離度）



2) 近居の住ニーズから生まれる二世帯住宅の提案

子育てを中心とした交流をしながら、世帯ごとの暮らしも独立性も保ちたい、より近居ニーズも取り込んだ分離度の高い独立型二世帯住宅

① 留守中に孫の世話を頼まれた親が子ども部屋に訪れても、子世帯のプライベート空間から分離しているため気兼ねがない「孫共育ゾーン」。

② デスクカウンターは、妻のスペースとしても便利。



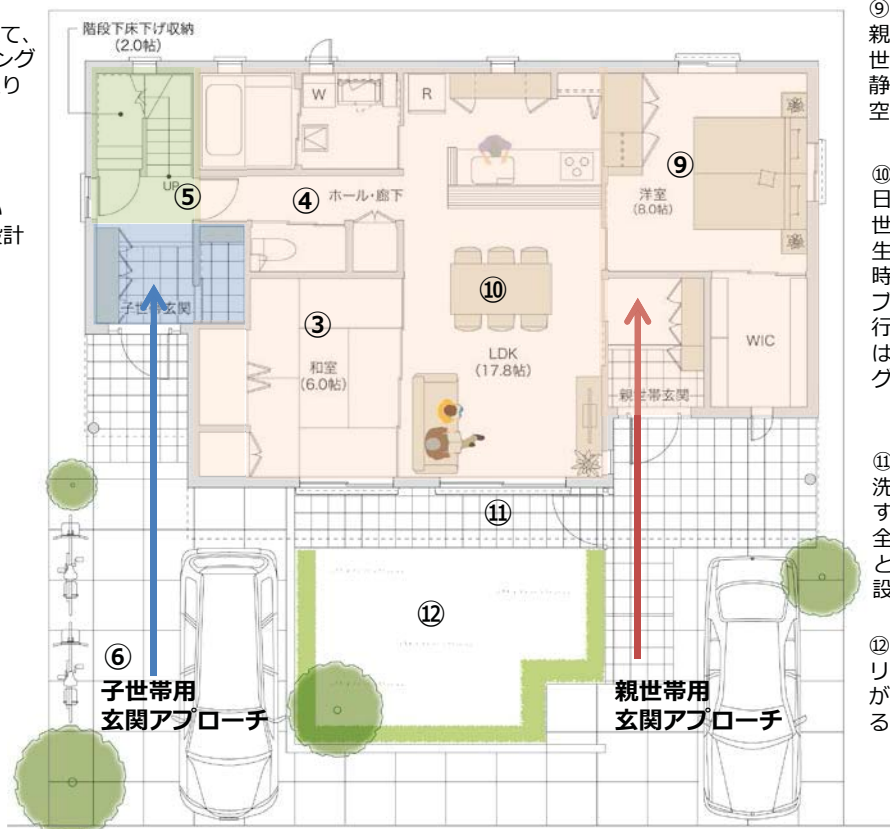
2F

⑦ 子世帯の主寝室に隣接した夫の書斎コーナーは、大人のこもれる場。

⑧ リビングクロークは、リビング周辺の雑多な物や非常用品を一括収納。

③ 将来介護に備えて、和室を1階リビングに隣接し、水廻りも近くに配置。

④ 引戸を多く使いバリアフリー設計に。



1F

⑨ 親世帯の寝室は、子世帯の動線から離し、静かなプライベート空間に。

⑩ 日常は、親世帯も子世帯も、自分たちの生活ベースで暮らし、時には、ビックテーブルで一緒に食事。行事を楽しむときには、親世帯のリビングと続き和室が活躍。

⑪ 洗濯物は庭や軒下に干すことができ、1階で全ての家事をこなすことができるワンフロア設計。

⑫ リビングからでも、孫が遊んでいる姿を見守ることができる庭。

⑤ 玄関、キッチン、浴室を親世帯・子世帯それぞれ専用にした独立二世帯住宅タイプ。親世帯の空間は、子世帯玄関ホールの扉でのみつながる。

⑥ 親世帯のリビングからも子世帯の玄関からの出入りが見えないため、家族も来客も気兼ねがない、子世帯専用の玄関アプローチ。



参考) 「二世帯住宅という選択」 旭化成ホームズ 二世帯住宅研究所 所長 松本吉彦 著より

親子同居の7原則



原則1 選択の原則

同居するかしないか、誰とどういう形であるかはそれぞれの家族の状況によって選択されるべし

社会習慣にとらわれず、息子、娘どちらと同居するか検討することに加え、同居か近居か、同居でも食事は別々か一緒かなど、多様な同居スタイルの中から、自分たちに合ったものを選ぶべきということです。

原則2 相互尊重の原則

親子両家族はお互いを尊重し合い、相互不干渉を原則にした協力関係を築くべし

孫共育など、協力関係が密接になるからこそ、基本スタンスとして独立した世帯であり、それぞれの世帯の価値観や文化があることを前提にして世帯間の関係を築き、相手の意向を尊重するという意識が必要でしょう。

原則3 自立の原則

お互い可能な限り依存せず身体的、精神的、経済的に自立すべし

交流や協力、そして世帯間共通の部分の効率化などは積極的に図りながらも、それぞれの世帯は相互に自立していなければなりません。

原則4 世帯間ルール確立の原則

肉親感情に代わる、生活上の役割分担など家族関係に応じた独自のルールを確立すべし

交流や協力を前提にするとき、行き来するときのインターホン連絡の習慣など、集まって住むためのルールは通常の家族以上に大切です。とくに金銭的なルールは明確に。家族会議の議事録を作成しているお宅もあります。

原則5 家族協力の原則

親も子も、世代・性別にかかわらず家族全員の理解と協力関係を築くべし

家族の協力を、すべてを頼ってはいけません。自分の責任は最大限に果たした上で、困っている家族がいたら全員が助け合うという姿勢が必要です。

原則6 扶養分担の原則

老親の扶養については同居する子夫婦だけでなく、すべての兄弟姉妹間で扶養を公平に保つ工夫をすべし

同居することは親世帯の将来について全責任を持つことではなく、別居している家族も含めて支えることが、費用面も含めて必要です。それでも同居の家族に多く負担がかかるなら、相続時の配分で考慮すべきでしょう。

原則7 社会連帯の原則

老親扶養は、家族から地域へと広がる協力関係の創出に向かうべし

介護は自宅内だけではできません。デイサービスなどが充実した現在こそ地域の施設と連携し、地域社会と交流して進めていきましょう。

調査報告書執筆者

旭化成ホームズ株式会社
くらしノベーション研究所長
二世帯住宅研究所長

松本 吉彦

旭化成ホームズ株式会社
くらしノベーション研究所
二世帯住宅研究所 主幹研究員

下川 美代子



調査報告書

家づくりにおける家族コンセンサス調査
同居・近居 家事と子育ての親子コラボレーション調査

発行： 2016年8月2日

発行所： 旭化成ホームズ株式会社
くらしノベーション研究所
二世帯住宅研究所

〒160-8345 東京都 新宿区 西新宿 1-24-1 エステック情報ビル
電話 03-3344-7045